

2

寺嶋家文書 (第一版)

第一部 系譜・屋敷・所有地

第二部 維新前後 (元治・慶應・明治初期)

第三部 草刈川堰・共同海岸堤防

第四部 訴訟・嘆願

2

寺嶋家文書（第一版）

第一部 系譜・屋敷・所有地

第二部 維新前後（元治・慶應・明治初期）

第三部 草刈川堰・共同海岸堤防

第四部 訴訟・嘆願

収録文書は、旧上総国市原郡八幡村（現 千葉県市原市）の寺嶋家土蔵二階に納められていた地方文書及び寺嶋家私文書（江戸から昭和初期）である。

文書は、かねて市原市教育委員会の手により、封筒に入れられ、各封筒に番号が付されている。

封筒は、茶箱三、木箱一、段ボール七、つづら一、手提げ紙袋一（計十三）に分けて保管され、現在は、千葉県文書館に寄託されている。（一部の文書は、封筒に収められないまま収納容器に収められているものもある。）

文書に付されている記号は、文書が納められている封筒に付された番号を示す。

また、写真番号は、文書の仮目録を作成するにあたり、デジタルカメラで撮影したものを示した。

本冊子は、寺嶋家文書仮目録（第二版）に基づき、テーマにしたがい、関連文書の解読を試みた。必要な知識も乏しいため、誤読・判読不能の箇所も多いが、可能な範囲で整理を試みたものである。

作成者：寺嶋滋夫（久次郎四男高矩長男）

武蔵野市関前 3-31-20

Email: sodou@par.odn.ne.jp

作成年月	西暦年	第一部 表 題	作成者	宛先	頁
寛政十年年	一七九八	相渡申書付之事(寛政十年年七月先庄五郎死去・・・)	石川権之進 坂尾覚太夫	百姓 庄五郎	1
寛政十一巳未正月	一七九九	覚 (組頭役備仰付之覚) 書附 庄五郎方江組頭役備被仰付候	坂尾覚太夫	百姓 庄五郎	1
寛政十二申年二月	一八〇〇	申渡之覚 (名主不在の間、村方取締を申付)	吉田 昇 坂尾覚太夫	組頭 平助、庄五郎	2
寛政十二申年壬四月	一八〇〇	申渡之覚 (名主・組頭の任命通知)	吉田 昇 坂尾覚太夫	庄五郎	2
文化五辰年九月	一八〇八	申渡候覚(名主役申渡) 状包み(文化五辰 名主庄五郎江被仰付書付入)	村上三十郎内 青地左仲	名主 庄五郎	3
文化八辛未年正月	一八一	覚(苗字帯刀御免) 状包み(書付苗字帯刀御免 庄次郎記 文化八未正月)	木村文太夫 青地左仲	庄五郎	3
文政二卯年十月	一八一九	乍恐以書付奉願上候 (病身のため名主休役を願出)	名主 庄五郎	御地頭所様	4
文政三辰年十二月朔日	一八二〇	申渡之覚 (家出人相尋の申渡)	岡村武助 木村文太夫	八幡村役人中 御地頭所様御出役 久米多甚	5
文政五年午十一月	一八二三	差上申御請書之事 (名主休役を許される)	八幡村 名主 庄五郎	八幡村役人中	5
文政五年午十一月十日	一八二三	乍恐以書付奉願上候(名主退役を願出)	八幡村 名主 庄五郎	御地頭所様御役人中	5
未七月二十八日		預り申一札之事(後名主に書類を引継ぐ)	名主 源右衛門	元名主 庄五郎	6
天保十四卯年壬九月	一八四三	覚(組頭役に補任) 状包み	信田傳之進 岡村保左衛門	庄五郎	7
安政五年午四月	一八五八	書状(苗字御免を申渡す) 乍恐以書付奉申上候(苗字御免辞退を願出る)	青竹伴藏 (由次郎)	八幡村 組頭 由次郎	7
明治二巳年五月十四日	一八六九	覚(後名主へ書類を引継ぐ)	立命寺 四郎七 名主源右衛門市兵衛 組頭源八 百姓代与平次	元名主 好次郎	8
明治七年十月十七日	一八七四	入籍願 御届書 (久次郎の婿養子入籍願)	寺嶋里う	旧 正副戸長御中	9

作成年月	西暦年	第二部 表題	作成者	備考	頁
元治元子年六月十八日	一八六四	差出申押見書之事 (借用金滞納分の返済を約束)	八幡村 年寄 嘉平次 名主 由次郎、組頭 藤右衛門	勝藏代 甚兵衛	21
元治元子年六月	一八六四	書状一部 (貸金取立の訴訟)	訴訟人 甚兵衛 家主 元七	御奉行所	22
元治元子年十一月	一八六四	入置申一札之事 (田畑譲渡に伴う諸役上納を引受)	権右衛門	名主 由治郎	22
元治元子年十二月	一八六四	差上申済口一札之事 (田地争いを円満に収めた報告)	訴訟人 上布施村半左衛門	市右衛門 彦兵衛、正作	23
元治二乙丑年四月	一八六五	差出申御請書之事 (御用金を分割して上納を誓約)	清右衛門、庄蔵、辰之助 新五郎、桑次郎、兼七、重介	御番所	24
元治二丑三月二十九日	一八六五	書状一部 (返済の約定を当事者間で折り合う)	願人 勘兵衛	御番所	24
元治元子年十月	一八六四	議定書(差出申一札之事)	三十五名連署	御番所	25
申元治元子年三月	一八六四	関東御取締御出役様方より 浪士一錠銘々限罪科始末書 写			25
元治二巳丑年正月十一日	一八六五	出府諸訴出扣帳			26
慶応元年丑八月	一八六五	乙慶応元年丑八月 関東御取締書類留	寄場大惣代 八幡郷二八ヶ村組頭		26
慶応元丑年八月	一八六五	乍恐以書付奉喚願候 (鉄砲所持の村人の釈放願)	本郷村 村人惣代 組頭 久兵衛	御取締 木下成巳平 安原森作 木村信一郎	27
慶応元丑年七月	一八六五	請書連印帳(申渡一札之事)	三十七名連印		27
慶応元丑年八月	一八六五	乍恐以書付奉喚願候(雲水の赦免願)	先船村 役人惣代 年寄名主 喜兵衛外二名	関東御取締御出役 安原森作	27
慶応元丑年十月十六日	一八六五	差上申一札之事 (穀屋共居宅打毀につき吟味)	茂呂村 組頭 治郎吉外六名	御評定所	29
慶応元年巳十月	一八六五	相渡申質地証文之事 (年貢不納につき質地を渡す)	質地主 半五郎	徳右衛門	29
慶応二寅年丑三月	一八六六	乍恐以書付奉申上候 (八幡宮社海面地先の使用)	当八幡村当御支配所 河野伊予守		30

作成年月	西暦年	第一部 表題	作成者	宛先	頁
明治十八年一月十三日	一八八五	当撰状(八幡宿惣代人に当邊)	八幡宿外四か村戸長	平民 寺嶋久次郎 安政四年五月二五日生	9
明治十八年七月二十二日	一八八五	解職願(八幡宿惣代人) 解職願(村会議員と宿惣代人)	寺嶋久次郎	八幡宿外四ヶ村戸長 島野也八郎	10
明治十八年七月	一八八五	寄留御承認願	寺嶋久次郎	八幡宿外四ヶ村戸長 島野也八郎	10
明治十八年十一月十八日	一八八五	市原郡八幡宿外四ヶ村戸長役場筆生申付	戸長役場	寺嶋久次郎	11
明治二十年十月二十六日	一八八七	八幡宿学事世話掛ヲ委託	千葉郡役所	寺嶋久次郎	11
明治二十六年二月二十日	一八九三	書状(明治二十六年二月十七日焼失 造石税免除) 封筒	千葉県千葉間税分署	醬油製造人 寺嶋久次郎	12
明治二十六年二月十七日	一八九三	免税願	寺嶋久次郎	千葉県知事	12
宝暦五年巳亥正月	一七五五	所有土地図面 明和年中より			13
安永六年酉二月吉日	一七七七	土蔵普請請入用之帳 土蔵工事費領収書綴(間口ツマ式間半 桁行五間)	上総八幡村観音町 河内屋庄五郎	寺嶋庄八 (木札 安永六年、天明六年)	13
天明五年二月	一七八五	河内屋住居屋敷絵図			15
明治二十六巳年二月	一八九三	寺嶋家母屋建築図面(建坪十九坪七合五夕) 本家新築諸事扣帳、本家新築請取 家系図(寺嶋家・嶋田家)	八幡町一三五〇番地 寺嶋久次郎		16
		寺嶋家過去帳			17
		年表(江戸・明治)			19

作成年月	西暦年	第二部 表 題	作成者	備考	頁
明治二巳年五月吉日	一八六九	覚(名主書類引継)	立会人 團屋弥七 名主 徳右衛門 市兵衛、組頭 八 百姓代 平次	元名主 好次郎	45
明治二年巳四月	一八六九	送り一札之事(村人転居に伴う人別移転)	西小笹村 妙福寺		44
明治二巳十二月二十二日	一八六九	覚(山年貢を受取)	高倉村 名主 平内	八幡村 川内盛	44
巳十月	一八六九	御頼申一札之事(御陣屋の建築費用を負担)	名主 忠兵衛外五名	御名主 好次郎	44
明治元年辰十二月	一八六八	上 願書(収納米引当御膳を先納)	右宿 名主 . . .	知果事御役所	43
明治元年辰十一月	一八六八	人別送り状之事(転居先に連絡)	名主 好次郎	宮谷御役所	42
明治元年辰十二月	一八六八	上 (土地の申告)	通達郡 西小笹村 名主 佐兵衛	八幡村御役人中	42
明治元辰十一月	一八六八	願上(先納分の容認願)	名主 久平	民政御役所	41
慶応四辰年正月	一八六八	奥印帳(願申屋敷証文之事)	百姓代 吉三郎、組頭 藤八 藤右衛門、名主 好次郎	御領主 権御役所	40
慶応四辰年七月	一八六八	上 願書(当辰御膳分上納願 写)	名主 好次郎	知果事御役所	40
慶応四辰年七月	一八六八	知果事御役所提出書控			39
慶応四辰年正月	一八六八	関門御取事二付御触書写 八幡村			39
慶応四年	一八六八	御高札建替之触届 写			39
慶応四年	一八六八	披仰渡候御趣意速印請書			39
辰二月二十一日	一八六八	覚(出府入用金を受取)	惣代 源七郎	御名主 好次郎	39
辰壬四月	一八六八	覚(白米受取)	佐倉 栗原 庄太郎、三浦 弥十郎、小野林之助	八幡村 名主 好次郎	38

作成年月	西暦年	第二部 表 題	作成者	備考	頁
慶応二年寅十二月	一八六六	富寅御用捨米并御符借米勘定帳			34
慶応二寅正月二十三日	一八六六	上 八幡村 (差上申木銭証文之事)	名主 好次郎	三輪 鎮次郎	31
慶応二寅年四月	一八六六	借用申扶食金証文之事(扶食金を借用)	借用主 文三外七名	市右衛門 彦兵衛、正作	31
慶応二寅正月	一八六六	譲渡田地流地証文之事(田地を賃入)	地主 半五郎	徳右衛門	32
慶応三卯年正月	一八六七	差上申一札之事(河岸の使用)	当人 秀七外三名	御取帳 市右衛門、好次郎、徳右衛門	32
慶応三卯年八月	一八六七	詫一札(所業を詫びる)	長五郎	御名主 好次郎	33
慶応三年卯九月	一八六七	願書之事(出稼人の世話を依頼)	通達郡 西小笹村 名主 利左衛門	八幡村御役人中	34
慶応三卯三月	一八六七	御請書速印帳(御取寄之事)			34
辰正月六日	一八六八	覚(慶應三丁卯年六月 . . .)	村上 組年寄 喜平次、名主 好次郎、組頭 藤右衛門、助 藤右衛門、百姓代 吉三郎		34
慶応四辰辰年正月	一八六八	触 写(市在御締之 . . .)	関東御取締出役(印)		35
慶応四辰辰年正月	一八六八	差上申一札之事(年貢などの上納を約束)	利兵衛	村上 権御組御役人中	35
慶応四辰辰年正月	一八六八	申合一札之事(出府嘆願を申合)	名主七名		36
慶応四辰辰年正月	一八六八	届書	名主 源右衛門外六名	阿野 对馬守	36
六月二十八日	一八六八	覚(給金を問屋に支払)	問屋 弥七	御名主 好次郎	37
辰六月二十九日	一八六八	覚(塩請負の代金立替)	問屋 弥七	御名主 好次郎	37
巳二月十五日	一八六八	覚(給米受取)	問屋 弥七	御名主 好次郎	38
八月二十五日	一八六八	覚(給金受取)	問屋 弥七	御名主 好次郎	38

作成年月	西暦年	第二部 表 題	作成者	備考	頁
西暦二年五月吉日	一八六六	御年貢老人別割附帳	村上組 名主 寺嶋好次郎		59
慶応元年丑八月	一八六五	乙慶応元年丑八月吉日 御年貢米取立帳			58
慶応元年丑七月吉日	一八六五	御年貢米請取帳	河内屋庄五郎		58
元治二二年十二月	一八六五	當卯歳御物成勘定目録 八幡村	百姓代古三郎、組頭見登助、 組頭藤右衛門、名主好次郎	八幡	58
慶応三年卯十二月日	一八六七	門々国役金 村組入用割合帳	百姓代古三郎、組頭藤助、 同藤右衛門 名主好次郎		58
慶応三年卯十二月日	一八六八	門々国役金 割合取集帳	百姓代古三郎、組頭藤助、 同藤右衛門 名主好次郎		58
慶応三年卯二月	一八六七	新開場御見分御改御廻村之節 村組入用割合取集帳			58
		新開場所請地除地覚 八幡村			57
		書上(報告する)	名主 好次郎		67
		土地明細(名主 久平組 地主好次郎持)			56
		米雜穀有高取調書 村上組	名主 好次郎		56
		書状(一書面・・)	松江	河内や 好次郎	56
		書状	能濱 善田	八幡町河内屋御主人	56
七月二十二日		書状(知行所からの書状)	石川政之丞 浅井作兵衛	八幡村名主 寺嶋由次郎外役人中	55
		作恐返答以奉申上候 (断えにつき返答 書物留)			55

作成年月	西暦年	第二部 表 題	作成者	備考	頁
明治二年三月	一八六九	明治二年三月 曾巳宗門人別御改帳(見本)	八幡御役所		45
末七年六月二十五日	一八七一	書状(伝達の旨付)	官吉	寺島	45
末二月二十五日	一八七一	覚(宿助御助成に係る借金の返済)	名和政兵衛、向嶋喜兵衛 佐藤三次兵衛		46
壬九月	一八七二	書状(飯米の先納依頼)	地頭所 石川政之丞	名主 寺嶋好次郎	46
壬四月四日	一八七二	書状(江戸表との連絡を依頼)	地頭所二面 石川政之丞	八幡村名主寺嶋好次郎、組 頭藤右衛門、渡邊助	47
壬四月十五日	一八七二	書状(知行地から引揚)	石川政之丞	八幡村名主寺嶋好次郎、組 頭藤右衛門、渡邊助	48
壬四月十五日	一八七二	書状(送り荷物の内訳)	石川政之丞	八幡村名主寺嶋好次郎、組 頭藤右衛門、渡邊助	48
		書状(送り荷物を積戻す)	石川政之丞	八幡村名主寺嶋好次郎、組 頭藤右衛門、渡邊助	49
		書状(送り荷物の内訳)	石川政之丞	八幡村名主寺嶋好次郎、組 頭藤右衛門、渡邊助	49
卯十二月九日	一八六七	書状(知行からの書状)	石川政之丞 善三郎、六左衛門	名主 寺嶋好次郎 組頭 菊地藤右衛門	50
四月四日		書状(知行地から引揚を手配)	名主 寺嶋好次郎	石川政之丞	50
三月十六日		書状(知行所への書状)	寺嶋由次郎	村上中左衛門、因太郎外 役人中	52
辰七月		帖(先名主孫八殿死去の届)	監察知果事 柴山文平(印)	八幡村名主寺嶋好次郎、組 頭藤右衛門、渡邊助	53
丑三月五日		書状(末尾)	〇〇村 百姓 所右衛門 名主 井上周太郎	八幡村 名主 寺嶋好次郎	54
		書状(村之高反別帳を取調)	川新	御名主 好次郎	54

作成年月	西暦年	第三部 表題	作成者	宛先	頁
文化元甲子年九月	一八〇四	用水和撃證文之事	五所村名主三人、金形廣引受人二名、八幡村名主八人		61
文化三寅年二月	一八〇六	堰請負証文之事	上總市原郡草刈村堰請負人、組頭四人百姓代五人	七ヶ村御名主組頭中	62
文化三寅年二月	一八〇六	乍恐以書付奉申上候(用水引渡しを訴える)	八幡村 名主 庄五郎		63
文化三寅年二月	一八〇六	差出申証文之事(中川堰普請の請負証文)	菊間村請負人 六右衛門外	八幡村菊間村右両村御名主兼中御組頭中	64
文化四巳七月	一八〇七	乍恐書付を以御訴奉申上候(村用水の不当使用を訴える)	水野石見守知行所 名主代 平十郎外	御地頭所様御役人中	64
申正月二十四日		中川堰代米の受取	菊間村 六右衛門	八幡村 名主 庄五郎	68
文化五申十二月	一八〇八	中川堰代米の受取	菊間村 六右衛門	八幡村 名主 庄五郎	68
文化六年巳四月	一八〇九	御頼申一札之返(堰代米の引渡しを依頼)	高島村名主 菊間村名主 勝左衛門	高島村名主 菊間村名主 勝左衛門	68
巳 十二月二十六日		覚(草刈堰代米を受取る)	名主 勝左衛門	御名主 庄五郎	69
文化六巳年十二月二十七日	一八〇九	覚(堰代米を売拂、代金を受取る)	草刈村 菊間外二名	八幡村御名主 庄五郎	69
文化八未三月	一九一一	堰代米を買受 包み(文化八未三月改之)	菊間村 十郎外	御名主 庄五郎	70
十二月二十六日		覚(堰代米を受取る)	菊間村 十郎外	御名主 庄五郎	70
		(堰代米を受取る)			71
申五月朔日		御地頭所御普請の積金受取 覚(一、金一兩二朱二八〇文)	名主 弥左衛門	河内屋庄五郎	71
慶応二年寅二月十一日	一八六六	入置申願一札之事(草刈川堰の普請人変更)	濱野村、村田村、古市場村、上古市場村、菊間村	八幡村 御名主徳太郎、好次郎	71

作成年月	西暦年	第二部 表題	作成者	備考	頁
慶應四年辰正月吉日	一八六八	戊辰慶應四年辰正月吉日御年賀老人別割附帳			59
慶應二年寅十二月	一八六六	寅年賀普済目録写 元村上三十郎知行所分八幡村	石川政之丞		59
明治元辰年十一月	一八六八	子年賀普済目録写 元村上三十郎知行所より 上總市原郡八幡村	百姓代 吉三郎 組頭孫八 藤右衛門 名主 好次郎	民政御役所	59
明治元辰年十一月	一八六八	元村上三十郎知行分 八幡村	百姓代 吉三郎、組頭 孫八、藤右衛門 名主 好次郎	民政御役所	59
慶應三丁卯年五月	一八六七	書上帳 八幡村	百姓代 吉三郎、組頭 孫八、藤右衛門 名主 好次郎	知果事御役所	60
慶應四辰年七月	一八六八	高反別書上帳 八幡村	名主 好次郎		60
慶應二年寅正月吉日	一八六六	丙辰慶應二年寅正月吉日兵賦代金納立替分割返連名覚(表紙)	村上組百姓代吉三郎、組頭藤右衛門 名主好次郎		60
丙辰二年寅七月吉日	一八六六	兵賦代金納割合帳	百姓代吉三郎、組頭藤右衛門 名主好次郎		60
丁辰三年卯七月吉日	一八六七	兵賦金納割合帳	百姓代吉三郎、組頭藤右衛門 名主好次郎		60
丁辰三年卯十二月吉日	一八六七	銃隊兵歩割合帳			60

作成年月	西曆年	第四部 表 題	作成者	宛先	頁
子六月十一日		書状一部(訴訟人 伊惣次・・・・)			99
		書状(評議所の呼出状)	信濃・駿河、甲斐・・・・		99
		書状(不法出入への掛合を相談)			100
		乍恐以書付御訴訟奉申上候 (村役人を貸金出入で訴える) 萬藤の件その一	訴訟人 甚兵衛	年寄嘉平次、名主由次 邸外	100
文久二戌年	一八六二	文久二戌年証文 訴訟人 夷隅郡布施村 名主周太郎外萬藤の件その二			101
元治二巳丑年正月十一日	一八六五	出府諸訴出扣帳			101
明治二十二年二月四日		自訴書(無戸籍を届け、戸籍作成を申請する)	川本たつ		102
明治二十二年三月十五日		公証消失のため、確認を求める 相手 北生実村 大畑又七	金子借用人 村田村 鹿野三右衛門	千葉治安裁判所	103
大正十一年十二月十八日		期日呼出状及答弁書催告状	千葉地方裁判所	寺島久次郎	104

作成年月	西曆年	第四部 表 題	作成者	宛先	頁
裏面に添え書き 寛政五〇二十五日	一七九三	乍恐返り差書ヲ以奉申上候 (下野村の訴えに八幡村が返答)			85
		書状(馬立村の訴えに八幡村が返答)			85
		池和田村外九ヶ村連印の証文			86
寛永五十年十二月二十五日	一六二八	書状(御鷹御用の費用負担)	上総国市原郡三十一ヶ村 額代 国吉村名主新五左衛門	御評定所	87
寛政二戌年七月二日	一七九〇	書状(御鷹御用の費用負担) (不法出入で池和田村が八幡村を訴える)	訴訟人 岡井戸村 名主 庄七外七名	御評定所	88
		書状(御用賄の負担)	名主 喜右衛門、彦右衛門 宇兵衛	御評定所	89
		相渡申書付之事(親戚間で田地引渡しの争い)			90
文政四巳年七月	一八〇一	田地相続に関わる願出	訴訟人 名主 庄五郎		91
文化十四丑年十月	一八一七	乍恐以書付御訴訟奉申上候 (売掛・立替金の返済を訴える)	訴訟人 組頭 喜兵衛 相手 庄五郎	村上鏡之助御役人中	91
文化十四丑年十二月十九日	一八一七	差上申済口証文之事 (売掛・立替金の返済を訴える)	訴訟人 組頭 喜兵衛 相手 庄五郎	村上鏡之助御役人中	92
文化十四丑年	一八一七	乍恐以書付御訴訟奉申上候 (売掛・立替金の返済を訴える)	訴訟人 喜兵衛 相手 庄五郎		95
		差上申済口証文之事(頼母子掛金に関わる出入)			96
文化九申年七月	一八一二	書状 (頼母子掛金に関わる出入)	訴訟人 名主 庄五郎 相手 養庵	阿部駿河守領乃 水野石見守外	96
文化九申年八月 日	一八一二	為取替申一札之事・包紙 (頼母子掛金に関わる出入)			98
文化九申年七月		書状 (頼母子掛金に関わる出入)			97
文化九申年七月		一札之事 (頼母子掛金に関わる出入)			96
		頼母子掛金に関わる出入)			96
文化九申年七月		書状 (頼母子掛金に関わる出入)			99

相渡申書付之事

不用

相渡申書付之事

一 今般御地頭所様江我等甥喜兵衛代々致し御訴訟奉申上候儀一切相頼不申候、且又寛政十年七月先庄五郎死去致候節、娘冬扶持田畑讓渡可申由、可・申付無御座候、其後喜兵衛方江娘冬得縁合致 縁二相成候二付、天明五巳年九月金式拾兩貸遣候処、冬持參金差向遣候処、相違無御座候、猶又當四月中我等大病煩候二付、持參田地半地喜兵衛女房冬女江相讓可申由申聞候、其節白紙江つめ印致遣候、尤庄五郎儀不孝不 始末毛頭無御座候為後日、書付相渡し申処仍如件

文書：19-47-13
写真：047046



組頭仰付之覚

覚

上総国市原郡

百姓 庄五郎

其方儀、此度組頭之役儀被 仰付候、

万事二心を用ひ出精可相勤候

寛政十一巳 未正月

石川権之進 (印)

坂尾覚太夫 (印)

文書：24-4-1a
写真：053126

~7

書附

庄五郎方江組頭

役儀被仰付候

庄五郎



名主不在の間、村方取締を申付け 2

申渡之覚

八幡村組頭

平助
庄五郎

今般、松田喜右衛門儀退役願之趣
無余儀思召候間、其儘名主御免被仰付候、
是迄、出情相勤候付、同人一代
苗字帯刀
御免被仰付候、右後役御仰付候迄之内
村方取締萬纏兩人申合取計可申候 以上

寛政十二申年二月

吉田 昇
坂尾覚太夫
平助殿
庄五郎殿

文書：21-24
写真：

申渡之覚
八幡村組頭
平助
庄五郎
今般、松田喜右衛門儀退役願之趣
無余儀思召候間、其儘名主御免被仰付候、
是迄、出情相勤候付、同人一代
苗字帯刀
御免被仰付候、右後役御仰付候迄之内
村方取締萬纏兩人申合取計可申候 以上
寛政十二申年二月
吉田 昇
坂尾覚太夫
平助殿
庄五郎殿

100

名主・組頭の任命通知 3

申渡之覚

庄五郎

此度、名主役松田喜右衛門役江源右衛門、
組頭役源右衛門役江清次郎被仰付候
此旨相心得、百姓代其外江茂可申達候
且又、以来清次郎万端申合、御作法之通相守
可相勤候 以上

寛政十二申年壬四月

吉田 昇(印)
坂尾覚太夫(印)
庄五郎殿

文書：21-19
写真：

2

名主役申渡

申渡候覚

名主 庄五郎

右此度、名主役被仰付候、以来者別而
御為第一二奉致、村方取締、小前百姓二至迄
非理無之様、大切二役義相勤可申候者也

文化五辰年九月

村上三十郎内 青地左仲(印)

文書：41-32
写真：064006

申渡之覚
庄五郎
右此度、名主役被仰付候、以来者別而
御為第一二奉致、村方取締、小前百姓二至迄
非理無之様、大切二役義相勤可申候者也
文化五辰年九月
村上三十郎内 青地左仲(印)

申渡之覚
庄五郎
右此度、名主役被仰付候、以来者別而
御為第一二奉致、村方取締、小前百姓二至迄
非理無之様、大切二役義相勤可申候者也
文化五辰年九月
村上三十郎内 青地左仲(印)

苗字帯刀御免之覚 5

覚

上総国市原郡

八幡村 庄五郎

右者、組頭勤役中より以来、出精骨折相勤、
猶又、名主役申付候処、村方出入り召捕儀茂無之、
猶受 来別而骨折相勤候 候之事候
右二付、以来苗字帯刀
御免候猶、此上出精取締 厚心掛可相勤もの也

文化八辛未年正月

木村文太夫(印)
青地左仲(印)

前書之通相違無之もの也
三十(印)

文書：21-22
写真：051031~3

3





病身のため名主休役を願出

乍恐以書付奉願上候

文書：19-61
写真：

御知行所上総国八幡村名主庄五郎奉願上候、私儀、先年より名主役被仰付置、冥加至極難有、是迄相勤罷在、然処、近年病身二相成、去暮中よりは、別而不相直、當村之儀は、駅場二而御用村用共繁ク、依之前々より給々名主共之内月番ヲ定メ、老ケ月老人二而持限り相勤来候得共、右躰病身二而難相勤、尤是迄は、外役人共より助合呉候得共、餘り長々之儀、何分氣之毒之至奉存候間、何卒以御慈悲、右之段御聞濟之上、休役被仰付被下置度奉願上候、尚又、委細之儀は以上を以可奉申上候 以上

文政二卯年十月

御知行所

上総国八幡村

名主 庄五郎 (印)

御地頭所様

訂正
御知行所上総国八幡村名主庄五郎奉願上候、私儀、先年より名主役被仰付置、冥加至極難有、是迄相勤罷在、然処、近年病身二相成、去暮中よりは、別而不相直、當村之儀は、駅場二而御用村用共繁ク、依之前々より給々名主共之内月番ヲ定メ、老ケ月老人二而持限り相勤来候得共、右躰病身二而難相勤、尤是迄は、外役人共より助合呉候得共、餘り長々之儀、何分氣之毒之至奉存候間、何卒以御慈悲、右之段御聞濟之上、休役被仰付被下置度奉願上候、尚又、委細之儀は以上を以可奉申上候 以上

家出人相尋の申渡

申渡之覚

百姓 源右衛門

右之者、此節致家出候旨相届出依之、當十二月朔日より三十日之内、急度、相尋、右尋ケ所訴を以届出可申もの也

文政三辰年十二月朔日

岡村武助 (印)

木村文太夫 (印)

八幡村役人中 并組合親類之者江

地頭役所 (印)

文書：32-30-3b
写真：060115

名主休役を許される

8

差上申御請書之事

一、知行所八幡村名主庄五郎、私儀先般病

氣二付無処退役願書差上置 今般、御 之

思召以名主役御休被仰付難有仕合奉存候

跡之儀は、組頭共當人江萬端取扱之義被仰渡

右二付村方取扱御物成取立帳面并口達亦可申違旨

被仰渡候趣、委細承知奉畏候右御請旁

差上申処仍而如件

文政五年十一月

御地頭所様御出役 久米多甚様

八幡村 名主 庄五郎

名主之退役を願出

7

乍恐以書付奉願上候

御知行所八幡村名主庄五郎奉願上候、

私儀、文化五辰年中名主役被仰付

奉蒙

在候処、同八未年中甚為取昇日々

上相煩難洩至極仕候二付、役義御免奉願上候処、

厚 御利解被給聞候二付、難有是迄、押而勤役罷

在候 此節右病身

御用向 相勤候兼難 仕躰二請取、我等不行届儀

木出来候わば難相濟奉恐入候間、此段奉申上候、5

何卒格別之以御慈悲退役被仰付被下置候様、偏奉

願上候 以上

文政五年十一月十日

御知行所

上総国市原郡八幡村

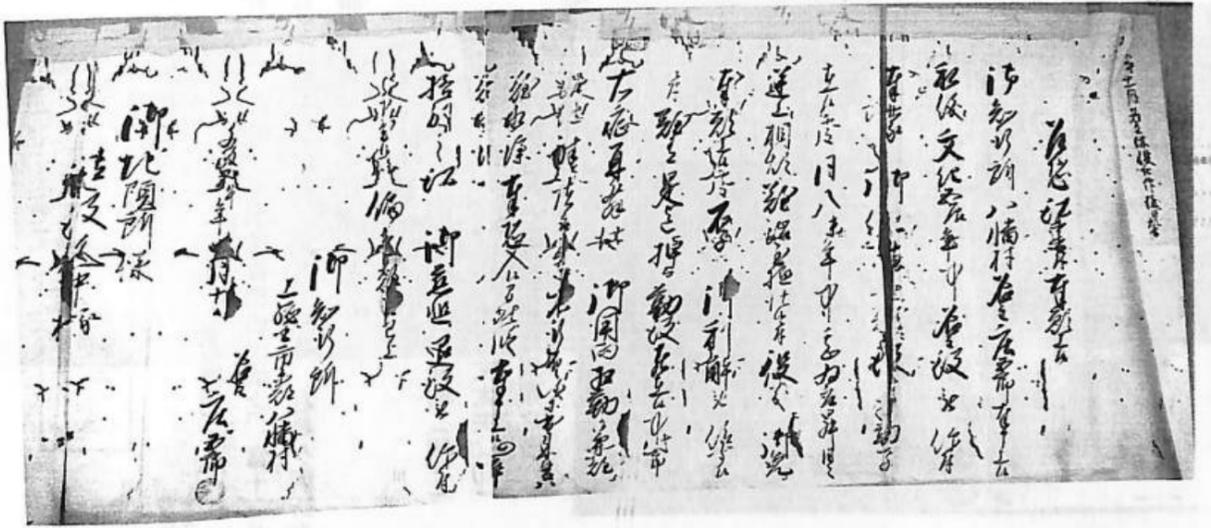
名主 庄五郎 (印)

御地頭所様

御役人中様

文書：26-3
写真：056026~7





後名主に書類を引継ぐ

預り申一札之事

- 一、宝永七年 御水帳 三冊
- 一、安永年中写 御水帳 三冊
- 一、寛延元年 御割附帳 老本
- 一、文化四年 丑年皆済帳 老冊
- 一、き米帳 老本
- 一、文政五年 御割附帳 老本
- 一、延子年中 村絵図 老枚
- 但し是八当番 次郎方二有之候
- 一、浦絵図 同人方二有之候 老枚
- 一、寛政十二年改之 田畑高反別取米改帳 老冊
- 一、人別帳 老冊
- 一、文政五午年 名寄帳 老冊

六十一口
右之通り儲二預り申候 以上
未七月二十八日

名主 源右衛門(印)
先名主 庄五郎殿

文書：30-139
写真：060020



組頭に補任

覚

文書：a-1
写真：

此度、上総房州御・場役人野鳥方御役人其外御代官八州御取締方繁々御通行二付、村役人案内礼支二付、組頭役被仰付之給米之儀は、先格之通被下置候 以上

天保十四卯年壬九月

地頭所 信田傳之丞(印)
岡村保左衛門(印)
八幡村 庄五郎江

前書之通相違無之者也
八十(印)

先

此度、上総房州御・場役人野鳥方御役人其外御代官八州御取締方繁々御通行二付、村役人案内礼支二付、組頭役被仰付之給米之儀は、先格之通被下置候 以上

天保十四卯年壬九月
信田傳之丞(印)
岡村保左衛門(印)
八幡村 庄五郎江

苗字御免を申渡す

八幡村 組頭 由次郎

文書：24-17-2
写真：054039

其方義、旧家之由二茂相聞、殊二貞二農業相励候上、依之厚 思召を以苗字御免被仰付候、尚向後役向大切二相勤可申者也

安政五午年四月

青竹伴藏(印)

三十(印)



苗字御免辞退を願出る

乍恐以書付奉申上候

上総国市原郡八幡村組頭由次郎奉申上候
去巳年中、私二苗字御免被仰付候趣之御書付頂戴、
冥加至極難有仕合二奉存候得共、近来、相統難渋
相嵩、身上向不如意二相成、追々困窮仕詰罷在、
殊二若輩之私病身旁、役儀木も精勤相成兼候次第
二而、右鉢苗字御免被仰付候而は、奉恐入候
儀と存達而、辞退奉申上候儀二有之、且又昨年
以来御呼出之処、持病之痔疾又は症積

文書：24-17-5
写真：054042~4

仕り二付無余儀、其段申立相成不申候処、今般
御呼出之上、右様とも如何之心得を以違背仕候
哉、始末可申届旨、被仰渡何とも奉恐入候得と
も、全虚病木申立候儀二は無御座候間、何卒格別
之以御慈悲、前書被仰付之趣、聊違背木、無之
段取為聞、訊此は歳重二も御憐憫之御沙汰奉存上
候も



後名主へ書類を引き渡す

覚

- 一、宝永七寅年 御水帳 三冊
- 一、寛延元年十月 辰御割附 老冊
- 一、明和七寅年十一月改分 田畑水帳記 三冊
- 一、文政五年午十月 田畑反別御年貢取掛帳 老冊

- 一、文政六寅未年八月改分 御田畑水帳 式冊
- 一、船鑑札四枚 庄八分

- 庄八分
- 金兵衛分
- 喜右衛門分

外二

- 一、巳明治二年 老冊
- 御年貢米老人別割附帳 老冊
- 一、上地賄地入附帳 老冊
- 一、御用地書上帳写 老冊

右之通り儘二受取申候、為念如 候御座候 以上

明治二巳年五月十四日

- 立会人 問屋 弥七(印)
- 名主 源右衛門(印)
- 同 市兵衛(印)

文書：24-8
写真：054022~
3

先名主 好次郎殿

組頭 孫八(印)
百姓代 与平次(印)



久次郎の婿養子入籍願

久次郎入籍願
明治七戌年十月十七日

寺嶋里う

文書：32-127
写真：062040~2



八幡宿惣代人に当選

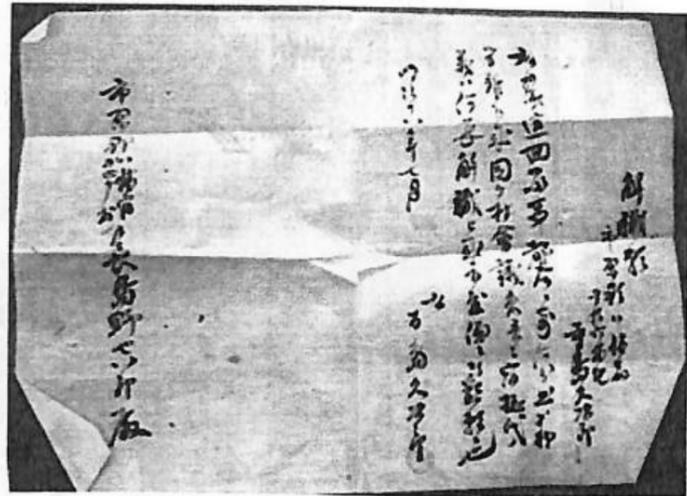
當撰状

市原郡八幡宿十六番屋敷住
平民 寺嶋久次郎
安政四年五月二十五日生
八幡宿惣代人選挙並処、當撰二付、同宿惣代人
被心得候事

明治十八年一月十三日

千葉県市原郡八幡宿外四ヶ村
戸長 浅田讚蔵(印)

文書：3-55-4
写真：4768



候間、難相成、因テ村会議員并ニ宿惣代ノ義ハ何卒
解職被成下度、偏ニ懇願候也
明治十八年七月

右 寺島久次郎(印)
千葉県市原郡八幡宿外四ヶ村
戸長 島野也八郎殿



八幡宿惣代人の解職願ひ

解職願

市原郡八幡宿第十六番地

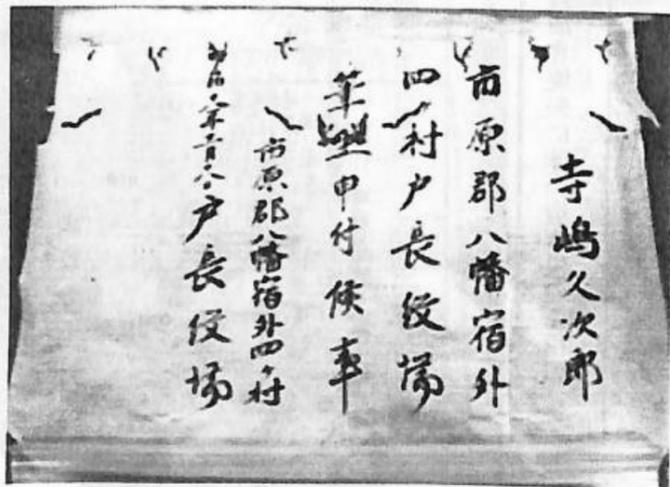
寺島久次郎

右申上候、私儀、本年一月中本宿惣代ヲ被申付拜
受シ勤続罷在候処、今般、家事都合ニ寄、何分勤役
難相成候間、何卒解職被成下度、此衷奉懇願候也
明治十八年七月二十二日

右

寺嶋久次郎(印)

文書：11-4-1
写真：042047



役場筆生を申付ける

市原郡八幡宿外四ヶ村戸長役場筆生申付候事

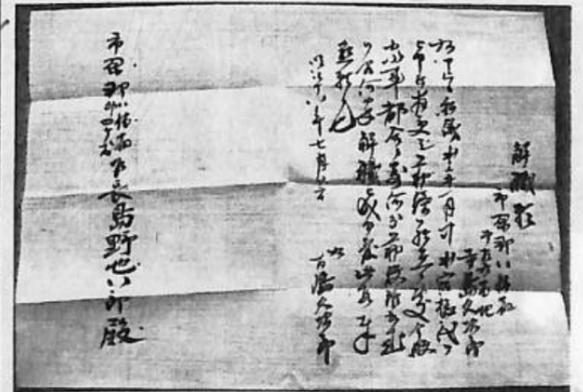
明治十八年十一月十八日

市原郡八幡宿外四ヶ村

戸長役場

寺嶋久次郎

文書：11-8-4
写真：042053



寄留許可願ひ

寄留御承認願

市原郡八幡宿第十六番地

寺島久次郎

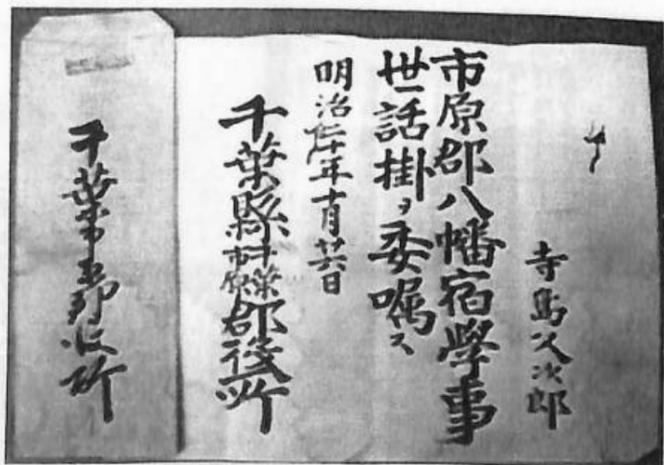
右私儀、今般、家事都合ヲ以、当県下 下総国千
葉郡茂呂村第百三拾三番地鶴田厚次郎方へ本年本
月ヨリ来ル二十三年七月マデ満三ヶ年間、同居寄
留仕候間、此衷御承認被成下度候也
明治十八年七月

明治十八年七月

右 寺嶋久次郎(印)

文書：11-7-1
写真：042049

千葉県市原郡八幡宿外四ヶ村
戸長 島野也八郎殿



学事世話掛を委嘱する

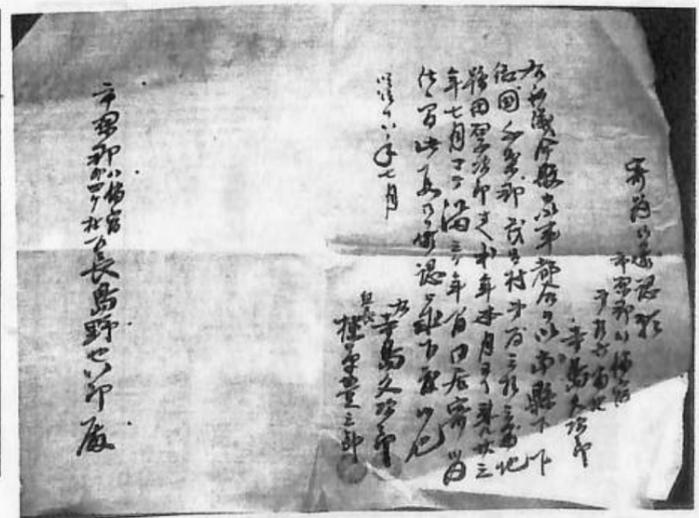
市原郡八幡宿学事世話掛ヲ委嘱ス

明治二十年十月二十六日

千葉県千葉・市原郡役所

寺島久次郎

文書：30-28d
写真：057081



村会議員・宿惣代の解職願ひ

解職願

市原郡八幡宿第十六番地

寺島久次郎

右私儀、家事都合ニ寄、何分出

寺嶋久次郎

文書：11-7-3
写真：042051

組長 植原豊三郎(印)
千葉県市原郡八幡宿外四ヶ村
戸長 島野也八郎殿

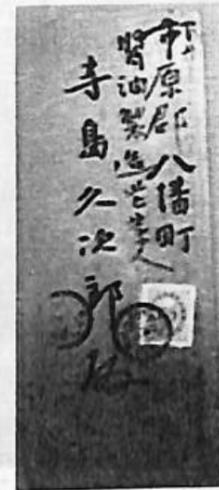
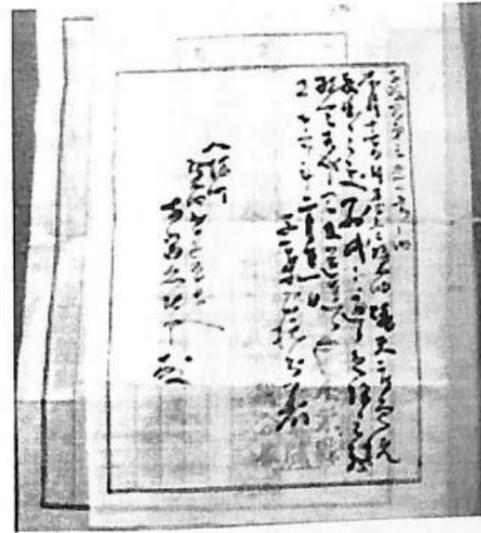
焼失のため醤油造石税を免除

市原郡八幡町千参百五拾番地
醤油製造営業人 寺島久次郎

明治二十六年二月十七日 付焼失醤油
式拾壹石四斗九合二対スル造石税免除願ノ件
開届ク

明治二十六年二月二十日
千葉県知事 藤嶋正健 (印)

文書：21-7
写真：051008
~10



醤油倉焼失に伴い造石税の免税願

免税願

第2号桶

- 一 元石拾四石 内 大豆七石、小麦七石
- 一 煮込水拾五石五斗
- 食塩七石七斗五續
- 汲水拾五石五斗

右ハ明治二十四年十二月二十九日仕込留

此諸味式拾壹石六斗四續九合

明治二十六年一月二十一日査定

右諸味本月十四日八幡町大火ノ際醤油倉ニ現在ノ

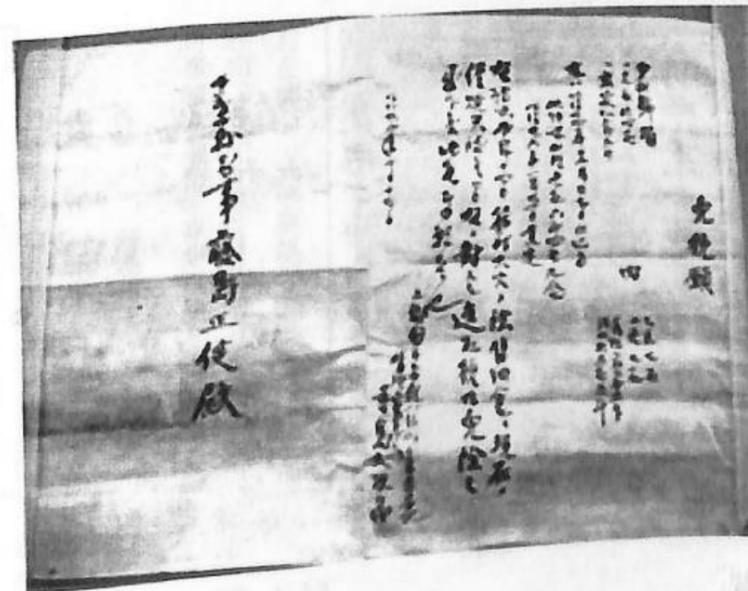
文書：3-60-2
写真：4815



儘焼失致候間、右ニ対する造石税御免除被成下度
此段奉願候也、

明治二十二年二月十七日

上総国市原郡八幡町千三百五十番地
醤油営業人 寺島久次郎 (印)
千葉県知事 藤島正健殿

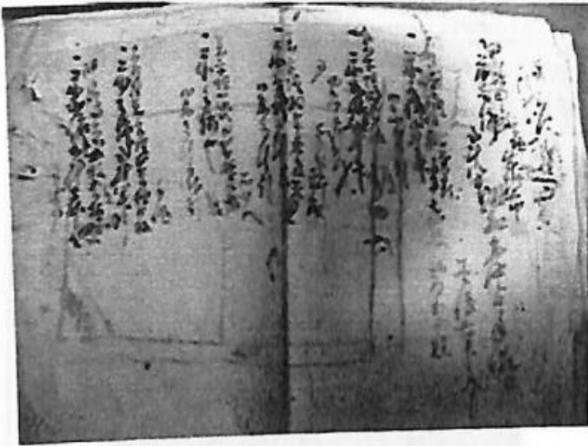


所有土地図面 (明和年中より)

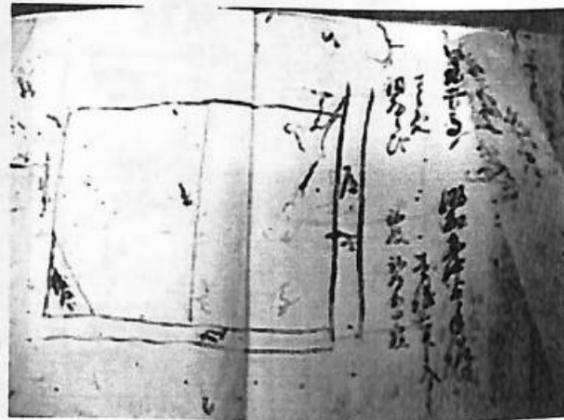
覚

- 一 沖ノ嶋田三枚 米壹俵分 式斗八升
- 一 米一俵式斗壹升 内米五升
- 一 米式俵式斗七升 内米一斗引
- 一 若宮堤 米壹俵六斗半 内米一斗引
- 一 若宮堤苗代田 米壹俵也 内米壹斗壹升引
- 一 米壹俵式斗八升
- 一 米式俵式斗壹升

文書：22-122
写真：053106
~7



明和年中より年 老俵七升入



田畑持地石高覚御水帳

宝曆五年古帳面 乙亥正月吉日改記之



文書：41-15
写真：063066

庄五郎持高

覚

- 一 上田 五反老畝十一分 此高七石五升
- 一 中田 老町七畝二十三分此高十壹石七式升九合
- 一 下田 六反式畝四合 此高五石五升
- 一 上畑 七畝四分 此高六升四合
- 一 中畑 四反八畝二十四分此高式石九升式積八合
- 一 下畑 一町老反十四步 此高三石三升壹合
- 屋敷 三畝二十四步 此高三斗八積
- 高合 八三十石五升

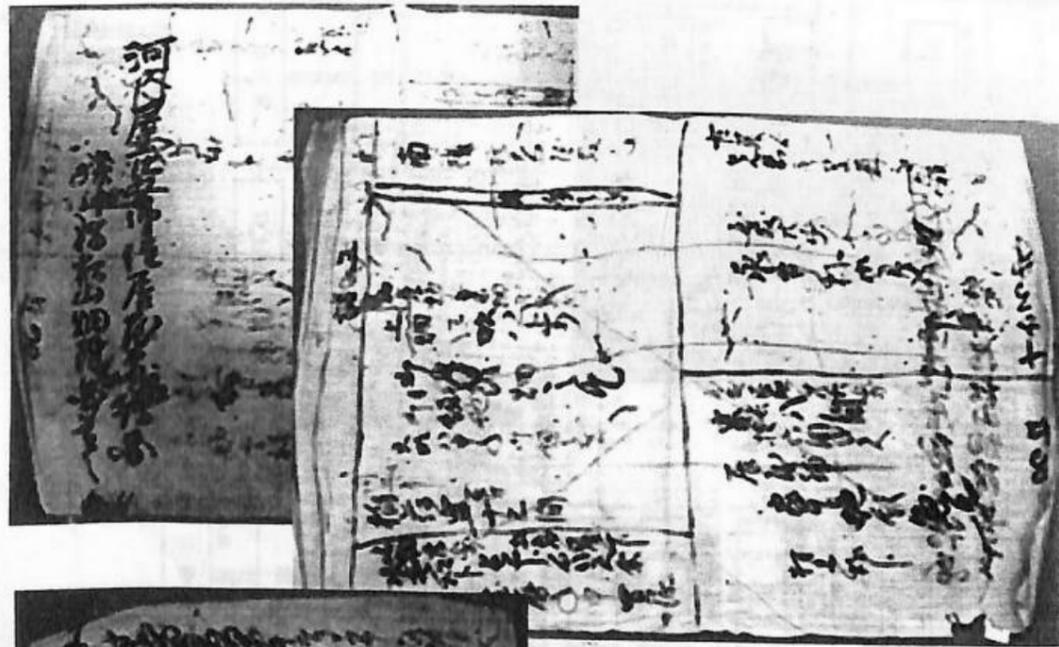
文書：19-19-3
写真：045044





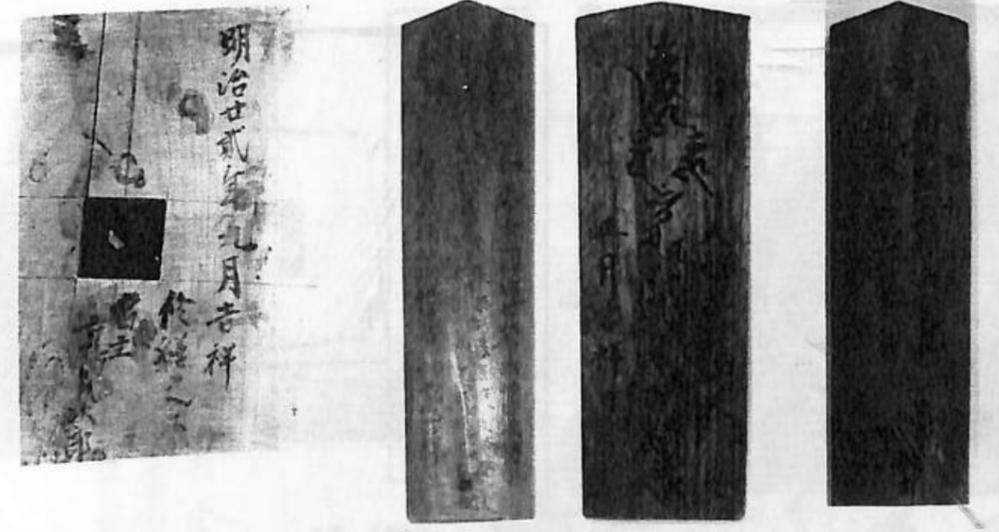
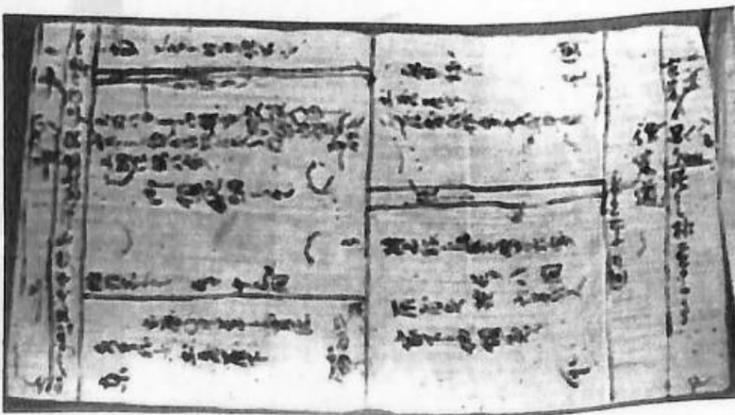
土蔵普請入用之帳 (安永六年)

文書：22-19
写真：051072
~4



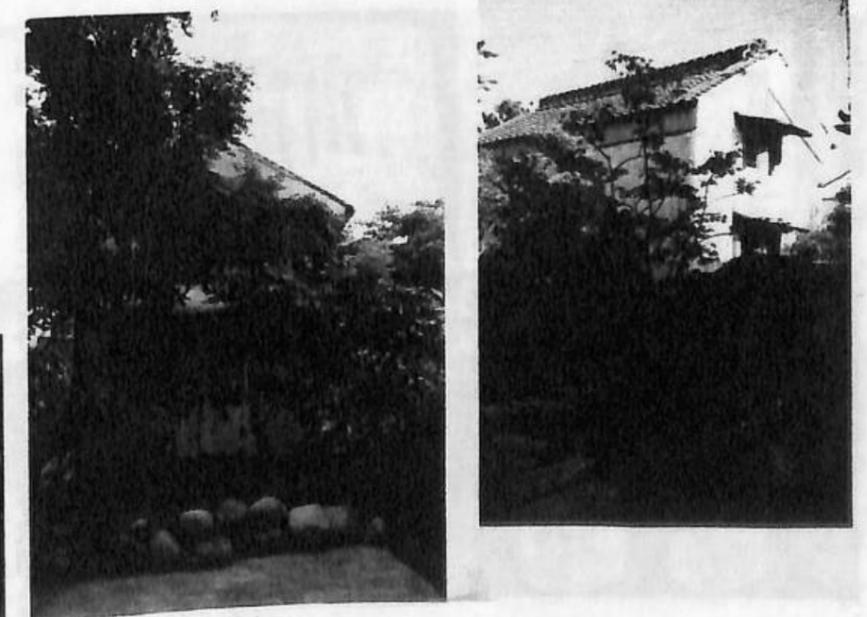
河内屋住居屋敷絵図
井川端杉山畑図

文書：22-12
写真：051058
~62

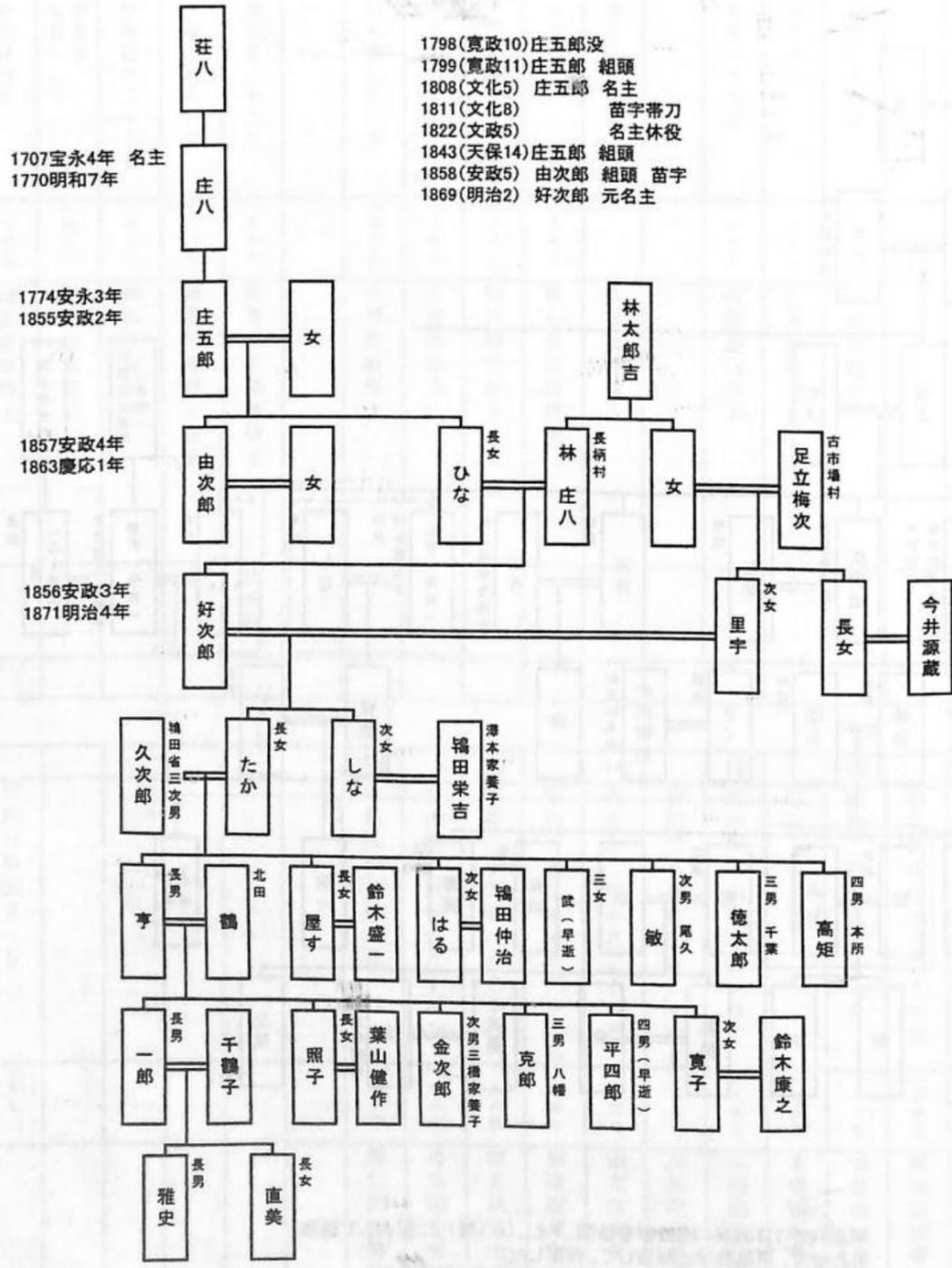


土蔵工事費領収書綴

文書：30-102
写真：059088

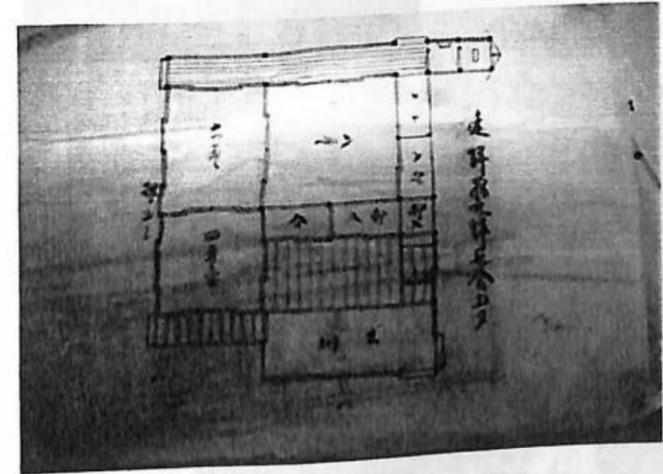


寺嶋家 家系図



寺嶋家母屋建築図面

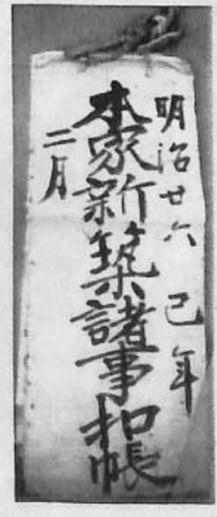
文書：22-100
写真：053035
~6



建坪 十九坪七合五夕



文書：30-29
写真：057086



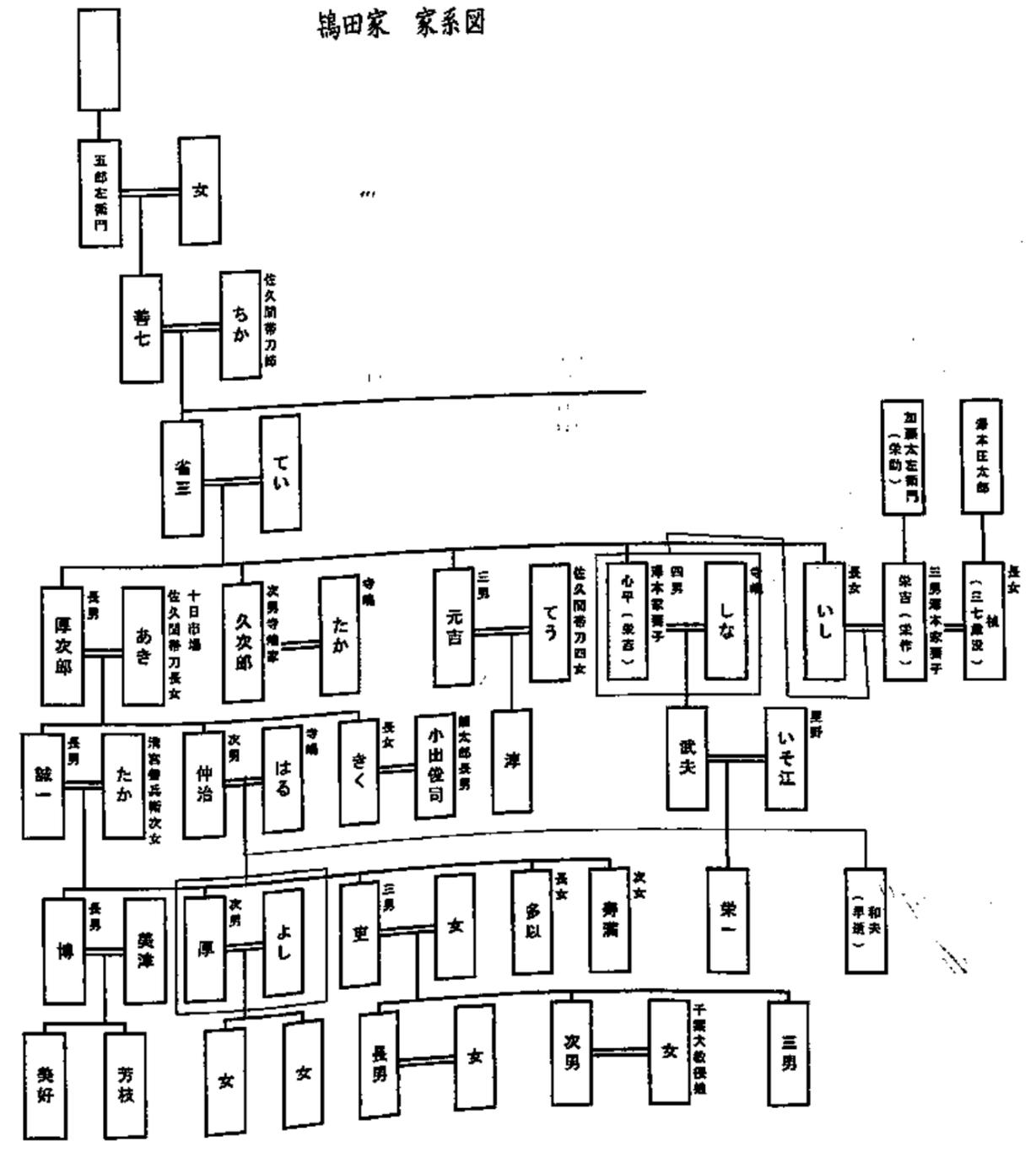
本家新築諸事扣帳

文書：30-37
写真：063006

代	命日	西暦年	戒名	俗名	行年
1	天和二壬戌年五月十八日	一六八二			
2					
3	元禄四年八月二十一日	一六九一	一善西順信士		
4	元禄六年四月八日	一六九三	大善妙誓信女		
5	元禄二年七月二十九日	一六八九	河相勝円信士		
6	元禄五年壬申 五月二十五日	一六九二	光善法哲信士		
7	元禄四年十二月十三日	一六九一	修心善妙雲信女		
8	元禄五年八月十日	一六九二	廓声残月信士		
9	元禄四年十二月十三日	一六九一	親光縁寿信女		
10	元禄五年八月十日	一六九二	庄善浄藏信士		
11	寛政十年戊戌七月二十二日	一七九八	便善武正勢覚信士	庄五郎	
12	文政二巳卯年三月十一日	一八一九	遷善至誠邦心信女		
13	寛延三庚午年四月二十七日	一七五〇	融窓浄圓信士		
14	享保十六辛亥年 正月二十七日	一七三一	頼阿妙成信女		
15	安永三年正月元日	一七七四	璉室静祐信士		
16	宝暦五亥八月二十三日	一七五五	心月光圓信女		

命日	西暦年	戒名	俗名	行年
天保九戌年十月初日	一八三八	功德院庄善麗藏信士		
弘化四未年十月二十九日	一八四七	願海院深善権廣信女		
明治二巳年九月十九日	一八六九	本善和純迎願信士	好次郎	
昭和十年三月	一九三五	本善院願善智澄貞操大姉	里宇	92
明治二十五年三月二十七日	一九〇二	英照院善善恵覚妙戒信女	雛	
大正十二年十月二十一日	一九二三	徳章院厚善義山居士	久次郎	67
昭和二十三年十月二十六日	一九四八	智厚院實善妙隆大姉	たか	
昭和三十九年八月二十日	一九六四	淳光院清善浄威居士	孝	74
昭和四十五年九月十五日	一九七〇	清光院浄善鶴林大姉	鶴	75
昭和五十五年九月一日	一九八〇	博仁院士善以智朗然居士	一郎	59
明治五年五月一日	一八七二			
明治六年十月一日	一八七三			

鵜田家 家系図



平成18年3月31日 鵜田家を訪問、「よし(83歳)」に面会して聴取。
あわせて、戸籍謄本と照合して、作成した。
訪問者：寺嶋千鶴子(故一郎夫人)、寺嶋滋夫(高矩長男)

貸金取立ての訴訟をおこす

文書：22-98-1
写真：053019

(前文は欠落)
間敷候存、収納金故、元利可相済約定之郷印証文
取之用違遣候処、朔月相立候にも返済不仕、是迄
数度催促仕候得共、品能申延にて仕埒明不申
乍恐難認 仕候間、無是非、
今般御訴訟奉申上候、何卒以御慈悲相手名前之者
共被召出、滞金元利共不殘早々相済呉候様、被仰
付被成下置度、偏ニ御願上候 以上
元治元子年六月

堀江町三丁目
元七地借
勝蔵野・住宅 願人
万蔵煩二付 右仕
訴訟人 甚兵衛印
家主 元七印
御奉行所様

田地争いを円満に収めたことを報告

文書：30-78-12
写真：058068
~69

差上申濟口一札之事
打越地内字煤田二て
一 上田 壹反六畝拾九步
神屋銀太郎様御高之内
打越地内字・二て
一 下田 壹反式畝二十四步
村上三十郎様御高之内
打越地内字大・二て
一 下田 壹反九畝拾壹步

當二月中、半左衛門平兵衛右三ヶ所田地争論出来
候二付、上布施村役人共扱二立入精々いたし候得
共、訴之下不伏にて既ニ半左衛門より平兵衛相手
取、同人御地頭所様江出訴仕御吟味中之処、市野
村名主正作八幡村名主芳次郎右兩人江取扱二立入
種々談判之上、趣意相直候得共、相手方不承知、
不仕・候間、御吟味申訴答蒙意申張候二付、御
手限御取扱不相成趣意以願書御差戻しニ相成、
右二付半左衛門儀は、其御筋江可奉出訴存意にて
御差出し相願居候趣、及承松両寺二茂私担之間柄
見難忍存、今般出府致し前々扱人之名目ヲ意借請、
当向御地頭所様江御願申上訴多ニ厚御利解被仰聞、
右二其 付素親様之儀にも有之候間、両寺より勘

Handwritten text in cursive style, likely a continuation of the document or a related record.

弁致し候様申論候処、此上御公訴ニ相成候ニ、貴
兩御地頭所様格別御苦勞相掛恐入候段、訴答相弁
江廉々被為相任、双方無申分熟談内附仕候、
依ては兩人共是迄意廻り親類者合は勿論以来別よ
り睦合相段を被納得致し呉、於扱人共にも一同悦
意仕候
然ル上は、右件二付重ねて双方共御願間敷茂一切
無御座候、扱人并村役人共一同連印いたし一札為
取替申処如件

元治元子年十二月
村上三十郎様御知行所
上総国夷隅郡上布施村
訴訟人 半左衛門
差添人 善三郎
御知行所同郡同村
・人 平兵衛
差添人 名主 平左衛門
扱人 名主 李右衛門
同 名主 七郎左衛門
堀鉄之丞様御知行所
同郡同村 名主 市右衛門
水野数馬様御知行所
同 名主 彦兵衛
御知行所
垣生郡市野村 正作印

田畑譲渡に伴う諸役上納を引受ける

文書：19-21-3
写真：046025

入置申一札之事
一、赤頼寺所持之田畑此度壇方一同相談之上、江
戸表祐三郎殿方江譲渡ニ相成申候処実正也、
然ル上は、我亦右田畑諸事賄我亦方にて引請、
御年貢并諸夫錢等其時々無遅滞相納可申候、
万一相滞候節は、小作方より直上納ニ相成候
にても不苦、為後証入置申一札仍而如件
元治元子年十一月

名主 由次郎殿
証人 権右衛門(印)
一札之事
一、赤頼寺所持之田畑此度壇方一同相談之上、
江戸表祐三郎殿方江譲渡ニ相成申候処実正也、
然ル上は、我亦右田畑諸事賄我亦方にて引請、
御年貢并諸夫錢等其時々無遅滞相納可申候、
万一相滞候節は、小作方より直上納ニ相成候
にても不苦、為後証入置申一札仍而如件
元治元子年十一月

Large block of handwritten text, likely a detailed record or a related document.

御用金を分割して上納する誓約

文書：30-63-2
写真：058018

差出申御請書之事

一、今般、御知行所様表御門新規御立替并玄関前
敷名石橋等御普請御出来二付、私共江御用金
式万被仰付候処、難渋之折柄二付、當村半金
壹万差出、殘金壹万之義は、當七月盆前迄日
延御猶予御 奉頼入候
然ル上は、殘金二至迄無相違差出御上納可仕
候

為後日差出申御請書仍而如件

元治二乙丑年四月

- 清右衛門 (印)
- 庄藏
- 辰之助 (印)
- 新五郎 (印)
- 桑次郎 (印)
- 善七 (印)
- 宅介 (印)

Handwritten text from the document, including names and dates.

返済の約定を当事者間で折り合う

文書：2-56
写真：4286
4287

(前文は欠落)

然処、合之上滞高金式百九拾九兩式分銀
十三匁式分之處、當金百五拾兩受取、殘金百四拾
九兩式分銀十三匁式分は、来寅二月二十日限可相
済旨村々連印之新規証文取之以来、双方聊無申分
右出入熟談内済仕候間、何卒御慈悲を以御吟味御
下ケ被成下置候様奉願上候得は、願之通被仰付偏
二御威光と雖有仕合ニ奉存候、依之為後日済口証
文奉差上候、然上は相手一同帰村被仰付被成下置
候様、奉願上候 以上

元治二丑年三月二十九日

- 堀江町三丁目元七地借
- 勝蔵野 宅方
- 願人 甚兵衛
- 家主 元七
- 五人組 辰次郎
- 名主無之組合 新案内町
- 名主 三郎右衛門煩二付代
- 新兵衛
- 村上三十郎様御知行所
- 上総国市原郡八幡村
- 年寄 嘉平治外式人
- 同知行所

同国夷隅郡上布施村
名主 周兵衛後衆

半左衛門外式人

右煩二付代兼 藤右衛門

差添人 武兵衛

右宿 上野仁王門前御家来屋敷

彦右衛門地借

代 新助

御番所様

Large block of handwritten text, likely a copy of the document above.

議定書 (差出申一札之事)

文書：19-26-1
写真：046043

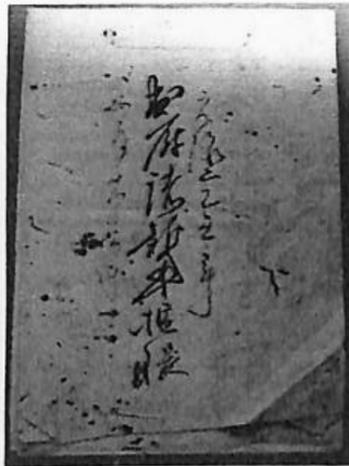
Handwritten text on a document, possibly a copy of the '議定書'.

浪士一錠銘々限罪科始末書 写

文書：32-54
写真：061025

Handwritten text on a document, likely a copy of the '浪士一錠銘々限罪科始末書'.

出府諸訴出扣帳

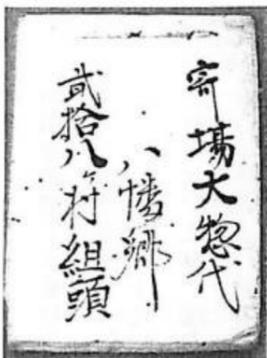


文書：22-4
写真：051050

関東御取締書類留



文書：22-18
写真：051068
~69



鉄砲所持で召捕られた村人の釈放を嘆願

乍恐以書付奉嘆願候

文書：22-52
写真：052083

先般、村内百姓留吉御召捕之節、鉄砲所持罷在、今般、御調之節、同人義奉恐入候前後不都合之儀申上候処、私共村方之儀は、一体山寄二而猪鹿多田畑荒し難儀仕候二付、地頭所江申立、右猪鹿威之多免玉目式刃七分鉄砲耆挺地頭所より払下、年来村役人方二而相預り罷在、當四月十二日右鉄砲留吉江相渡、村内最寄猪鹿為防候処、同人父心得違右鉄砲所持之儘近村江罷越候処、御召捕二相成候義二付、何卒格別之以御慈悲右鉄砲之儀は、村方江御下ケ被成下置候様、偏二奉願上候
然ル上は、以後村役人一同嚴重申合、聊不取締之儀無之様可仕候間、右御開濟被成下置候様奉願上候
以上

慶応元年八月

酒井 知行所

上総国市原郡本江村

役人惣代 組頭 久兵衛

関東御取締御出役

安原森作様

木村信一郎様

盗賊の被害を報告する

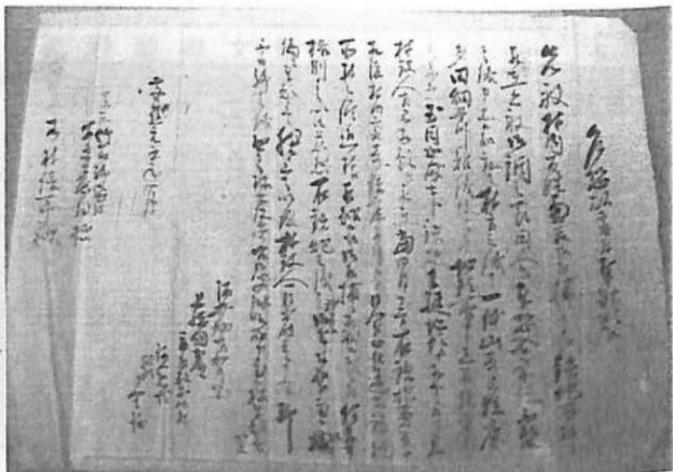
乍恐以書付奉申上候

文書：22-18
写真：051070
~71

板倉内膳正領分上総国山辺郡東金町組頭太郎衛門煩二付、弟与兵衛奉申上候
當四月中辺盗難候始末御・二御座候
此段兄左郎衛門儀高拾七石余所持家内構志人・農間砂糖渡世罷在候処、當四月二十六日夜戸いたし家内一同打外翌朝起出見候処、表入口之戸押明有之候二付、打散二て家内相改見候処、見世戸棚錠前捨放し、銭箱江入置候売溜紛失之品左之通

(中略)

右紛失いたし候二付、金盗賊之仕業と存、其段領主役場江相届ケ置候、御座候、然ル処御召捕二相成候、推津村笹宿傳蔵仕業之旨、今般御吟味にて、儀二御座候
右御尋二付、奉申上之通相違無御座候 以上
御取締 木下成巳平様



請書連印帳 (申渡一札之事)

文書：19-64
写真：047071



長逗留で召捕えられた雲水の赦免を嘆願

乍恐以書付奉嘆願候

文書：30-78-41
写真：059002
~06

山下中務知行所上総国望陀郡
年番名主喜兵衛并左之名前之もの共奉申上候、大和義如何之風聞
先般、御廻村先において御召捕二相成下置取扱占ホ菅雲水之身分去四ヶ年
当たり村江風と参り 餘りに持病難治二付、一宿為致候様被相欲
出生も暁と不相糺、辻堂江一泊為致候処、其砌より追々病氣差重り療治手当いたし候内、追々月日相過、其俣差置候段、今般、御調受奉恐入候、然ル処、御吟味中當時病氣之由申立、全病氣二相違無之様相見江、幾重にも御下ケ御慈悲之御沙汰願上候様、私共江取難見忍、歎ケ敷、不願、
恐多只願奉嘆願候
然ル上は、夫々薬用手当ホ仕、全快次第、三州出生之由二付、右生国江送り届度奉存候間、何卒格別之以御慈悲御吟味是迄にて、御下ケ被成下置候様、俱二奉嘆願候 以上

慶応元年八月

山下中務知行所

上総国望陀郡矢野村

村役人惣代 年番名主 喜兵衛

水野国之助知行所

同国市原郡八幡村

役人惣代 名主 久平

松本駿河守知行所

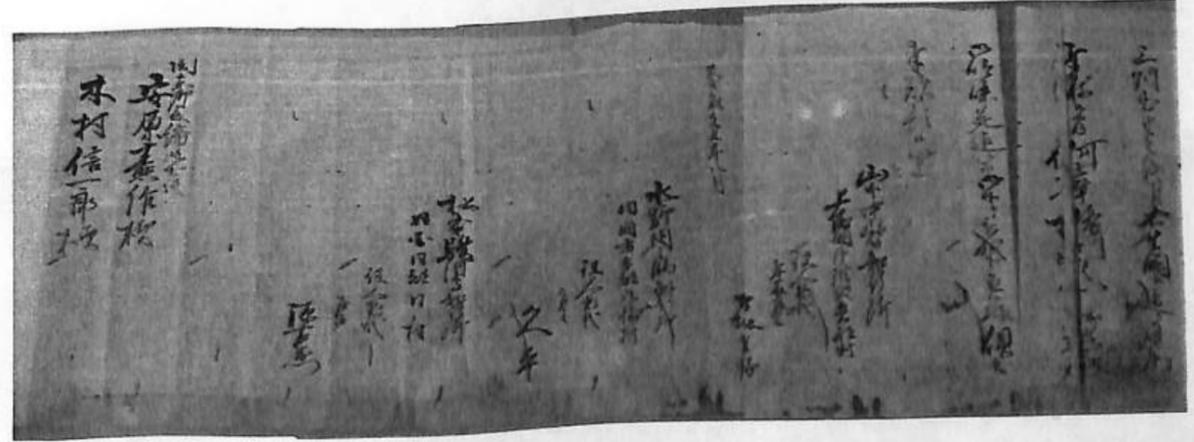
同国同郡同村

役人惣代 名主 源右衛門

関東御取締御出役

安原森作様

木村信一郎様



穀屋共居宅打毀につき吟味

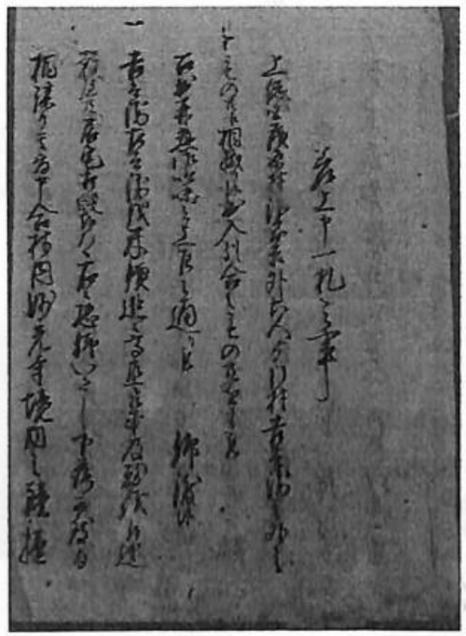
差出申一札之事

上総国茂原村治郎吉外六人と同村吉兵衛其外之もの共江相掛り候出入引合之もの共をも、被召出・悪御吟味之上、左之通り被仰渡候

一、吉兵衛左兵衛儀、米価追々高直二相成、及難儀候込、穀屋共居宅打毀候わば、右二恐怖いたし下落可致旨、相謀り其旨申合、村内妙光寺之鐘撞・・・

(以下一写真なし)

文書：19-42
写真：047030



年貢不納につき質地を渡す

相渡申質地証文之事

- 一 上田 五畝拾式歩
- 一 下田 五畝拾式歩

一 覚 村上様御組

右は、當ノ七御年貢御上納差支、書面之田地御水帳二引合、當ノ七年より来ル戌年迄拾ヶ年之質地貴殿江相渡し・金貳拾六兩壹分永百五拾文也、只今儘に受取御年貢御上納申込、実正候御座候、然ル上は、御年貢諸夫錢亦貴殿にて御勤可相成候、年季納候わば流地之御座候間、貴殿御勝手ニ 永々御所持可相成候、年季中共右金子調達返済之節は、此証文御引替御渡し可相成候、且右地所二付、照合之故障亦一切・候万々一、彼是申者有之候節は、加印之我亦何方迄茂罷出、得明聊以二貴殿江御損亡御苦勞相懸間敷候、為後日質地証文仍而如件

文書：22-74
写真：052116

慶応元年巳十月

質地主 半五郎

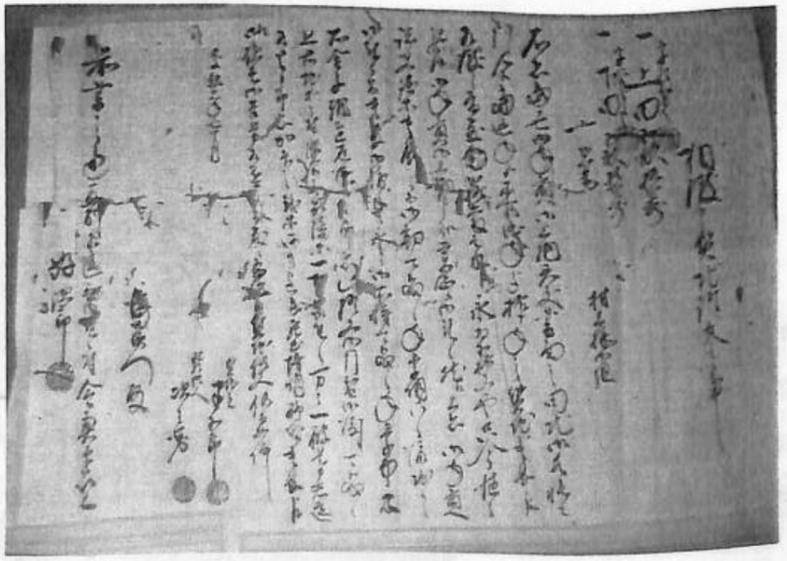
親類証人 次兵衛

徳右衛門殿

前書之通、反別相違無御座候二付、令奥印候

以上

好次郎(印)



八幡宮社海面地先の使用についてお尋に御答

文書：24-11
写真：054030
~31

乍恐以書付奉申上候

上総国市原郡八幡村給之役人惣代當御支配所名主
喜右衛門外老人奉申上候、八幡宮社海面地先滞筋
之儀、慶長年中より冥加金年々尙づつ東・村方
より差出し候哉、之旨御尋ニ御座候、此段、天明
年中、金杉村庄左衛門坂本村又兵衛、當村地先海
面塩濱開發受地之砌、八幡社前定杭より丑寅之方
江居村裏通四百參拾間余、炭薪其外諸荷物船積場
として、赤井越前守様御奉行之節、御除被仰付候
上は、村方地先海面と相心得候間、天明度以来は
勿論其前逆茂、藩代冥加金八幡宮社役方江差出し
候覚一切無御座候、御尋ニ付、此段奉申上候

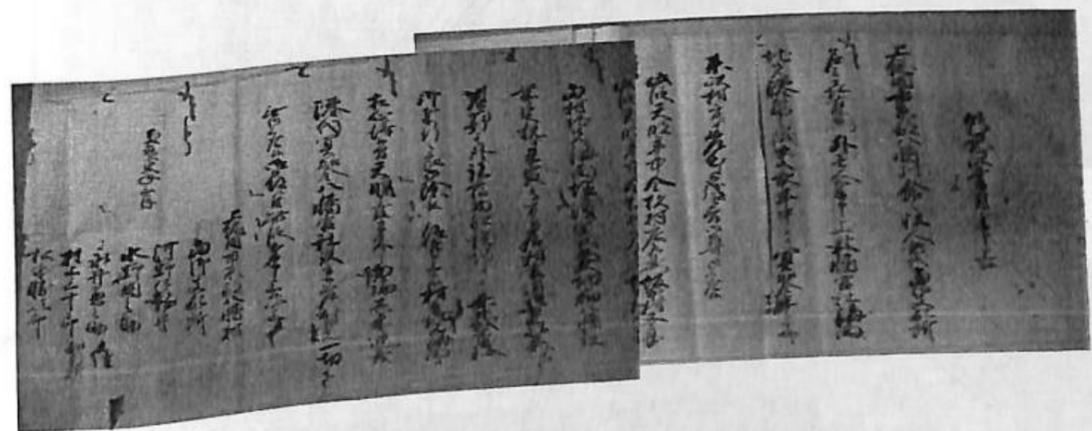
以上

慶応二寅年三月

上総国市原郡八幡村當御支配所

- 河野伊予守
- 水野図之助
- 永井兼之助
- 村上三十郎知行所
- 松本勝次郎
- 岩本数馬
- 佐野藤次郎
- 右給々役人惣代

當御支配所 名主 喜右衛門
村上三十郎知行所
組頭 藤右衛門



文書：24-13
写真：054034



- 同 喜兵衛(印)
- 同 源助(印)
- 同 清右衛門(印)
- 同 平八(印)
- 同 源太郎(印)

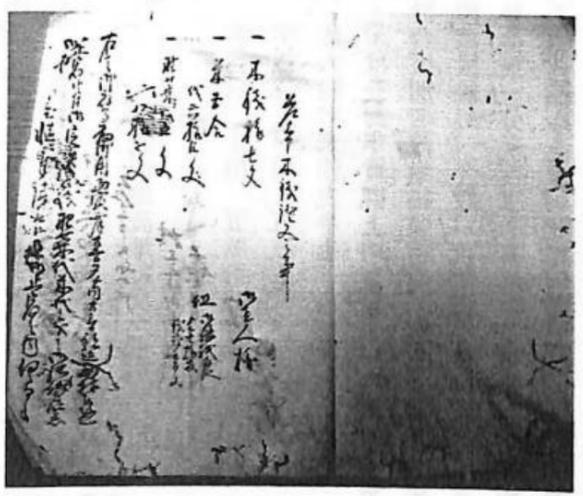
御用捨米并御拝借米勘定帳

文書：24-97-2
写真：055139



上 八幡村(差上申木錢証文之事)

文書：2-58
写真：4289
~90



扶食金を借用する

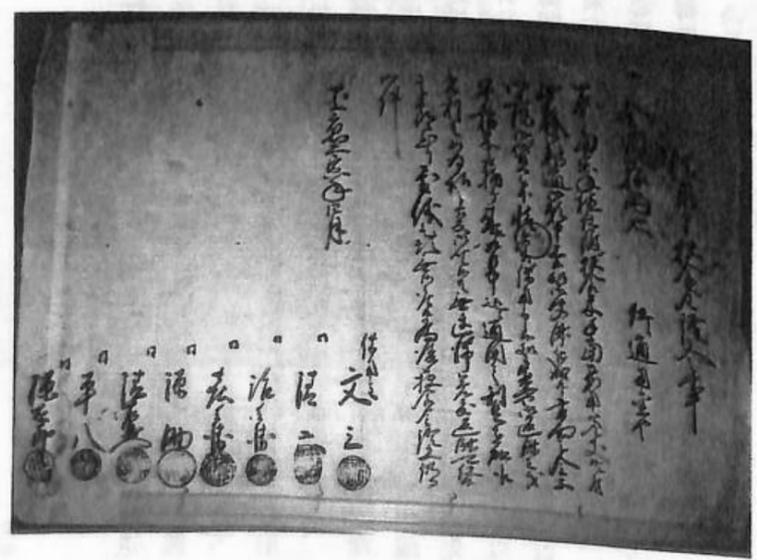
借用申扶食金証文之事

文書：22-94-1
写真：053010

一 金四拾兩也 但し通用金也
右は、當寅年植仕附、扶食米手当要用差支候二付
無・御融通御願申上候處、御聞濟被成下、書面之
金子御工風御貸被下、儲受取借用申候處、実正也、
御返済之儀、早稲米鳥揚分来ル九月中迄二通用之
利息を加江、元利共如何様之亥御座候共、無遅滞
差度返済可仕候
其節ニ至リ、儀・預無御座候、為後日扶食金証文
仍而如件

慶應二寅年四月

- 借用主 文三(印)
- 同 清六(印)
- 同 治兵衛(印)



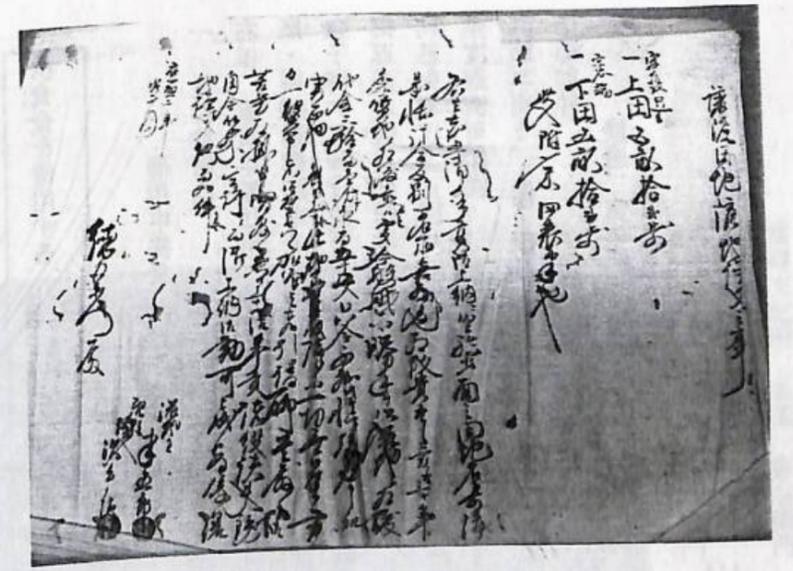
田地を質入する

讓渡田地流地証文之事

文書：22-72
写真：052114

一 字發只 上田 五畝拾式步
一 字谷端 下田 五畝拾式步
此入附ノ米四表半也
各・は丑御年貢御上納ニ・一面之田地名寄御寄
帳計合反別名前無相違相改、貴・方江三ヶ年季質
地相渡置候処、今般、我亦勝手ヲ以滞ニ相致、代
金參拾兩一分永百五十文只今不殘儘請取申候処、
実正也、然ル上は、此地所奉故障亦一切無御座候
方ニ一彼是申者御座候わば、加印之者引請、聊貴
殿江御苦勞相掛申間敷候、御年貢諸役諸夫錢自
今以來、茲許ニて、御上納御勤可被成候
為後日、流地証文、仍而如件

慶應二年寅正月
流地主 半五郎 (印)
親類証人 次兵衛 (印)
徳左衛門殿



河岸の使用について

文書：3-84-1
写真：4895~6
4898

差上申一札之事

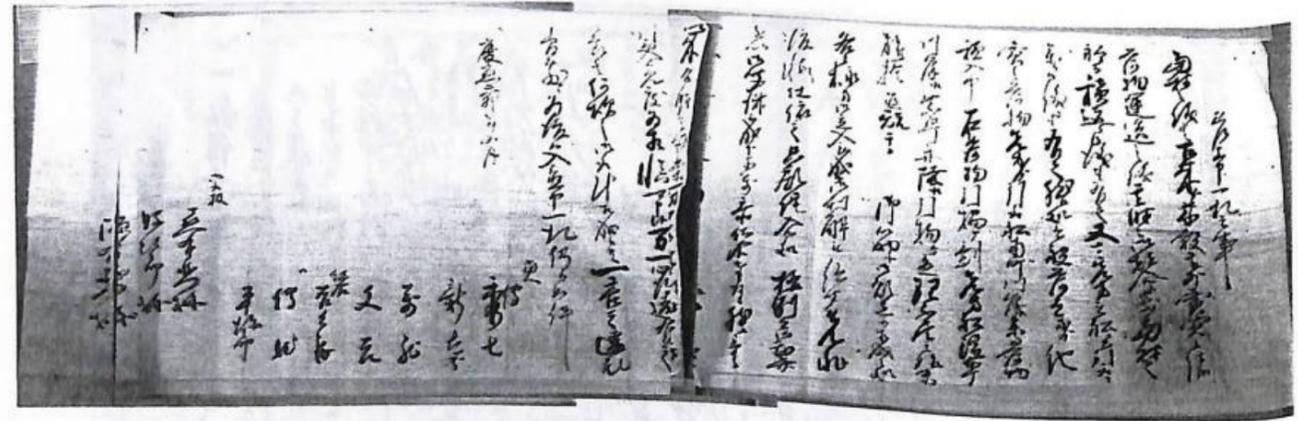
當村之儀は、古来より米穀其外売買之諸荷物運送
之儀、其時々御都合ニ寄、當村之船に積返り候儀
も有之、又は先方之船にて引取参り候儀にも有之、
然ル処、今般、荷主方より他売之荷物先方より引
取船、南町川岸江参り、荷物積入中右荷物引揚ケ、
即先方船、濱本町川岸江・船陸江引揚ケ置、理
不尽之始末難捨置、既其 御筋江御願立可相成
之処、各々様方御立入被成下、御利解被仰聞、先
非後悔仕、依之只願託入候処、格別之御勘弁を以 32
御聞濟被成下、千万忝仕合奉存候、然ル上は、以
来右林之所業一切無御座候様、加印之我亦引受、
急度為相慎可申候、万一心得違有之候節は何様之
御取計相成共、一言之違礼申間敷候
為後日、入置申一札、仍而如件
慶応三卯年正月

当人 倅 秀七
新太郎
萬藏
文吉
組合
吉兵衛

御取扱

喜右衛門様
好次郎様
源右衛門様

傳藏
平次郎

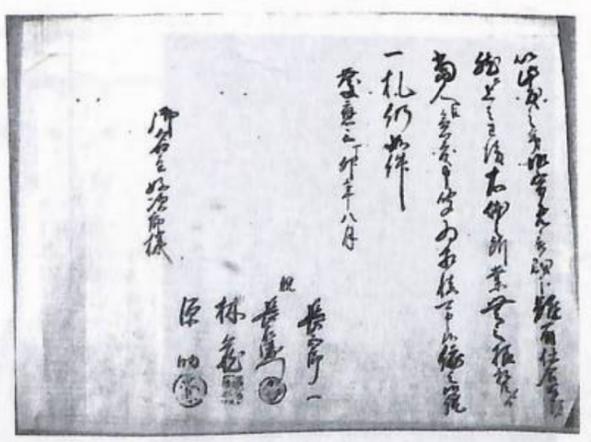


所業を詫びる

文書：19-21-15
写真：046037

以此度之義、御有免候被成下、難有仕合ニ奉致候、
然ル上は、已後、右体之所業無之様、私共より當
人江急度申聞、為相慎可申候、
依之御託一札仍如件
慶應三丁卯年八月

長五郎
親 長右衛門 (印)
林藏 (印)
源助 (印)



出稼人の世話を依頼する

文書：19-35
写真：047004

頼書之事

一 私組下百姓五郎左衛門義、農間渡世染屋致来り候処、今般、其御村方江出稼仕度義、被相願候二付、往其意差遣し候間、出稼中百姓同様御世話被成下、右五郎左衛門義出稼中、何様之儀出来候共御沙汰次第、早速引取其御村方江、聊御迷惑相掛申間敷候、依之、差出申頼書一札如件

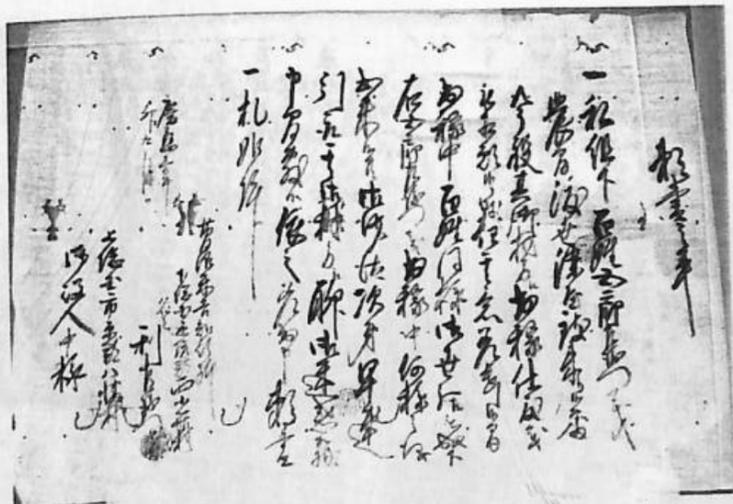
慶應三年卯九月 日

菅沼米吉知行所

下総国匝瑳郡西芝世村

名主 利左衛門(印)

上総国市原郡八幡村 御役人中様



御請書連印帳

文書：19-128
写真：049072



覚

文書：2-39
写真：4263



関東御取締出役印

文書：19-126
写真：049068
~70

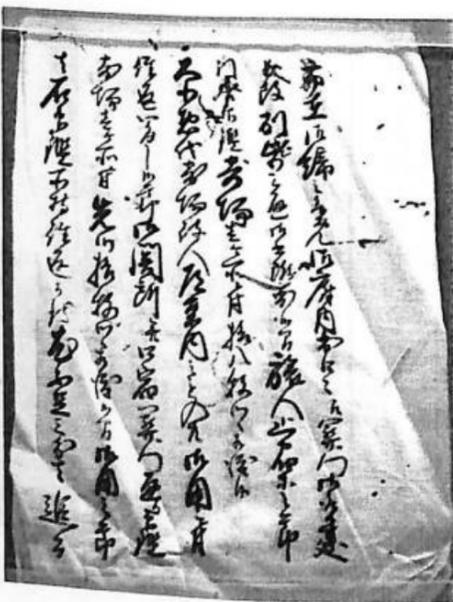
市在御締之ため、御府内出口々江、関東御取・処・改別・之通御書附出候間、旅人止宿ホ之節、門合印鑑寄場老ケ所二付、拾八枚づつ相渡候

一、大小惣代寄場役人道案内之もの共御用二付、往返いたし候節御関所并口宿関東通り印鑑寄場老ケ所二付、先候拾枚づつ相渡候間、御用之節は、右印鑑所持往返可致、尤不足之分は追つて可相渡候

一、馬喰町御用屋敷詰三分御代官方より御用出之もの印鑑所持致候間、為心得寄場々々江引合印鑑老ケづつ相渡候

右之通相心得、寄場老ケ所二付、引合印鑑拾九枚、通り印鑑拾枚づつ請取、寄場下江・請印残り印鑑相添・付を以、早々 達留りより吉田都助

(以下欠落)



年貢などの上納を約束する

差上申一札之事

一、字老川 見取畑 八畝拾六分

右之畑御・被下候処、今般、私家再建二相成、依之御下ケ被成下候頼申入候処、御聴濟御下ケ御渡し被下置、儘二請取申候、

然ル上は、當辰年より御年貢諸夫錢・割附之通り御上納可仕候、

為後日、差入申候処、仍而如件
慶応四戊辰年正月

文書：19-28
写真：046047

村上様御組 御役人中様

利兵衛(印)



出府嘆願を申し合わす

申合一札之事

一、當村之儀は、廉田多にて上地等も有之、諸夫
錢方難渋二付、依之、村方積金を以、銘々久々
承納之、開發いたし諸夫錢余、二いたし、二
付、一同申合、四十ヶ年前、御地頭所様江申
立之上開發取掛り漸々此取懸田相成可申哉之
処、今般、御代官小川達太郎様御役所にて御
聞、相成候哉、右場所御、入可、候得共支
配名主喜衛門江被申開候趣承知仕、若右様相
成候は、村役人共一同
相成難渋被在、依之此度
御、様江右之段奉申上村方永続相成候様、
御仕、御沙汰奉願上度、一同出府奉嘆願度
申合一札、仍而如件

慶応四辰年正月

名主 書太郎

倅源右衛門

儀兵衛

久平

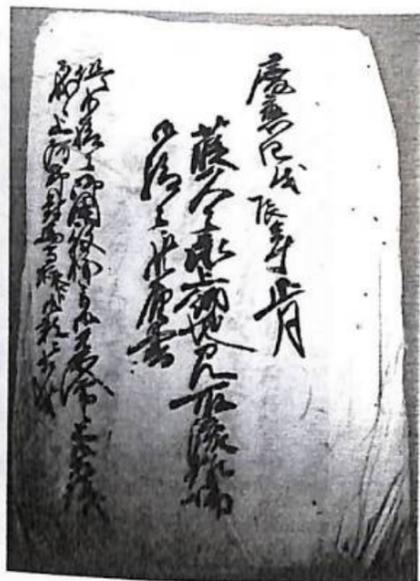
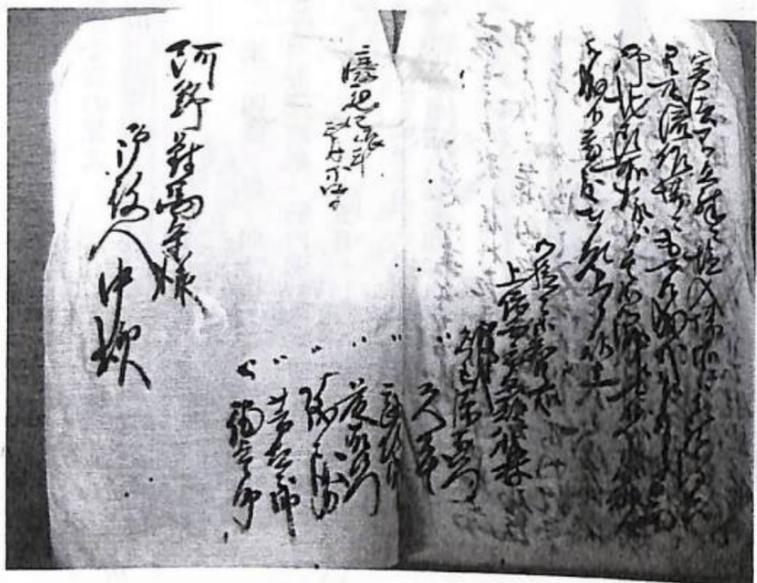
源右衛門

好次郎

勘次郎

徳太郎

文書：2-67-2
写真：4315



給金を問屋に支払う

覚

一、金三十五兩

右は吉書給金三ヶ月分

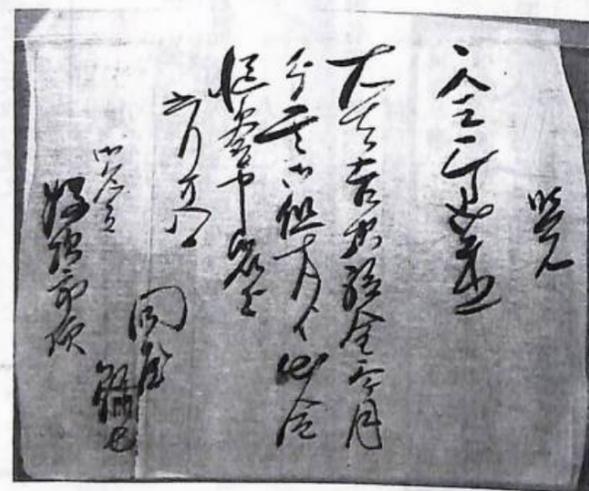
其御組方より出金儘受取申候 以上

六月二十八日

問屋 弥七

御名主 好次郎様

文書：24-65-4
写真：055048



塩普請の代金を立替える

覚

一、金五兩也

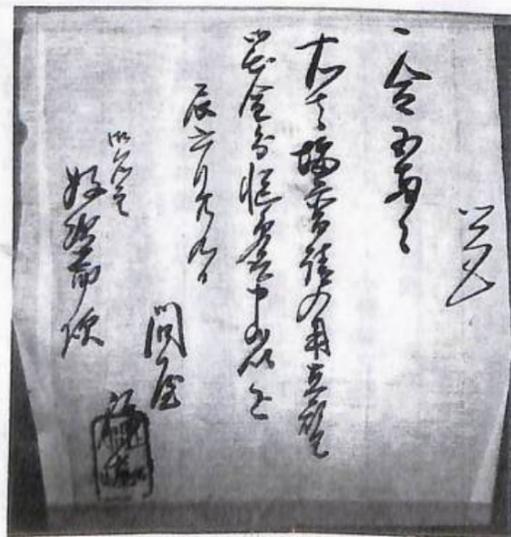
右は塩普請入用立替御出金分

儘受取申候 以上

辰六月二十九日

問屋 弥七

御名主 好次郎様



届書

慶応四辰年正月

藤久之丞上納地見取流船場

御給々此届書

但し此給之御用役

御受 之上御相談相成候上、

阿野对馬守様江御頼二相成

・塩入場所二は御座候得共、見取流作場二も

可相成哉二と存候間、當御地頭所様より其御

筋江、可然御窺被成下置度、奉願上候 以上

慶応四辰年正月二十四日

御給々御知行所

上総国市原郡八幡村

惣代 名主 源右衛門

同 久平

同 勘次郎

同 藤左衛門

同 儀兵衛

同 芳太郎

同 徳太郎

阿野对馬守様 御役人中様

文書：2-55-1
写真：4282~3

文書：24-65-8
写真：055057



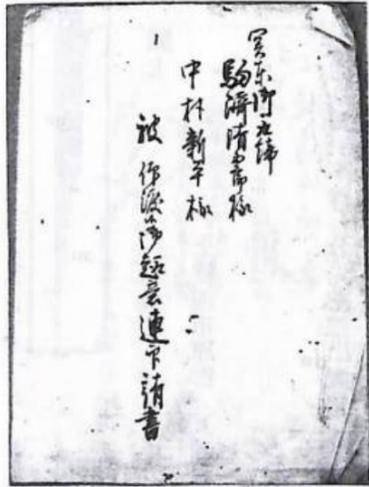
御名主 好次郎殿

一、金壹両貳分
右は、内谷一条二付、河西様江御礼并出府入
用分
慥受取申候
辰二月二十一日

惣代 源七郎

出府入用金を受取る

文書：24-65-11
写真：055064



関東御取締

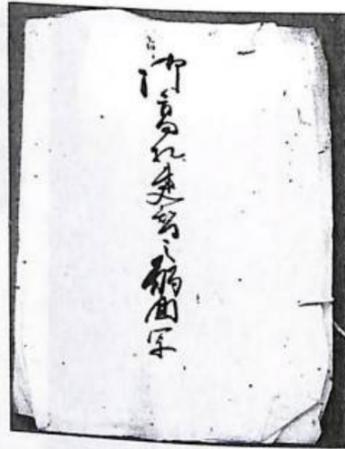
駒崎清伍郎様

中村新平様

被仰渡御趣意連印請書

被仰渡御趣意連印請書

文書：20-3
写真：050037



御高札建替之触届 (写)

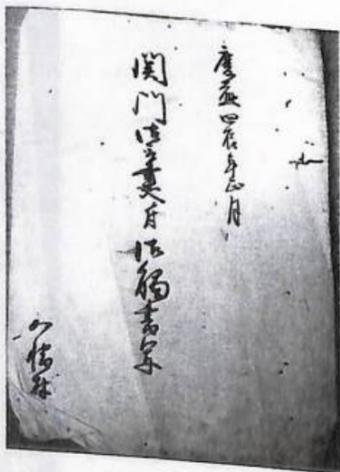
文書：19-41-1
写真：047011



知県事御役所提出書の控

慶應四辰年七月
知県事御役所江 書上ケ留控

文書：22-89-2
写真：053004



関門事件に係る御触書写

慶應四辰年正月
関門御取 二付 御触書写

八幡村

文書：22-59
写真：052093

給米受取の覚え

覚

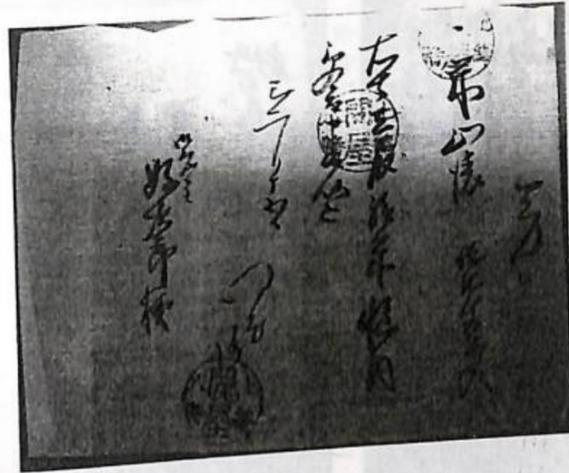
一米 四俵 但 四斗罷入
右は、去辰給米 慥内受取申候 以上

巳二月十五日

御名主 好次郎様

問屋 弥七(印)

文書：24-69-3d
写真：055091



給金の受取の覚え

覚

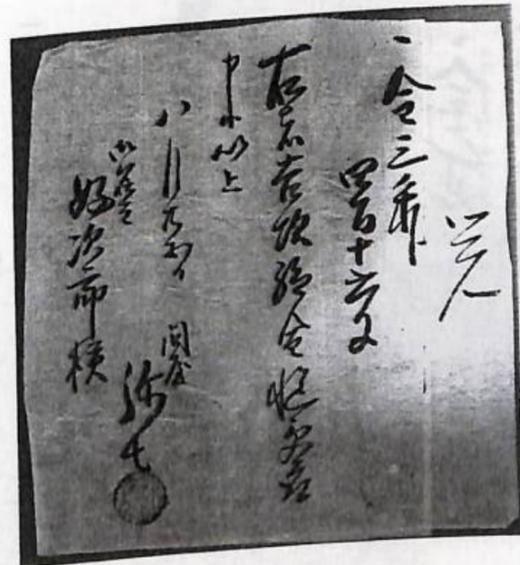
一金 三朱四百十六文
右は、吉次給金 慥受取申候 以上

八月二十五日

御名主 好次郎様

問屋 弥七(印)

文書：24-69-3h
写真：055095



白米受取りの覚え

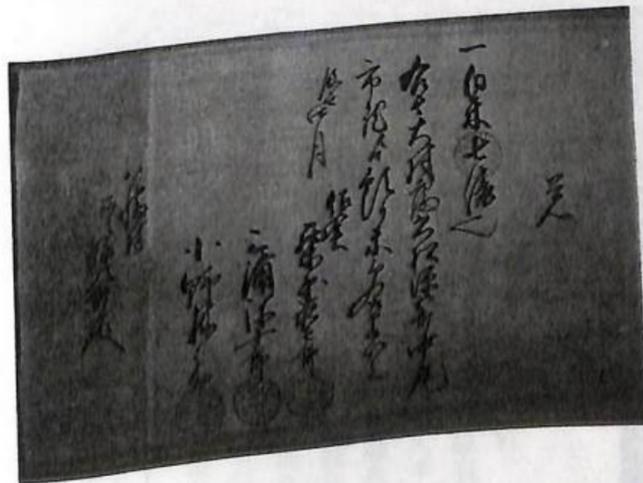
覚

一、白米七俵也
右は大村処、久松源五郎、中尾市蔵より預り
来、受取申候 以上

辰壬四月

佐倉 栗原庄次郎(印)
三浦弥十郎(印)
小野林之助(印)
八幡村 名主 好次郎殿

文書：24-65-6
写真：055052



當辰年御賄分上納願い

上 願書 願書写
上総国市原郡 八幡村

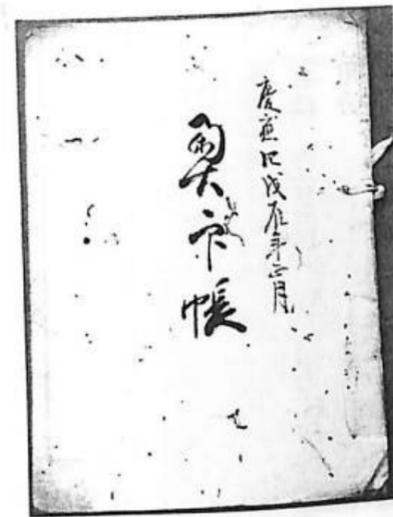
文書：22-70
写真：052111



奥印帳

慶應四戊辰年正月

文書：19-135
写真：050006



先納分の容認願い

願上

上総国市原郡 八幡宿

文書：24-36
写真：054068~9

右之通り當辰年御 分先納差出置候間、何
格別之以御慈悲、御憐憫之御沙汰奉願上候 以上
明治元辰年十一月

村上三十郎元知行

上総国市原郡八幡宿

百姓代 吉三郎 (印)

組頭 孫八 (印)

同 藤右衛門 (印)

名主 好次郎 (印)

御領主様 御役所



土地の申告

上

上総国市原郡 八幡宿

文書：30-52
写真：058001~3

- 一字神明原 新中畑 五畝拾九歩
- 一同所 新下畑 式畝歩
- 一同所 新下畑 壹畝貳拾貳歩
- 字川田 新下畑 壹畝拾貳歩
- 高三斗貳升三合 石盛 三
- 新下畑壹反貳拾三歩 但壹反二付九升取
- 取米九升六合九夕 (中略)

御用地二相成申候

右之通り取調奉申上候 以上

明治元辰年十二月

名主 久平

民政 飯 御役所

- 一字神明原 新下畑 式畝歩 持主 佐右衛門
- 高二斗 石盛 三
- 取米 壹升八合 但 壹反二付 九升取
- 御用地候相成



転居先に連絡する

文書：30-78-17
写真：058078

人別送り状之事

・組下百姓五郎・倅吉助義村方二において惣間・品染方渡世仕候処、土地不相當にて、右・は行届兼妻子共引連、其御村升利宜敷候哉、御地江罷越右渡世仕度段、数度被申出候間、貴意二出精中、當方人別相除候間、其御村方御人別二御書加被下度願入候、尤當人出精中、何様之儀出来いたし候共、御村之規則を以、宜敷御取計之段、又、頼入候、依之人別送り書一札差入、如件

明治元年辰十二月

御料 知県事支配所

下総国層逆睦郡西小笹村

名主 佐兵衛(印)

上総国市原郡八幡村 御役人中様



収納米引当御賄を先納する

上 願書

上総国市原郡

八幡宿

文書：19-76
写真：048008~9

都合 米 五拾貳俵

金 九拾三両老分式朱分

式百三拾式文

右之通り辰年御収納米引當御賄先納仕候 以上

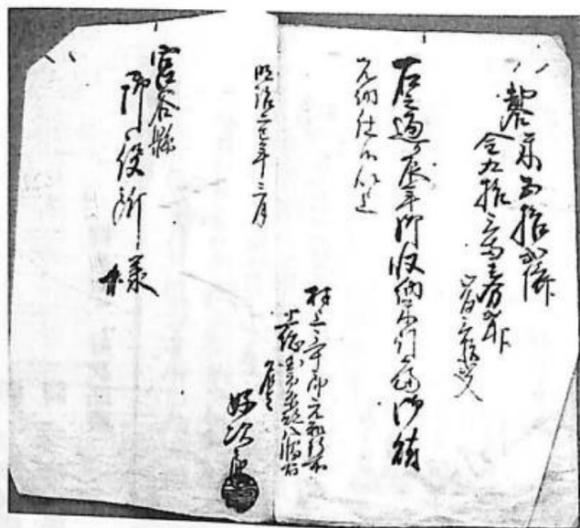
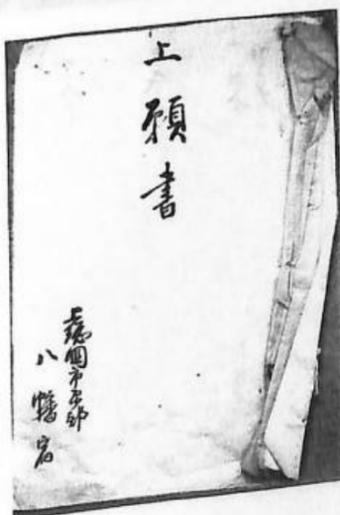
明治二巳年三月

村上三十郎元知行所

上総国市原郡八幡宿

名主 好次郎(印)

宮谷県御役所様



御支配についてお願い

文書：19-92-5
写真：048049~51

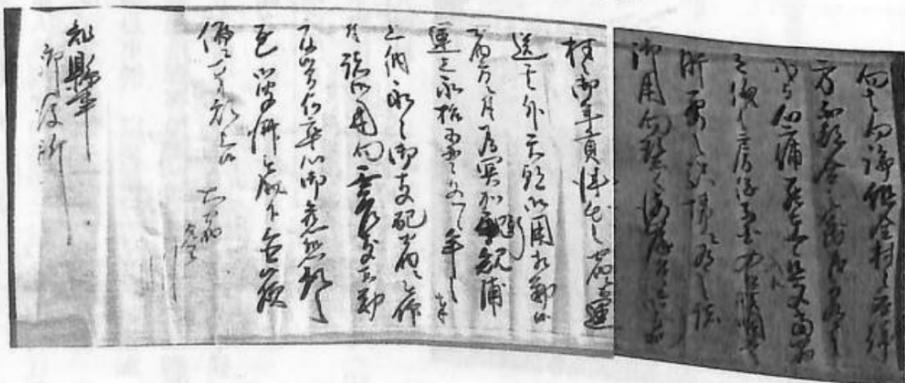
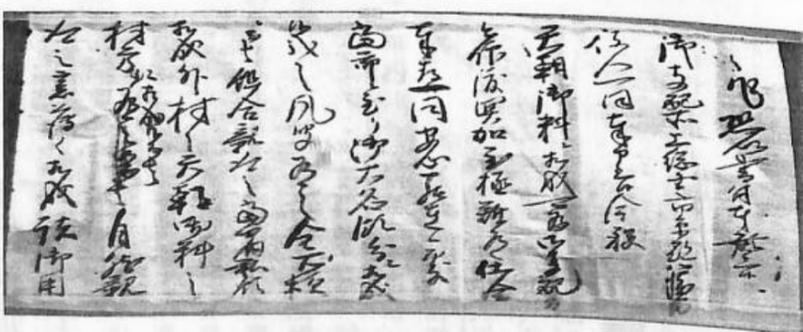
乍恐以書付奉願上候

御支配所上総国市原郡八幡宿役人一同奉申上候、今般、天朝御料二相成可為御支配方被仰渡、冥加至極難有仕合奉存一同安心罷在候処、當節二至り御大名領分二相成候哉之風聞有之、全右様にては組合親郷之當宿、私領相成、外村々天朝御料之村方二相成候にては、自然親郷之意薄く相成、諸御

用向は勿論、組合村々取締方不都合之義茂可有之哉と心痛罷在候、且又當宿之儀は、房総南国入口喉咽・肝要之駅場二有之、諸御用向方堅く、海岸付にて、御支配村々御年貢津出し宿にて、運送其外天朝御用相勤候宿方二付、為冥加新親浦運上永拾五貫文づつ、年々奉納、永々御支配宿二被仰付、諸御用向無差支相勤度候間、何卒以慈悲願之通御聞濟被成下置候様、偏二奉願上候

右宿 名主

知県事 御役所



御陣屋の建築費用を負担する

文書：19-34
写真：046051

御頼申一札之事

今般、御陣屋御取建二相成哉二付、右之段偶々御取合セ之儀、御頼申上候処、御開濟被下置奉存候、然ル上は、諸入用何程にても無滞出銀可仕、依之頼一札差入申候処如件

十月

名主 忠兵衛(印)
同 儀兵衛(印)
同 久平(印)
同 佐右衛門(印)
同 源右衛門(印)
同 徳太郎(印)

御名主 好次郎殿



山年貢を受取る

文書：22-101
写真：053037

覚

一米 六升五合

當巳山御年貢也

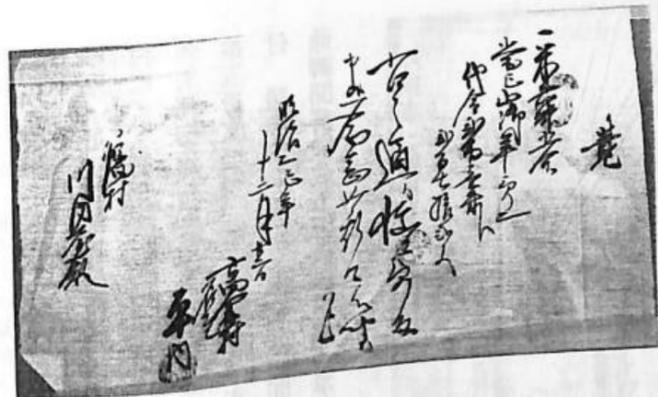
代金貳両壹朱分 貳百七拾貳分

右之通り、儲二受取申候、倉岡薪・御座候

明治二巳年十二月二十二日

八幡村 川内屋殿

高倉村 名主 平内



当村人の転居に伴い人別を移す

文書：30-123
写真：059119

送り一札之事

拙寺檀那五郎左衛門儀、代々真儀真言宗にて... 無御座候、右當人儀商売向勝手二付、其御村江罷越、渡世致し度、當人親類一同、達而願二付、寺院之通送り差出し申候、以来御村方人別二差加へ被下致、病・候節は御菩提所にて御寺法を以御取置被成下度候、尤其節、拙寺方江御届二及不申候、為其送り一札如之候 以上

明治貳年巳四月

下総国匝瑳郡西小笹村 妙福寺(印)

上総国市原郡八幡村



名主書類引継ぎ覚之

文書：24-8
写真：054022~3

覚

- 一 宝永七寅年 田畑水帳記 三冊
- 一 寛延元年十月 辰御割附 老冊
- 一 明和七寅年十一月改分 田畑水帳記 三冊
- 一 文政五年午十月 田畑反別御年貢取掛帳 老冊
- 一 文政六年末八月改分 御田畑水帳 貳冊
- 一 船鑑札四枚 庄八分
- 一 庄八分
- 一 金兵衛分
- 一 喜右衛門分

外二

- 一 巳明治二年 御年貢米老人別割附帳 老冊
- 一 上地賄地入附帳 老冊
- 一 御用地書上帳写 老冊

右之通儲二受取申候、為念・御座候 以上

明治二巳年五月十四日

立会人 問屋 弥七(印)
名主 徳右衛門(印)
同 市兵衛(印)
組頭 孫八(印)

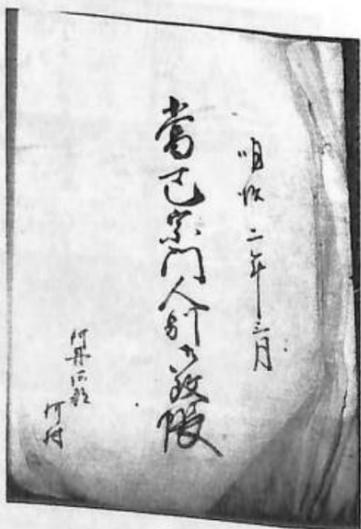
先名主 好次郎殿

百姓代 与平次(印)



宗門人別御改帳(見本)

文書：41-12
写真：063063



伝達の言付け

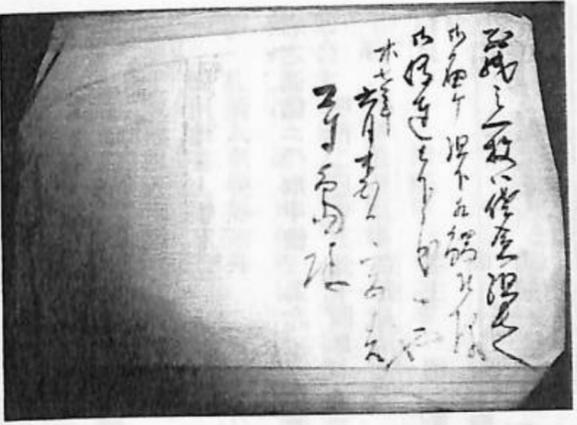
文書：22-99-9
写真：053031

前紙之一枚ハ、佐倉組長へ御届ケ、組下相触の様、御伝達被下度候也

未七年六月二十五日

寺島殿

官吉



宿助郷助成に係る借金の返済

覚

文書：24-56
写真：055037

上総国市原郡八幡村 庄五郎

- 一 辰より酉迄五ヶ年割・ 元金 拾兩
- 一 高分四拾兩 利金六兩 外金壹分

未正月二日是利
右之金子宿助郷助成御貸候 太十郎
元利書面之通受取候 以上

川崎平次郎代 名和政兵衛 (印)

江戸表との連絡を頼む

文書：24-65-5
写真：055049~51

急便りヲ以、啓上いたし候、然ば去月二十一日出立にて御迎之人老人差遣申し候処、其村方共は、日々立寄、直様、布施村江立越し趣にて、書状にて御申越被下候間、右之段承知いたし候

尤、雨は勝二日送り・今まで一向沙汰無之、甚々心配仕候、且亦、昨今之処にては、船橋行徳寺郷江惣方之軍勢操出し、往來六ヶ敷、右ホ之取沙汰二途中、布施村江御引返之義存候とは相心得候得共、何分御沙汰無之、何連二布施村役へ取斗申候事哉、一同相分り、兼々、同二十一日差遣申し候、使の者若し二十六日五刻御分家迄飛脚之者兩人共、其俣にて是又手間為申事相分兼、右二付急使ヲ差遣候旨、其村方へ一・御頼申候、右使の者直廻布施村江立越申し候間、當節柄迷惑にて有之候得共、其村より急使の者老人御差し出被下、若亦、急船の便り御座候は、舟に御届二付宜敷可相成は其村方々仕立飛脚にてへ江戸表迄差下、右江・敷布施村より其村方江、御越二相成にて又々御引戻二相成候哉、又は其村迄御宿・不相成候に長柄山長南辺より御引戻相成申候事哉

書面二 何分二も急便にて申越候分此段與々も御頼申入候 右可得貴意早々以上



飯米の先納を頼む

文書：19-144-12
写真：050022

向嶋喜兵衛 (印)
佐藤三次兵衛 (印)

急御用状ヲ以、啓上いたし然ば、先日中便船方申入置候飯米先納之御頼申入、尤日限亦迄申入置之候御承知候得共、猶又、申乍様々申遣にて無相違当月二十五日頃の着二相成之様量り頼申候、且布施村二御用書御届被成候・

尤布施村・急場當面有之、右二付此度飛脚差置申候

右御頼之儀、日限之通無相違、差・候、此段可得貴意候

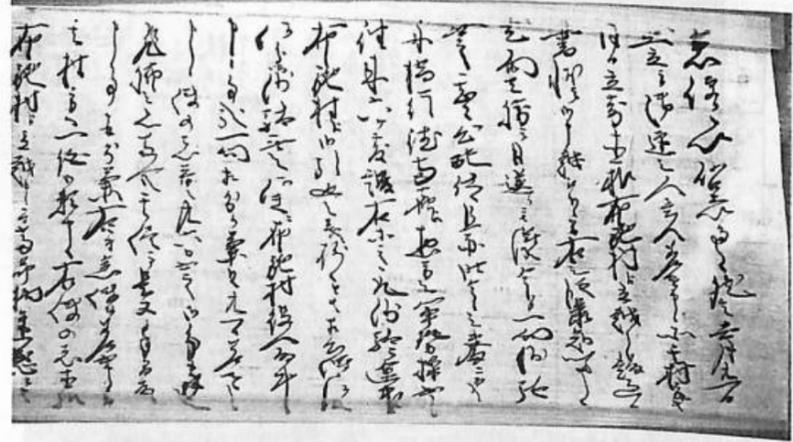
四月十九日

八幡村 石川政之丞 (印)

壬月四日

地頭所にて 石川政之丞
八幡村 名主 寺嶋好次郎殿
組頭 菊地藤右衛門殿
同 渡辺勘助殿

書以 使直様布施村江立越申上、前文之次第二付、其村方ハ・敷急便ニテ御申越被下候、此段與々も御頼申入也



書面之通可得其意・
三十 (印)

名主 寺嶋好次郎殿



知行地からの引き揚げ

文書：24-65-10
写真：055063

以使、啓上いたし候、然ば道中御家族様方御引揚之節、其村方江御逗留二相成候処、前後戦争之場合二付、菊間村へ御立退二相成申候由、飛脚之者立帰、右之義申聞候二付、俄出立御一統様御引戻申候、其砌立寄申急応挨拶可申上候、惣方人数込入候而、菊間村より直様御引戻申上候、右彼是御世話二相成及舟に積合荷物之儀、来ル十一日御屋敷着二相成申候間、御安意可被下、且其邊は追々紙御荷物御取戻二相成候。以上
御頼申入候、右は此度使の者差遣申候、仍如件可候わば、右可得貴意早々 以上

壬四月十五日

石川政之丞(印)

八幡村
名主 寺嶋好次郎殿
組頭 菊地藤右衛門殿
同 渡辺勘介殿

荷物の船積手配を頼む

文書：24-65-7a
写真：055053-4

以飛札、啓上いたし候、然ば去ル二十六日御分家之飛脚差遣申候節、御荷物別紙書之通、積戻申候様、書面を以申遣候処、今夕積送り無之、殊二追々其最寄騒敷相成候趣、且、行徳邊は、焼拂候由承り、若右様之事有之候にて、御荷物不残其村方江相預申候二付、実々當惑之事二存候、右二付、今日亦々使之者老人差遣候間、急便之舟江、積立可申候、御大切之御品々預り置候得共、右村方にて然 可申存候、右故取急積立可申候、尤運賃之義は、精々御立替御頼申候、不足分は、江戸着にて舟頭江直様相拂可申候間、當節柄場合二付、何分取急積立可申候、右御頼可得貴意早々 以上
壬四月五日

八幡村
名主 寺嶋好次郎殿
組頭 菊地藤右衛門殿
同 渡辺勘介殿

石川政之丞(印)



送り荷物の内訳

別口
壱番 長持 壱丁
貳番 長持 壱丁
壱番 長持 壱丁
五番 長持 壱丁
・ 九津々分 壱丁

文書：24-65-2
写真：055046



此内角婦世萬藏二ツ入込申候処

式番 小付 も之の箱
本萬藏 二丁
紙の明荷 二丁
右之通御渡可届候 以上

壬四月十五日

石川政之丞(印)

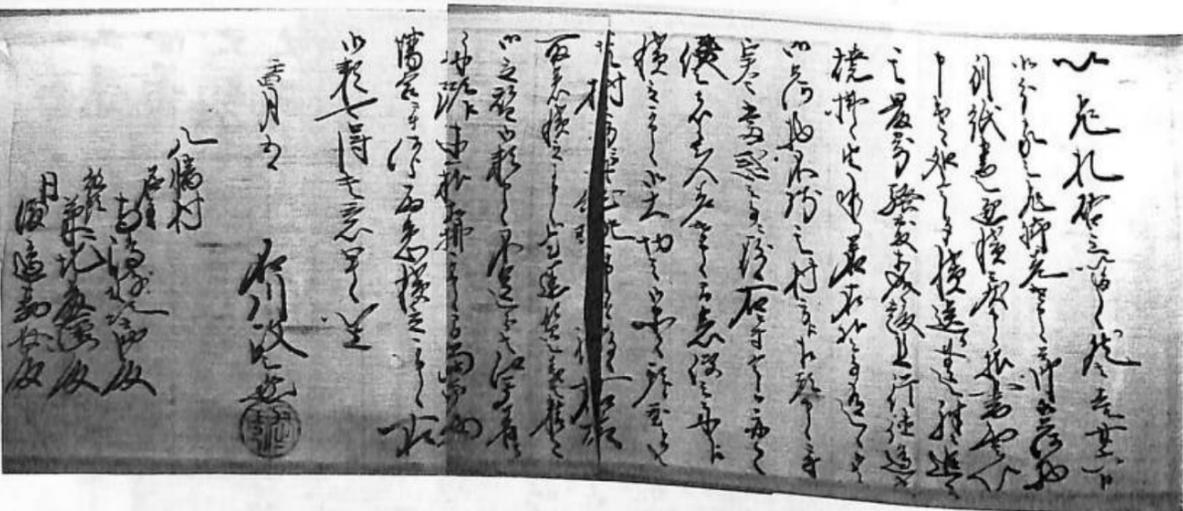
送り荷物を積戻す

文書：24-65-7b
写真：055055

一、名印刀たん
一、諸より横送り申候夜着包
右之品同様御取斗、御積戻御頼申候 以上

石川政之丞(印)

八幡村
名主 寺嶋好次郎殿



送り荷物の内訳

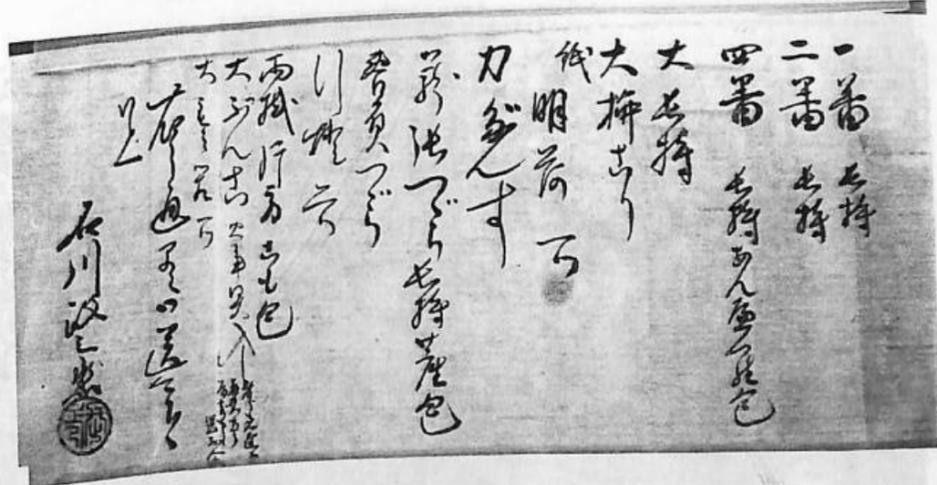
- 一番 長持
 - 二番 長持
 - 四番 長持あん通羅包
 - 大長持
 - 大柳こり
 - 紙 明荷 一ツ
 - 力だんす
 - 御 張つづら 長持・包
 - 背負つづら
 - 引 二ツ
 - 両掛行方 こも包
 - 大ぶんど 火事具入
 - 大もの箱 一ツ
- 右之通早々御送可下候 以上
- 石川政之丞(印)

文書：24-65-7c
写真：055056

分 有之、又々御飛脚着二付、其段布施村江御通
達申上候所、當月二日當村江御着二相成、此段、
左様御承行乃 上候、将又、先達ては 御武家
様方船宿中山邊江・・・・ 相成、官軍向合二
候二付、騒敷二右之段、奉申上候處、無不船御定
二相成、三日村船相雇無不沖迄出帆致候處、大風
にて立帰り申候、然ル處、三日下総八幡船場邊に
て、戦争二相成、鹿野壘 より 早行統、夫々
同所繰出し、小前百姓共に迄人馬二 悪事只と
之処、出来不申 可也之人々、當村通行二相成、
誠二大乱二相成、御上様方御宿相勤罷在可にても
安心不仕、 免 奉申上候間、 しよりも奉
願上候 以上

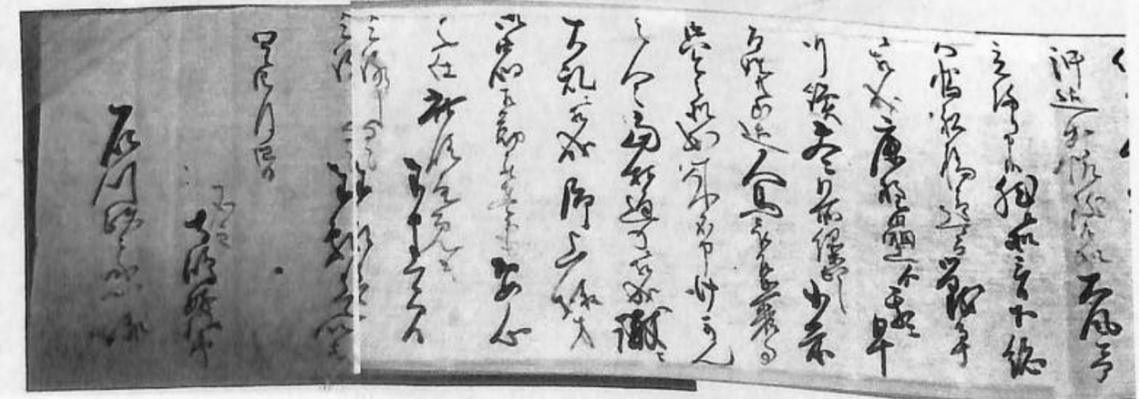
同巳四月四日

名主 寺嶋好次郎
石川政之丞様



知行からの文書

文書：19-144-14
写真：050021



知行地からの引揚げを手配

(前文あり)
御座恐悦 候得共、然ば、先般態々 を以、御家
様皆々様方御引揚ケ相成候趣、御迎御座候處、四
月二十一日當村江乱妨人共四拾人 にて、表向は
村役人共江強談二付之金子被・取、夜は六七人・
身を携、村之外村方一統恐怖 在候二付、右之
段布施村御出・に訴申上候所、御見合二相成、然
ル處、右乱妨人共は・ 被 捕召捕候相成候



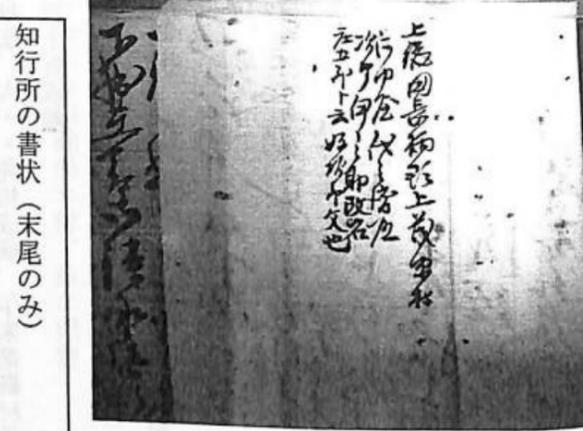
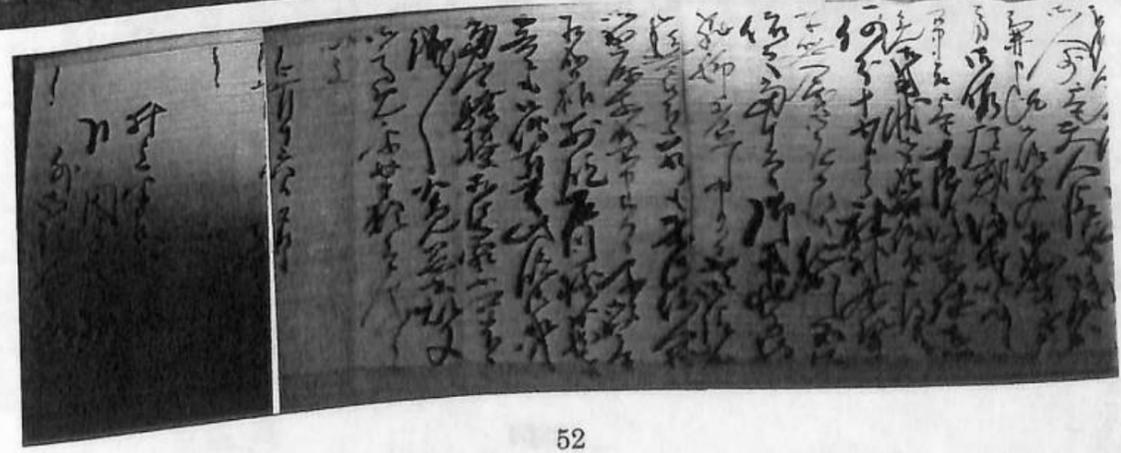
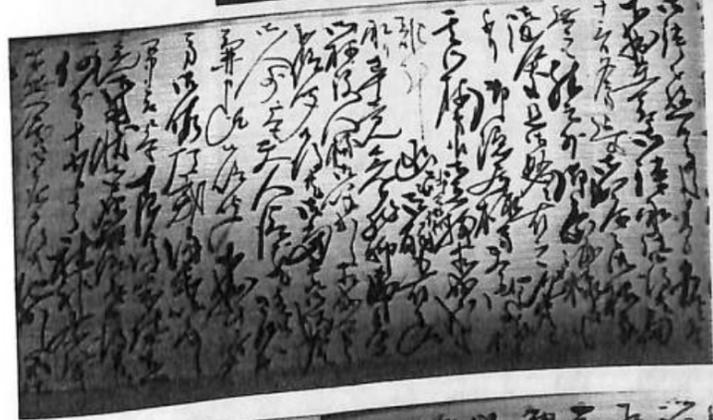
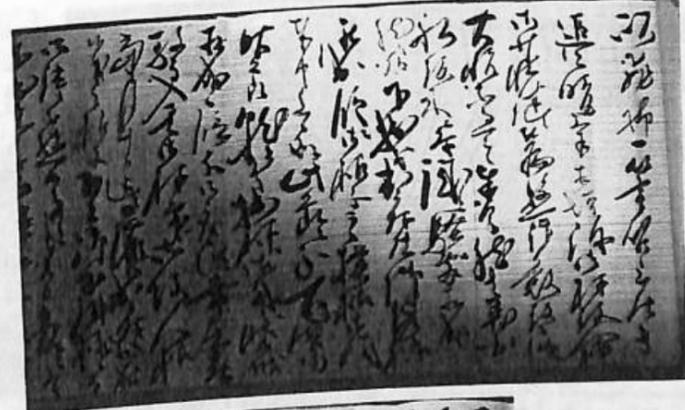
文書：24-65-9
写真：055058~62

知行所への書状

文書：24-68-7
写真：055077~81

以飛脚、一筆啓上仕候
追々晴氣相増弥御村役人様御壯健ニ被為遊御勤
致段、大悦なる可く奉存候、然ば、異国船・来二
付、誠ニ騒敷相成、然ル処、二付、仕御
地頭様罷出候之御様子之・様御・奉申上候処、此
節二・時節・拙村御用状御越相成候段、
御座候趣、幸在府驚入、其御村方江御役人様當月
十日迄二・御出府二付候相成候義之様子、御・
様にて御体を遊
承仕候得共、當十三日夕方迄の御出府之御様子無
之、餘之外御・様にも御・且御・有之次第
二より御隠居様方々御様子其御村方江御・二
相成候哉に難斗、二も御触も有之趣承り、畢竟、
急飛脚奉差立、御村役人様御呼出し相成可申被仰
開候得共、御當節御・御・二付、夫人清蔵殿
も差出兼申趣被仰開、十三日夕方、御証頂戴、
いたし可申故二付、十四日・仕候、
直急御用状御届被仰付候得共、何分十五日は、社
郵祭所寺奉恐入候義ニ御座候得共、他出し不仕
依之、當十六日御用状為持飛脚差上申候間、
村役人様・御出府相成不
申、つつ早々御出府相成候様、前段石川より拙者
江、とも御伝有之、此段、御承行當郷騒擾、
不可被下候、

誠に々々取急・書乱文御方免・願上候、早々
以上
三月十六日
名主 寺嶋由次郎
村上平左衛門殿
同 因太郎殿
外御役人中様



文書：19-33
写真：047002

知行所の書状(末尾のみ)

(前文なし)

前書之通、相違之無者也
三十(印)

八幡村 年寄 広瀬嘉平次殿
名主 寺嶋由次郎殿
外役人中



先名主死去に伴う届出

文書：4-2-1
写真：4903~5

文久元年西五月七日先名主孫八殿死去二付、同
日以書面御届奉申、青岳
蔵様石川政之丞様より御返触御水帳、
帳、帳跡役取極、迄、
広瀬嘉平衛・江右帳面預り置候、広瀬嘉
平衛并、清次郎孫八、
返触之趣申聞趣、伴勘助奉公中、親類・上相渡度
挨拶、其後勘、迄養父孫八勤役中、筋當
御触成引、置申候間、御下知書無之候ては相渡
故、書面、之通り
乍恐以書附奉申上候
知行所上総国市原郡八幡村役人一同奉申上候名
主孫八病死、上候処、御水帳名
寄帳其外諸、帳預り置候様、
(後文の写真なし)





書状

文書：2-36
写真：4257

・・・且又、証書さし出し可申候処、病氣・
二て、外居候儘、宜敷・申村・先は右之段、御返
事迄、大・免相成候、乍末毫御村役様・、宜敷
差上有成候
以上
丑三月五日処

根村 百姓 所右衛門
名主 井上周太郎
八王多村 御名主 寺嶋好次郎殿

書物留 (訴につき御返答)

乍恐返答書届奉申上候

文書：41-23
写真：063075~6

上総国市原郡八幡村八幡惣代名主喜右衛門庄右
衛門宇兵衛一同奉申上げ候、此度、同国同郡下野
村外式拾式ケ村惣代潤井土村名主庄七外式人よ
り、私共相手取訟上候者右二十三ケ村組合の内、
潤井土村、東房州上総大田喜町其外江通行之駅場
二御用多人馬勤方・其上夏御・借用之節、正宿
にて其外何事二不寄、諸御用右二十三ケ村高四千
石余割合相勤候二付、迺二困窮



村之高反別帳を取調へ

文書：19-121-2
写真：049051~2

・申上兼候得共、
昨日より村之高反別帳取調二相掛候得共、
外之出向多二て、写物ホ手廻り兼、當惑仕候、
右失敬に都合二相成・御手柄・頼申・に私参・



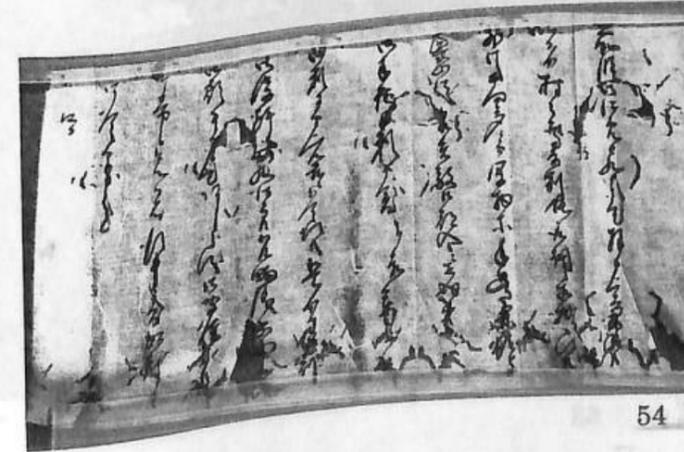
知行所からの書状

文書：41-24
写真：063077~8

御上々様方猶御機嫌罷被遊御聞恐悦至極之仕・
奉・次々御知行所無別条御借與二被思召候、然
ば、當御地五月下向より麻痰流行之処、追々相弘
り此節二至り候には御府内一統之事にて、既二
御上にて御奥方様御若様御二男様御召抱之女
中は、老人も不残御中小性御中間に至ル迄、右同
断にて、日二御差支殊二莫大成御物入にて、御
手元も御差支之次第、依之、無余儀、其村方に金
三両也非常御・時御頼之

七月二十二日

(以下写真なし)



石川政之丞 (印)
浅井作兵衛 (印)
書面之条二可得其意もの也
八幡村 名主 寺嶋由次郎殿
外役人中

来ル八月十日頃迄二由次郎殿・出府可被成
別段心配之





文書：22-90
写真：053005



文書：2-34
写真：4254
~5

御年貢米老人別割付帳



文書：2-25
写真：4246
~7

村組入用割合帳

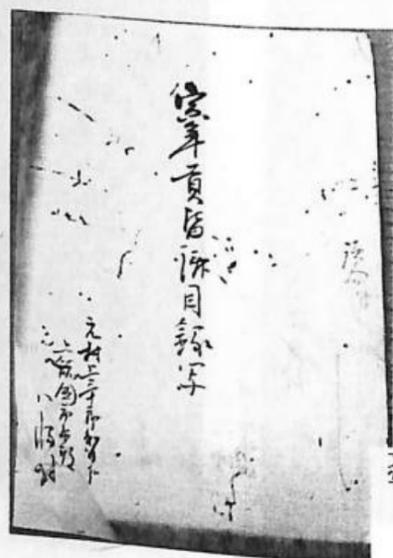


新開場御見分御改御廻村
御勘定御奉行様
新開場御見分御改御廻村之節

文書：41-19
写真：063070

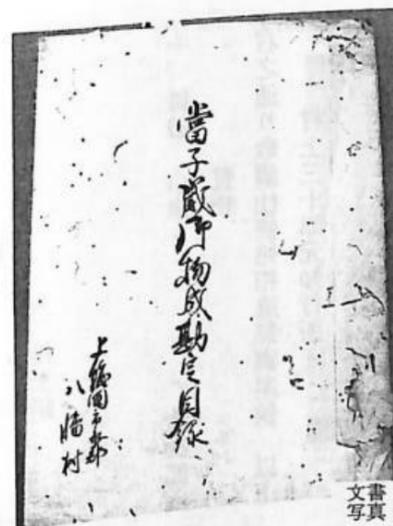


文書：2-60
写真：4292~3



文書：30-60
写真：058014

年貢皆済目録 写

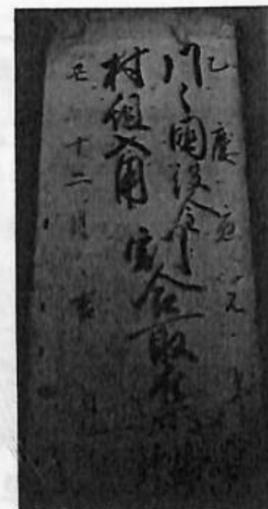


文書：26-6
写真：056037

御物成勘定目録



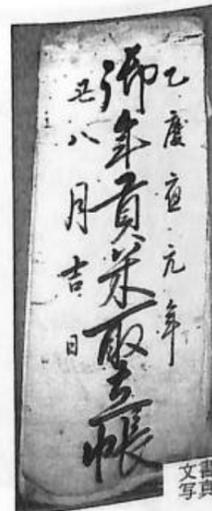
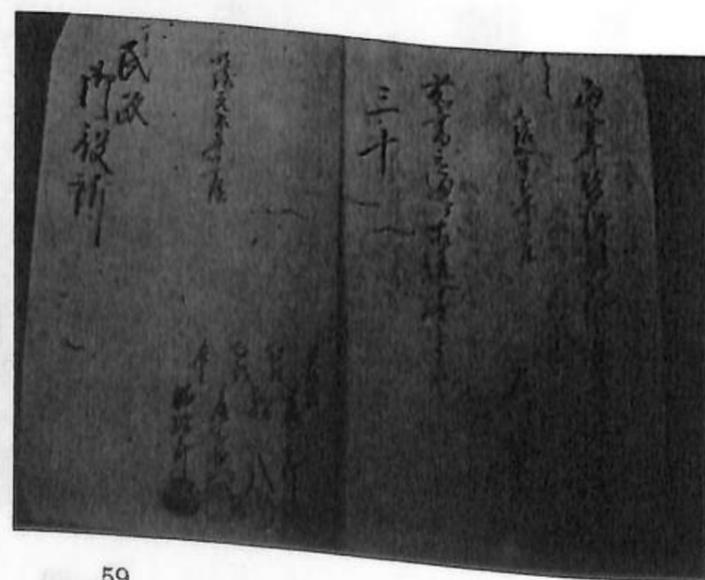
文書：20-4
写真：050038



文書：2-50
写真：4273



文書：19-132
写真：050003



文書：41-7
写真：063058



文書：19-131
写真：050002

御年貢米請取帳・取立帳



文書：22-63
写真：052098

高反別書上帳



文書：19-138
写真：050009



文書：22-89-1
写真：053003

用水和拏証文之事

此度、金杉濱御檢地二付

御代官滝川小右衛門様、旅御廻村先右御田地
用水手當之儀、御糺被仰付候処、草刈村、切
堰用水二奉願度段奉申上候処、用水組合八幡
村江和拏二用水引取方之儀、掛合候様被仰付
候二付、則右村方役人中江掛合候所、同村申
候は分水之儀は一村之存寄ニては取極候儀、
難取斗、余水之分は取遣可申候、夫より金杉
濱江用水引取候積和拏取極候処、双方共相違
無御座候、然上は、八幡村用水菊間村下溝普
請其外用水地内二有之候破穴洩水無之様、
年々取繕溝普請人足、五所金杉濱兩村より差
出、余水引取候様、和拏仕候、為後日為取替
証文一札仍而如件

文書：1-3
写真：0103
~4

文化元甲子年九月

五所 名主 善八(印)

同 権右衛門(印)

同 与市(印)

金杉濱 引請人 忠五郎

惣年寄代 次助(印)

八幡村 名主 庄右衛門(印)

同 長兵衛(印)

兵賦代金(金納) 割合帳
銃隊割合取集帳



文書：24-97-1
写真：055138



文書：2-51
写真：4274



文書：2-45-1
写真：4264~5

同 源右衛門(印)

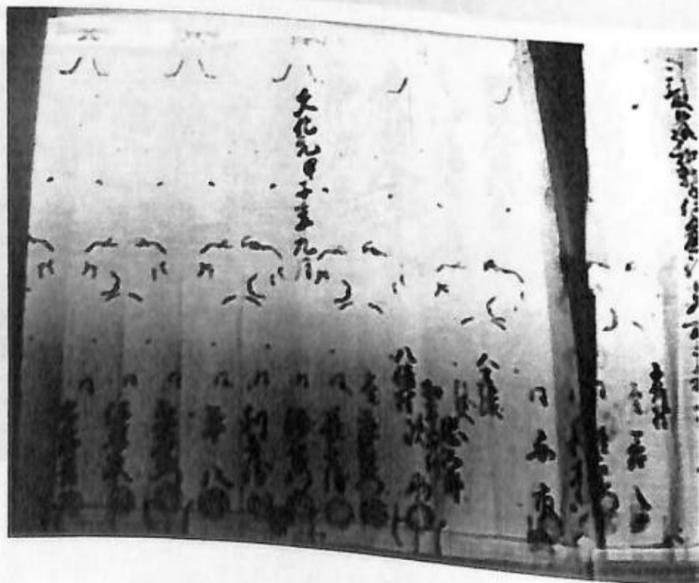
同 利兵衛(印)

同 平八(印)

同 平右衛門(印)

同 伊惣次(印)

同 太郎吉(印)



銃隊兵歩割合帳

文書：2-52
写真：4275

堰請負証文之事

堰請負証文之事

一 上総国市原郡草刈村川堰村々より、同国八幡村、菊間村、古市場村、下総国千葉郡生実村、濱の村、村田村、古市場村、右七ツ村用水にて御聞之儀、當寅年より巳年迄四ヶ年我亦請負中所、相違無得共、尤普請料之義、一ヶ年二米三百俵宛斗老四処にて御年貢同様之米年々十一月中不殘請負宛にて書面之事、普請請負中・実正也、用水之義は、二年中より八月中は無滞相償にて候、先繰之内、用水渡し不申候わば、右請負料代米少も申請間敷候

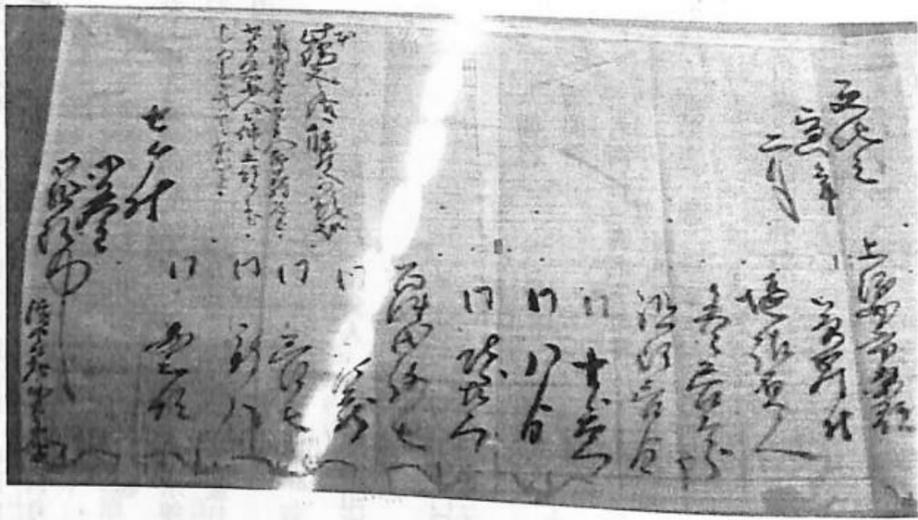
文書：1-10
写真：0109

堰請負場所乎・井指より三郎左衛門殿及汲上請負之内にて名主右之内、破損仕候わば我木入用を以、早速普請仕、相渡し可申、尤人足之義ハ何時成共、無滞罷出可申処、為後日、請負証文仍如件

文化三寅年二月

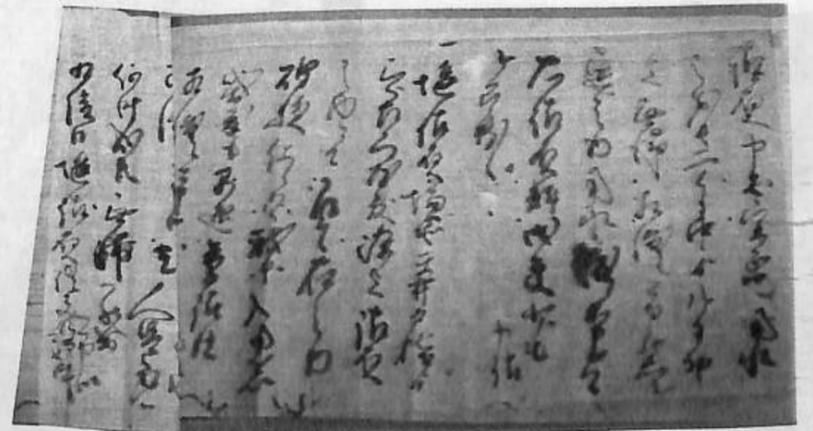
上総国市原郡草刈村

堰請負人 名主 居太郎印
組頭 善次郎
同 十郎左衛門
同 八衛門



七ヶ村 御名主御組頭中

同 次郎左衛門
同 百姓代弥七
同 庄藏
同 善七
同 新八
同 台経



用水引渡しを訴える

乍恐以書付申上候

上総国市原郡八幡村名主庄五郎奉申上候、水野石和守様外御五給村役人惣代平十郎伊惣次より兩年之儀は渴水にて、用水間二合兼、昼夜共村役人共夫々田場江罷出、一村一畦之姿ヲ以、百姓共江致差図・私・議定ヲ破候間、用水引渡兼、其段掛合候にも不當之挨拶・用水等閑・外村役人のみにて精々・得共、私百姓共申付、不取用候間、一村一畦之姿ヲ以用水引渡・、勿論村も取締等無差支様仕度趣御訴申上候、書面御読聞被成始末御・二付、乍恐相違之廉、逸々尤二奉申上候此段、私儀議定相破、用水引渡有掛合候にも不當之挨拶および候其外品々申立候得共不取・・・

(以下欠落)

文書：2-70-20、21
写真：4432~3



堰普請の請負証文

差出申証文之事

文書：24-14
写真：054035

中川堰前々、上総国八幡村菊間村右両村田地利用水御座候処、此度、堰普請料トして米四斗入九拾俵にて中川堰川坂橋迄請負普請仕処、相違無御座候、尤、堰普請之儀は、二月中二仕立、八月始迄、用水無差支引渡可申候、普請出来兼候、又、用水差滞候わば、下請之もの共引請、聊、用水差支無之様可仕候、万一、普請差支、用水差滞候わば、堰普請料米九拾俵請取申間敷候、為後日、差出申証文依而如件

文化三寅年二月

菊間村 請負人 六右衛門(印)
下請人 畑次郎(印)
" 太茂右衛門(印)
名主 元七(印)
八幡村
菊間村 御名主衆中
右両村 御組頭中



村用水の不当使用を訴える

文書：26-1
写真：056015
~20

乍恐書付を以御訴奉申上候
上総国市原郡八幡村六給村役人惣代水野石和守知行所名主代平十郎松本米吉知行所名主伊惣治一同奉申上候、當村之儀御給々入会之土地柄故、諸御用向は、勿論用水村用向共、都而、村役人共一同評議之上取斗致来、然ル処、當年は春中より渴水故、苗代水時節より引続き情々致罷在候処、此節至り候には、用水何分にも間二合兼候二付、昼夜共村役人共夫々田場江罷在、一村一鉢之姿ヲ以、百姓共江差図致候処、御相給村上鍋之助様御知行所名主庄五郎義、兼而一同評議之上百姓共水引渡方申付乍置、議定破談、勝手俣之存知寄を以取斗仕候二付、用水引渡兼候間、其段難心得、外村役人より掛合致候得共、不当之挨拶二および既二當四ヶ年已前丑年中渴水之節、村役人一同情々致候砌、議定相破不當之儀共申募候二付、其節も御訴奉申上と奉存候処、扱人立入、已来右鉢之儀致間敷之一札受取、候得共、平生村方取締方之妨も相成、手余ものにて、此節右鉢之義仕出、不容易儀故、早速御届奉申上と奉存候得共、彼是致候には、渴水之時節、用水之儀片時も難等閑、先は其俣差置外村役人而已二而、情々仕候得共、庄五郎支配百姓多分御座候得ば、外村役人申付方取用兼候者

有之候ば、情々行届兼・様之場所も追々多分罷成、奉恐入候間、何共難捨置、此段御訴奉申上候、尤御相給之内、阿部駿河守様御分は佐貫表江別紙願書を以罷出候間、相成候わば御一同御評議被為、一村一鉢之姿ヲ以、用水引渡方は勿論村方取締水差支無之様仕度、偏二奉願上候以上
文政四巳年七月

水野石和守知行所 名主代 平十郎
永井鐘次郎知行所 名主代 太右衛門
岩本石和守知行所 名主 平八
阿野銓太郎知行所 名主代組頭 幸平
佐野藤三郎知行所 名主 吉兵衛
松本米吉知行所 名主 伊惣治
右六給惣代 名主代 平十郎
名主 伊惣治

御地頭所様 御役人中様



村用水の使用を主張する

文書：29-23
写真：057005
~9

乍恐以書付御訴奉申上候

村上鍋之助知行所

上総国市原郡八幡村

訴訟人 名主 庄五郎

難渋出入

水井桂次郎様御知行所

相手 同村 名主 太右衛門

水野石見守様御知行所

同村 " 平十郎

岩本内膳正様御知行所

同村 " 平八

名主見習同人 倅 文次

松本米吉様御知行所

同村 名主 伊惣次

佐野藤三郎様御知行所

同村 " 吉兵衛

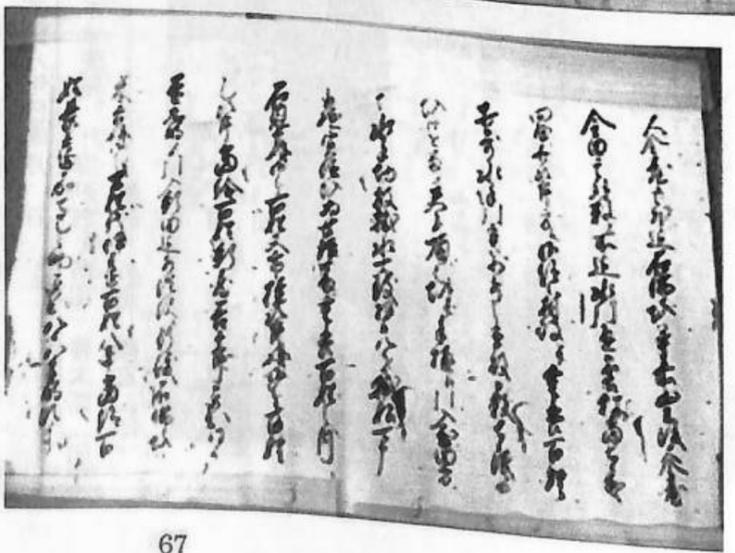
河野銚太郎様御知行所

同村 " 平右衛門

右訴訟人庄五郎奉申上候、當村之儀ハ、御給之入会にて、御田地其外共村役一同申談之上、取斗来候、然二、當年之儀近年稀成早魃にて、作仕付之砌より掛水ニ差支、猶追々照統候二付、草刈堰水掛方・・八名主平十郎同太右衛門懸り、石佛以

ハ名主伊惣次并私掛りと相分、右・・八ハ処笹如通上畑通より申口ニ泥之勝手俣之事共申募、猶伊惣次儀は私一同石佛以懸りニ有之、百姓代伊兵衛を差出又ハ伊惣次罷出始末乍存居、右ハ押隠シ、外村役ニ如何被申謙候哉、一同列合乱亡人突放不行・様申成早損之時節猶干枯等有之中、右様故障ケ間敷難渋申掛、水引通方為差支候段、難心得、平年ニ違耕方出精致候にも不行屆時節相手申分ニ・候には乍見草稻枯果候儀ハ眼前ニ御座候間、難捨置無是非今般御訴訟奉申上候、何卒御慈悲を以相手之者共被召出前条逸々被為聞召分御吟味之上、・・之通り実意ニ立戻り以来右様・・掛水致候得共、世話不行届・水渡相渡不引足中、私儀見廻りニ罷越候処、・・八掛之者共ハ石佛以水掛方多・由申聞、石佛以方には・・八引方を見習可申、乍去来夕古田不行渡趣申聞争論致候間、私并右伊兵衛・・取調猶村役一同打寄申談候にも、八掛り之者、我意ヲ募り不相分・柄太右衛門文次共水掛方八日数七日にてハ不引足間、八日より當二十日まで引通可申由申之左候には外御田地養不行届、既ニあざ飯喰嶋辺より堀上ケ通之御田地ハ干割候程之儀に御座候間、不取・取極通可致旨申談候儀を憤り、悪口難言申聞候より、・・相手之者共儀、小前大金蔵其外迄石佛以ハ守前山王後大金蔵金田其の外数ケ所迄、水引通候筈、猶當七日夜問屋弁次郎方江御給々村役并重立候百姓打寄、水

手引方ハ小水之事故日数七日限にて以口を留メ夫より順々以并手桶江引入、尤田方は水手切放掛水可致、押取八日より掛始可申取極、・・以為世話番重立候百姓之内、石見守様御分百姓又市権次郎様御分百姓乙次郎當給百姓新藏善太郎罷出、同日昼九時より引入新田迄水深沢二行渡、石佛以ハ米吉様御分より百姓代伊兵衛百姓八平當給百姓長兵衛嘉七已之助罷出、八日八半時比より





堰代米を買受

一 米五俵老斗七合 覚

堰代米・
内 米三俵式斗老升五合 當巳御年貢

文書：22-20-1
写真：051075



堰代米を受取る

覚

一 金三兩也
當牛之堰代金之内
髓二受取申候、為...御座候...
・十二月二十六日

菊間村 ・ 十郎(印)
・ 勝左衛門(印)
古一・ 清次郎(印)

八幡村
御名主 庄五郎殿

文書：19-144-8
写真：050018

米老俵式斗九升
文化八未三月改之 堰代米買受書付 品々

堰代米を受取る



文書：19-144-9
写真：050019

地頭所御普請の積金受取

一 金老兩式朱式分八拾文 覚
右は、御地頭所御普請二付、積金
髓二請取申候、 以上
申五月初日

河内屋庄五郎殿
名主 弥左衛門(印)

文書：19-105-3
写真：049006



草刈川堰の普請人変更

入置申願一札之事

文書：22-67
写真：052103
~8

一 草刈川溜堰用水之義、往古より下総国千葉郡生実村濱野村古市場村田村、上総国市原郡八幡村菊間村上古市場村右七ヶ村用水にて堰普請亦受負之義は、人選之上、草刈村太左衛門江請負為仕置候処、去西年右請負人年限中、同人・合ヲ以、村方役人一同江為請負、當寅年太左衛門より村方役人共江示談いたし、堰請負取極メ、水下村々被及披露候二付、先例之...証文取極請負可為致之処、村方役人共右障之存可有之、水下村々役人より及掛合候処、兎角、等閑置當節、苗代水二差支御座候処、難捨置、今般、鶴杖御役場江御出訴之儀二付、水下役人共一同相談之上、生実村弥兵衛殿江惣代相頼、差添之義は、御村方より御差出



濱野村 名主 利八郎(印)
村田村 組頭惣代 与平治(印)
古市場村組頭惣代 次郎吉(印)
上古市場村 名主 金右衛門(印)
菊間村 名主 太郎右衛門(印)
市十郎(印)

八幡村
御名主 徳太郎殿
好次郎殿

前書入用出銀之義、堰代三百俵村々出来俵数二応シ立会之上、割合可申候
仍而添書如件

一、草刈川堰用水之儀、是迄同村二請負人有之候處、村方 纏、二年分二相成候二付、無余儀當寅年自普請相成、依之而総水下七ヶ村打合同相談之上、役人等と相定、賃錢酒代共老人前五百文つづ相渡可申、就いては人足触當次第...

取為替議定一札之衷
 當寅年草刈村地附堰請負人共、取纏出来、第一用水差支二相成、難捨置、右請負人共示談為致度段、種々掛合候得共、何分示談行届不申、無余儀、水下村々にて自普請二相成、依而、當村之義は、御給入会二存、一同相談之上、名主八人にて引受、普請可致議定仕、右普請入用之義は、銘々無甲乙割合出銀可致候、且、宰領并村々相談出銀之義は、順番お以、相勤可申候、尚又、米之義は、是迄之通、銘々差出し、其時々相談を以普請入用差引いたし、其上、之義は、八人割賦可致候、其節至72り相互二違乱申間敷候、依之取替議定一札仍而如件

慶應二寅年四月

- 名主 喜右衛門(印)
- 源右衛門(印)
- 儀兵衛(印)
- 好次郎(印)
- 久平(印)
- 勘次郎(印)
- 芳太郎(印)
- 徳太郎(印)

文書：22-64
 写真：052099
 ~100

草刈村川堰普請費用を請求する
 御請書連印帳
 差出申御請一札之事
 一、草刈村川堰用水之儀、是迄同村二請負人有之候處、村方 纏、二年分二相成候二付、無余儀當寅年自普請相成、依之而総水下七ヶ村打合同相談之上、役人等と相定、賃錢酒代共老人前五百文つづ相渡可申、就いては人足触當次第...

草刈村川堰普請費用を請求する

御請書連印帳

差出申御請一札之事

一、草刈村川堰用水之儀、是迄同村二請負人有之候處、村方 纏、二年分二相成候二付、無余儀當寅年自普請相成、依之而総水下七ヶ村打合同相談之上、役人等と相定、賃錢酒代共老人前五百文つづ相渡可申、就いては人足触當次第...

(以下略)

俵数之割合無滞出金可致事

・文化度之趣・相振候儀、御出役差出事被仰出候わば其段御請不仕、其御筋江御伺可申上候事前書取極之条々相互二違失有之間敷候依之、儀一聞如件

慶應二寅年四月

- 上総国市原郡八幡村
- 名主 久平
- 同給惣代同
- 源右衛門
- 芳次郎
- 同国同郡菊間村
- 名主 祐右衛門
- 同給惣代同

文書：19-87
 写真：048029
 ~31

- 左十郎
- 平藏

草刈村川堰普請費用を請求する
 御請書連印帳
 差出申御請一札之事
 一、草刈村川堰用水之儀、是迄同村二請負人有之候處、村方 纏、二年分二相成候二付、無余儀當寅年自普請相成、依之而総水下七ヶ村打合同相談之上、役人等と相定、賃錢酒代共老人前五百文つづ相渡可申、就いては人足触當次第...

草刈用水堰の引渡しを願出

文書：22-116
写真：053090
~98

乍恐以書付奉願上候

下総国千葉郡生実村、浜野村、村田村、古市場村、
上総国市原郡八幡村、菊間村、上古市場村、右七
ヶ村用水之儀、御領分上総国市原郡草刈村地所に
て往古より堰用水引取参り為、普請料米四斗入三
百俵空俵三千俵宛相渡し、証文切替之時々、水
下村々人選之上、請負人相立、安政四巳年より酉
年迄五ヶ年際、草刈村之名主太左衛門にて請負置
候、同年村方難渋二付、請負いたし度旨被申出候
間、相談候得共、強而、被申候二付、難然止存、
同年老ヶ年百姓代四名宛にて請負為致置候、
猶又達し頼二付、翌戌年より當寅年迄五ヶ年と相
定、同様百姓代四名宛にて為請負置候、肝要
之時節二至り、用水引渡し・候儀も有之、然ル
前書酉年太左衛門請負中示談之上、村方江請負
致候・も有之、旁以當寅年太左衛門江請負可為致
由、双方示談引届二付、証文為取替以被成度旨、
水下村々江沙汰有之、七ヶ村名主組頭百姓代共参
上仕候、草刈村役人証印難相成致所有之候二付、
再三実意ヲ以及掛合候得共、等閑置一切頓着不仕、
最早苗代拵二も取掛り、用水肝要之時節一同必至
と難渋仕候間、何卒格別之以御慈悲、草刈村役人
御呼出し被成下、前之村江証文御絵図面之趣意堅

相守、無余儀水々江堰相渡し、以来右様之義
無之様御利解被仰付被下置候様、偏ニ奉願上候
以上

慶応二寅年二月

上総国市原郡八幡村

菊間村

上古市場村

下総国千葉郡生実村

濱野村

村田村

古市場村

右七ヶ村惣代

森川内膳正領分

右生実村

願人 名主 弥兵衛

八幡村

差添人 徳太郎

水野肥前守様

邨方御役人中様

差出申済口証文之事

下総国千葉郡生実村外三ヶ村、上総国市原郡八幡
村外式ヶ村、右七ヶ村惣代願人森川内膳正領右生
実村名主弥兵衛差添八幡村名主徳太郎御願申上候
は、右七ヶ村用水之儀、御領分上総国市原郡草刈

村地附にて往古より堰用水引取参り為、普請料米
四斗入三百俵空俵三千俵宛相渡し、証文切替之時々、
水下村々人選之上、請負人相立、安政四巳年より
酉年迄五ヶ年之間、草刈村元名主五郎左衛門為請
負置し候、同年村方難渋二付、請負致度旨被申出
候二付、難然止存、同年老ヶ年百姓代四名宛に
て請負為致置候、頼二付、翌戌年より當
寅年迄五ヶ年の相定、同様百姓代四名宛にて請
負為置候、前書酉年太左衛門請負中示談之上、
村方江請負可為致由、村方示談行届・二付、証文為
取替致度旨水下村々江同人より沙汰・し、七ヶ村
役人共・候、草刈村役人証印難相成、堰所方・
二付、再三実意は及掛合候得共、等閑置、最早苗
代拵二も取掛り、用水肝要之時節一同必至と難渋
仕候二付、何卒格別之以御慈悲、草刈村役人御呼
出し被成下、前々済口証文御絵図面之趣意堅相守、
彼是差違直・間敷儀無之様、御利解被仰付被下置
致・奉願上候、草刈村役人始追々御呼出之上、
夫々御利解被仰聞一同恐入奉・示談之上、
濟方仕り、趣意左ニ奉申上候
堰普請村方請負・之、當寅年太左衛門江請負
可・議定も・候、村役人証印差支江・事起り、
今般 逸々御利解之上、無審儀堰請負相渡し、已来
七ヶ村人撰にて村内二請負候者御座候わば納得之
上、請負沙汰江三役人調印可仕事

堰請負之儀は、前々・替之趣意件堅相守、以来七
ヶ村人撰之上、草刈村にて・為故障仕間敷、
其外替文他・有之済口証文并為取替議定書御絵
面・可申候、若し右行違之者御座候得・
何様も利解申・水下村々江難渋相掛ケ申間敷・
左之通村方無申分示談行届候、相違無御座候、
畢竟七ヶ村惣代生実村名主弥兵衛奉御訴訟趣意
御・所大切・致知御願奉申上候儀にて別意無御
座、草刈村三役人においても相固・大切之儀御
利解被仰聞奉承知伏、偏ニ御威光・難有仕合・存
候、
然ル上は、右一件二付重て御願筋無御座候間、
是迄にて御下ヶ被下置候様奉願上候、依之一同連
印済口証文差上申候如件

御領分 上総国市原郡草刈村

百姓代 太郎右衛門

同 七郎兵衛

同 八兵衛

組頭 十郎右衛門

八右衛門

甚七

名主 惣右衛門

窪牧 御役所

上総国市原郡 八幡村

菊間村

古市場村

下総国千葉郡

生実村

濱野村

村田村

古市場村

森川内膳正領分

右七ヶ村惣代

名主 弥兵衛

願人 八幡村

差添人 徳太郎

草刈用水堰の引渡しを願出
下総国千葉郡生実村、浜野村、村田村、古市場村、
上総国市原郡八幡村、菊間村、上古市場村、右七
ヶ村用水之儀、御領分上総国市原郡草刈村地所に
て往古より堰用水引取参り為、普請料米四斗入三
百俵空俵三千俵宛相渡し、証文切替之時々、水
下村々人選之上、請負人相立、安政四巳年より酉
年迄五ヶ年際、草刈村之名主太左衛門にて請負置
候、同年村方難渋二付、請負いたし度旨被申出候
間、相談候得共、強而、被申候二付、難然止存、
同年老ヶ年百姓代四名宛にて請負為致置候、
猶又達し頼二付、翌戌年より當寅年迄五ヶ年と相
定、同様百姓代四名宛にて為請負置候、肝要
之時節二至り、用水引渡し・候儀も有之、然ル
前書酉年太左衛門請負中示談之上、村方江請負
致候・も有之、旁以當寅年太左衛門江請負可為致
由、双方示談引届二付、証文為取替以被成度旨、
水下村々江沙汰有之、七ヶ村名主組頭百姓代共参
上仕候、草刈村役人証印難相成致所有之候二付、
再三実意ヲ以及掛合候得共、等閑置一切頓着不仕、
最早苗代拵二も取掛り、用水肝要之時節一同必至
と難渋仕候間、何卒格別之以御慈悲、草刈村役人
御呼出し被成下、前之村江証文御絵図面之趣意堅

草刈川堰の普請請負契約書

中川堰梓營繕方及ヒ水路請負為永換締約書

一 米六拾七俵三斗三升

堰梓堤防穴填請負米一ケ年分 但明治十八年ヨリ全二十二年マデ都合五ケ年期トス

右ハ當郡草刈村地内字中川外一ケ所ノ田悪水路堰梓新・并堤防修繕請負方ノ義、菊間八幡連合水利士切会ノ聞諒抛り投票有処、落札相成候二付テハ、當初、堰梓營繕仕法ノ通り修理可致、就中、用材等に至テハ、最も吟味ヲ尽シ、至當ノ機品相沢シ、正路堅固落城可致候、且期限中請負方同断心得書等遵守シ、専ら尽力、用水ノ時期二際シテハ流通、聊卷問無之ハ勿論、防破壞セサル株穴

(以下略)

文書: 17-2
写真: 044065

水利土切會議員の選舉

水利土切會議員滿期二付、今般、千葉市原郡長ヨリ公告・通り各公民権ヲ有スル者ヨリ来ル三月二日限り、水利土切會議員選舉相成在様区内公民権ヲ有スル者工達方御取斗相成度、且ツ郡役所ヨリ下付投票用紙添付、此段及御依頼在也

明治二十九年二月二十七日

市原郡八幡町役場
八幡区長 宮吉長五郎殿
土屋熊治郎殿

文書: 22-23-11
写真: 051085

田地圖周築堤及宅地盛土地上設計書

図面第参号及第六号田地ノ西南北三方ニ堤防ヲ築造シ、第壹号第貳号第四号及第五号宅地ニ盛土シ地上ケスルノ設計ヲ為ス事、左ノ如シ

一 第参号及第六号地処西辺ハ海ニ面スルヲ以テ、築造セシトスル堤防ノ高ハ拾尺トシ、馬踏巷間トシ、而シテ其左右勾配ハ壹割五分トス、南北両辺ハ其高西辺ノ如キヲ要セズ、故ニ其各南端ハ拾尺トシテ西辺ノ高二合セシメ、漸次東スル、從テ高ヲ減シ宅地界ニ至リ三尺トシテ以テ宅地ト同高ナラシム、馬踏及左右勾配ニ至テハ西辺同様トス、且ツ堤防各辺ノ勾配外側ニハ

(以下略)

文書: 22-16-2
写真: 051066

海岸埋立事業にかかわる契約書

為取換契約証

生・共同シテ明治式拾五年六月中、當町海岸及別四町七畝拾式歩ノ地所埋立ノ儀、出願セシ処、今般許可ヲ得タルニ付テハ、其筋ノ命令書ヲ遵守スベキハ勿論、本事業ノ完整ヲ期スル為メ、契約ヲ為ス、左ノ如シ、

一 本事業ニ付テノ方法設計工事其他百般ノ事柄ハ惣テ協心同力シテ以テ目的ヲ完了スル事ヲ勉メベキ事

一 本事業ニ付テノ諸費用支出ハ勿論、利害損益等惣テ平等均一タルベキ事

一 本事業ニ付、協議ヲ要スル事アルトキハ何時タリト

(以下略)

文書: 22-16-1
写真: 051065

水利土切會議員選舉

水利土切會議員選舉ノ儀、今般、千葉市原郡長ヨリ公告・通り各公民権ヲ有スル者ヨリ来ル三月二日限り、水利土切會議員選舉相成在様区内公民権ヲ有スル者工達方御取斗相成度、且ツ郡役所ヨリ下付投票用紙添付、此段及御依頼在也

明治二十九年二月二十七日

市原郡八幡町役場
八幡区長 宮吉長五郎殿
土屋熊治郎殿

草刈川堰の普請請負契約書

中川堰梓營繕方及ヒ水路請負為永換締約書

一 米六拾七俵三斗三升

堰梓堤防穴填請負米一ケ年分 但明治十八年ヨリ全二十二年マデ都合五ケ年期トス

右ハ當郡草刈村地内字中川外一ケ所ノ田悪水路堰梓新・并堤防修繕請負方ノ義、菊間八幡連合水利士切会ノ聞諒抛り投票有処、落札相成候二付テハ、當初、堰梓營繕仕法ノ通り修理可致、就中、用材等に至テハ、最も吟味ヲ尽シ、至當ノ機品相沢シ、正路堅固落城可致候、且期限中請負方同断心得書等遵守シ、専ら尽力、用水ノ時期二際シテハ流通、聊卷問無之ハ勿論、防破壞セサル株穴

(以下略)

水利土切會議員選舉

水利土切會議員滿期二付、今般、千葉市原郡長ヨリ公告・通り各公民権ヲ有スル者ヨリ来ル三月二日限り、水利土切會議員選舉相成在様区内公民権ヲ有スル者工達方御取斗相成度、且ツ郡役所ヨリ下付投票用紙添付、此段及御依頼在也

明治二十九年二月二十七日

市原郡八幡町役場
八幡区長 宮吉長五郎殿
土屋熊治郎殿

借金の利息支払い

文書: 22-110-17
写真: 053079

証
元金 四百円
利金 拾参円94戦四厘
但三十四年十一月二十八日ヨリ三十五年二月十八日マデノ分
右正二領收候也
明治三十五年二月十八日
株式会社 五井銀行
寺嶋久次郎殿



工事資材の買入れ帳面

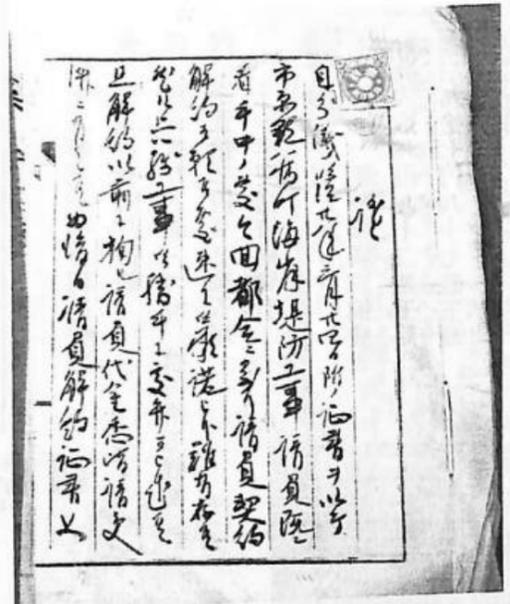
文書: 31-20
写真: 060066

道路松・買入之記
七月十七日 二十七束 其村 三蔵
9郎分
一 同 赤参拾束 平五郎
一 十八日 同 六拾束 同人
一 同 同 二十八束 友吉
一 十九日 同 三拾束 平五郎
一 同 同 三拾束 同人
一 同 大八束 諸井重蔵
一 同 二十八束 友吉
一 十八日 同 四拾束 一郎右衛門
一 二十日 二十四束 友吉
一 二十一日 同 五拾六束 同人
一 二十四日 同 六拾貳束 平出村 平五次

海岸堤防工事の請負契約を解約

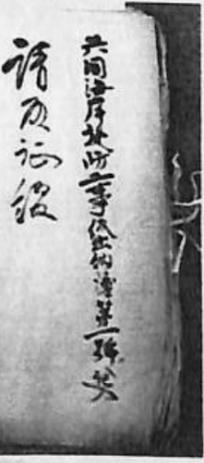
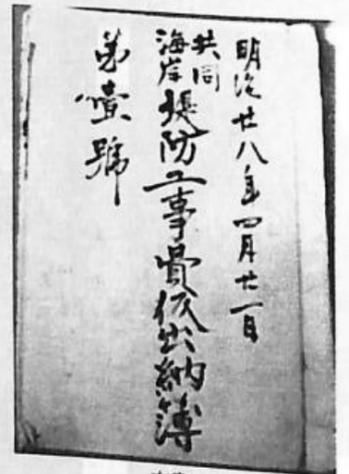
文書: 16-77-1
写真: 044036

証
自分儀、明治二十八年三月二十四日附ノ証書ヲ以テ、市原郡八幡町海岸堤防工事請負、既ニ着手中ノ処、今回、都合ニ寄り請負契約相願候処、速々御承諾被下難有存有之、然ル上ハ、残工事乍勝手に処弁可被趣有之、且解約以前に拘も請負代金悉皆請受済ニ有之候、為後日請負解約証書如



海岸堤防工事の仮出納簿 請取証綴

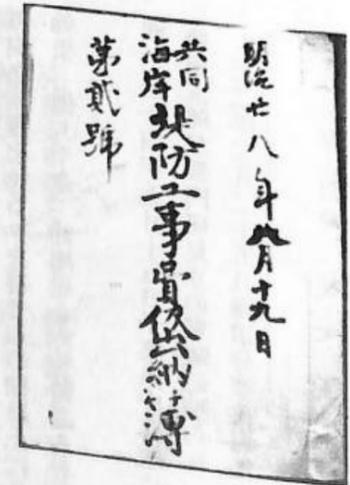
文書: 22-24
写真: 052039



文書: 16-88
写真: 044040

共同海岸堤防工事仮出納簿

文書: 20-9
写真: 050043



文書: 20-8
写真: 050042

海岸埋立工事の利益配当

埋立工事三十年分利益配当

- 一 金 百貳拾壹円八拾銭
- 但 四斗式升入老・二付、拾円拾五銭替
- 内 金貳拾三円九二戦五厘
- 三十年度諸修繕費引
- 内 金五円中
- 三十一年分修繕設備費
- 宿金貳拾八円九十二銭五厘
- 一 金 九拾七円八十七銭五厘
- 老人分配当金
- 一金拾三円九十八銭五厘ノ処
- 右之通配当・上候也
- 三十一年二月十一日
- 宮吉長五郎(印)
- 萩原様(印)
- 村市様(印)
- 寺島様(印)
- 宮吉様(印)
- 鈴清様(印)
- 川上様(印)

文書：30-11
写真：057060
~61

天正二年下総権名郷田面灌漑之便無、早魃時農家之困難甚し、時之名主鵜田五郎左衛門之を憂い、水源を得て水路
町歩之早害を免るゝを得せしめ勸農上に及ぼ勢し
効果、偉大千金、其鴻思を称賛勢ざる者なし

お開き以て農民之急を救うが為め日夜寢食忘、踏
査之結果、市原郡草刈村に之を求め、櫛風沐雨身
命を賭、志築堰

之大工事に従う五郎左衛門当時の決心に、事なら
ずんば割腹勢んと公言せしを以て知べし、仍奇竣
工此地方田面八百余

町歩之早害を免るゝを得せしめ勸農上に及ぼ勢し
効果、偉大千金、其鴻思を称賛勢ざる者なし

お開き以て農民之急を救うが為め日夜寢食忘、踏
査之結果、市原郡草刈村に之を求め、櫛風沐雨身
命を賭、志築堰

之大工事に従う五郎左衛門当時の決心に、事なら
ずんば割腹勢んと公言せしを以て知べし、仍奇竣
工此地方田面八百余



草刈川堰の由来
茂呂村 鵜田家資料による

鵜田家襖四枚

天正二年下総権名郷田面灌漑之便無、早魃時農家之困難甚し、時之名主鵜田五郎左衛門之を憂い、水源を得て水路
町歩之早害を免るゝを得せしめ勸農上に及ぼ勢し
効果、偉大千金、其鴻思を称賛勢ざる者なし

お開き以て農民之急を救うが為め日夜寢食忘、踏
査之結果、市原郡草刈村に之を求め、櫛風沐雨身
命を賭、志築堰

之大工事に従う五郎左衛門当時の決心に、事なら
ずんば割腹勢んと公言せしを以て知べし、仍奇竣
工此地方田面八百余

町歩之早害を免るゝを得せしめ勸農上に及ぼ勢し
効果、偉大千金、其鴻思を称賛勢ざる者なし

明治四十四年五月十五日千葉県庁落成につき祖先
鵜田五郎左衛門堰見立の事跡記勢られ
大正二年二月二十五日鵜田分家弟忠治の為写之賜
鵜田誠一書

草刈川堰の由来

一、元和元年三月七月初日数十日間出来用水上
総下総南国上り

一、下国水ノ事上総国は五井村迄下総国は登戸相
迄

一、上総国市原郡八幡村領主ハ老万石永井信濃守

一、下総国 森川紀伊守

一、徳川將軍御代官は

江願い出候処御開届ケニ相出候 右両国江万人

ヲ

其上、万一用水不上 ハ此方之命ニ抱リ候間、
致候哉 被仰付ニ付其節ハ堰場へ塚ヲ償、鵜田五
郎左衛門磔ニ相成覚悟之
申立候処

毫も無差支 入置ニ
城致將軍江

文書：043026
写真：~31

上総国市原郡草刈村用水堰見立之儀は、下総国千葉郡茂呂村鵜田五郎左衛門見立、元和元年徳川將軍様御代官高室金兵衛様江願出候処、御聞届ケ相成候得共、万人之人足遣拂その上、万一用水不上時は此方迄致す無之如何致候哉と右代官高室様ヨリ 村其節は 場所ニ磔ニ可相成覚悟之旨申上候二付、高室様大安心悦入夫ヨリ將軍様江御直ニ御申立御聞濟と相成、上総下総兩國共数ケ村年々早魃ニ而種も不取し次第大二小は難替草刈村は片付堰地ニ可致分被仰付候用水は下総国は登戸村迄上総国は五井村迄十分上り候見込ニ候へ共、草刈村ヲ厭候故、堰地ヨリ堰袋ヲセバメ候普請を去元和元年三月七日初鋤入中 つと申者ニ致し休十日ヨリ普請ニ取掛り、下総を森川紀伊守領分、上総を八幡永井信濃守領分老万石右兩國より万人之人足出し載日数十日間ニ出来用水十分上り候御高老万石八幡村領主永井信濃守より鵜田五郎左衛門年四十才御召出し御褒美之品御上下御盃木被下置候

御代官様ヨリ槍一筋拝領
堰出来 四十八年浩水ニ而大破ニ相成、領之家来調印ニ而出願致

其 四十八ヶ年前茂呂村鵜田五郎左衛門と申者右堰

元和元年三月七日
上総下総兩國共数ケ村年々早魃ニ而種も不取し次第大二小は難替草刈村は片付堰地ニ可致分被仰付候用水は下総国は登戸村迄上総国は五井村迄十分上り候見込ニ候へ共、草刈村ヲ厭候故、堰地ヨリ堰袋ヲセバメ候普請を去元和元年三月七日初鋤入中 つと申者ニ致し休十日ヨリ普請ニ取掛り、下総を森川紀伊守領分、上総を八幡永井信濃守領分老万石右兩國より万人之人足出し載日数十日間ニ出来用水十分上り候御高老万石八幡村領主永井信濃守より鵜田五郎左衛門年四十才御召出し御褒美之品御上下御盃木被下置候

池和田村外九ヶ村連印の証文

文書：19-88
写真：048032
~36

根岸肥前守様江奉仰御吟味之訴訟方御利解相難 都
而先観仕来通り可取斗旨にて内済いたし、其後天保
二卯年中馬立村外拾四ヶ村前同様之儀申立、曾我豊
後守様奉出訴、其節茂訴訟方中江不相立御利解相弁
是・・・

観之振合ヲ以取斗来候処、今般訴訟方如何心得候哉
霞村数九拾五ヶ村之処、百八ヶ村書上候段、第一

右一件付・双方ノ御願筋毛頭無御座候、依而為後
証人連印済口証文差上申処如件

上総国市原郡

- 池和田村
- 皆吉村
- 金沢村
- 大蔵村
- 国吉村
- 栢橋村
- 寺谷村
- 岩崎村
- 風戸村
- 安津村



御鷹御用の費用負担

文書：1-16
写真：0116

・・・相成、當時御吟味中之処、掛合之上熟
読内済仕候趣意、左三奉申上候
一 右訴訟方申立候は私共参拾壹ヶ村并外七拾七ヶ
村都合百八ヶ村之儀は、相手八幡村にて霞組江唱へ
御鷹匠様方年々・御提伺御廻村々之節、八幡村根村
にて御止宿相成、右御賄諸入用之儀は前書百八ヶ村
(以下略)

寛永五子年十二月二十五日

上総国市原郡参拾壹ヶ村

惣代国吉村名主新五左衛門

御評定所



御鷹御用の費用負担

文書：24-42
写真：054076
~78

・・・御鷹通様御泊御賄入用不分明之割合取立、
其上八給入用帳面亦不相見届受取・・・茂不差出難敷
旨其外品々申立、當四月中、根岸備前守様へ御訴訟
申立、五月二十五日・差・之御審判・裁相付候処、
相手為惣代村上三十郎知行所名主喜右衛門水野石見
守知行所名主庄右衛門松本兵庫守知行所名主儀吉初
年二付後見組頭宇兵衛龍出、返答・・・以申上候は、
先前日・御鷹御用之節、御鷹匠様御泊り御入用之義
候其段、八給九ヶ村江順番二割合御賄仕来り諸色帳
面亦相付立候茂・之受書差出候義・・・
申上間敷候、為後・一同連印済口証文奉差上候処如
件

寛政二戊年七月二日

上総国市原郡下野村外十九ヶ村惣代
阿部兵部・領分
訴訟人 潤井戸村 名主 庄七
林肥後守知行所
同 古都辺村 名主 利兵衛
永見伊勢知行所
同 高野村 名主 弘十郎
同国同郡・・・
八給村役人・代兼

不法出入を池和田村が訴え

解決証文

文書：1-6b
写真：0107

差上申済口証文之事

上総国市原郡池和田村外参拾ヶ村惣代右池和田村名
主勘右衛門より同国同郡八幡村名主徳右衛門外七人
江相掛候より不正出入申立、當五月中
一色豊後守様江奉出訴、同八月十三日御差日之御審
判頂戴相附、相手方より返答書差上御吟味、以前同
国同郡万田・村外拾ヶ村惣代右万田・村名主新兵衛
より訴親方江加り願上候処、豊後守様御非役二付、
(以下なし)



村上三十郎知行所

相手 名主 喜右衛門

水野石見守知行所

同 名主 庄右衛門

松本兵庫守知行所

同 名主 儀吉初年二付後見

組頭 宇兵衛

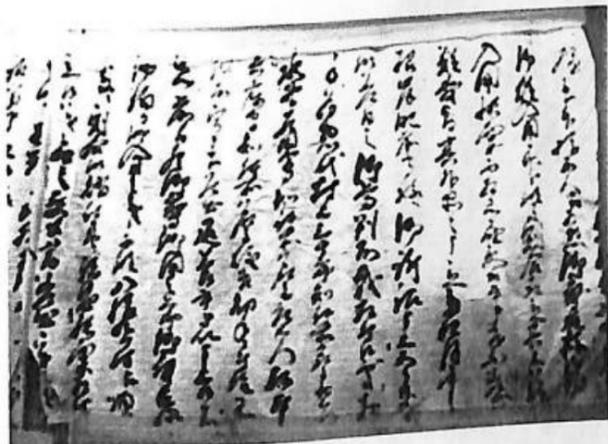
神田紙・組内

中村屋 五右衛門

馬喰丁三丁目

秩父屋 次郎八

御評定所



御用賄の負担

文書：24-67-2
写真：055071
~73

御用向御差支二相成候儀・・・不便儀

右跡賄方義は、難心得奉致候わば、古来之通に候段、
村々八幡村へ罷出、以来御賄并も御用御差支相成候
義、相・出入致・不申候・取締
・奉願候、然ば、疑心も無御座八幡村役人共義茂
承・安心可仕と難有奉存候、右は全ク疑心より事起
り候義と奉存候、偏以來八出・仕候・二段村々へ
被為仰付被下候わば一同難有仕合奉存候、以上

内方鉄五郎御代宣所

水野石見守知行所

岩本内膳正

村上三十郎

松本兵庫預

永井十左衛門

佐野九右衛門

河野善十郎

上総国市原郡八幡村 右八給惣代

村上三十郎知行所

返還人 同村 名主 喜右衛門

水野石見守知行所

同村 名主 彦右衛門



御評定所

松本兵庫守知行所

同村 名主 磯吉初年二付

後見組頭 宇兵衛

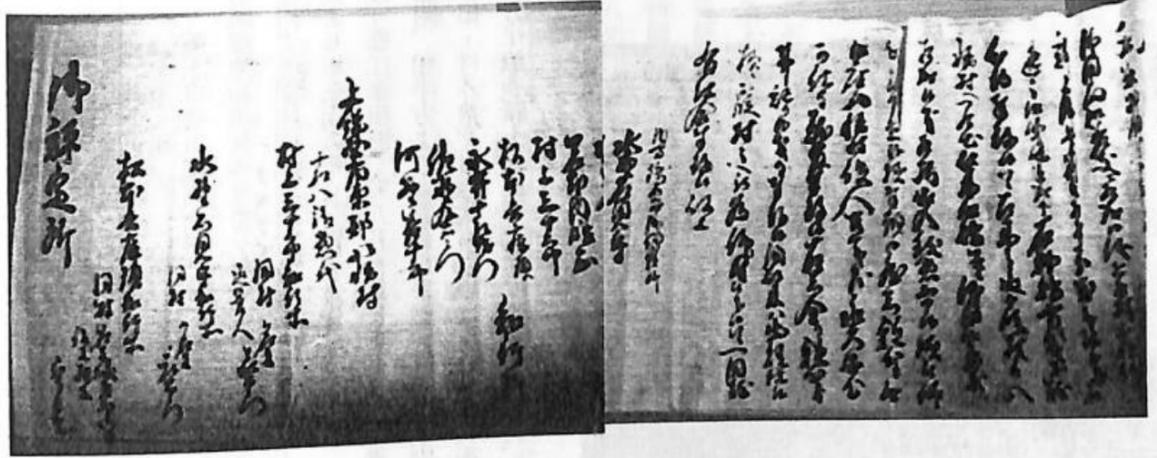


親戚間で田地引渡し争い

相渡申書付之事

一 今般、御地頭所様我亦甥喜兵衛代二致し御訴訟奉申上候儀、一切相頼不申候、且又、寛政十年年七月先庄五郎死去致候節、娘冬扶持田畑譲渡可申候、申付無御座候、其後喜兵衛方江娘冬縁合致、縁二相成候二付、天明五巳年九月金貳拾兩貸遣候処、冬持参金差向遣候処相違無御座候、猶又當四月中我亦大病煩候二付、持参田地半地喜兵衛女房冬女江相讓可申由、申聞候、其節白紙つめ印致遣候、尤庄五郎儀、不考不・之始末毛頭無御座候、為後日書付相渡し申處仍而如件

文書：19-47-13
写真：047046



田地相続に関わる願出

文書：19-24
写真：046041

被仰付被下置候わば御田地相続行届一同相助難有仕合奉存候、猶委細之儀ハ乍恐口上にて可奉申上候以上

文政四巳年七月
訴訟人 村上鍋之助知行所
上総国市原郡八幡村
名主 庄五郎 (印)
岩本内膳正様
永井桂次郎様
松平米吉様
佐野藤三郎様
河野鈴太郎様
御役人中様



売掛并立替金の返済を訴える

その一

乍恐以書付御訴訟奉申上候

水野石見守知行所
上総国市原郡八幡村
訴訟人 組頭 喜兵衛

文書：19-95-2
写真：048059
~61

売掛并立替金滞出入
當御知行所
同国同郡同村
相手 名主 庄五郎
文化六巳年より同十四卯年迄
七月迄売掛
一 銭 百貳拾九貫百四拾貳文
金 貳朱銀貳・立替

右訴訟人喜兵衛奉申上候、私儀農業之間、酒商門仕、然ル処相手庄五郎江書面之通、売掛相滞、是迄度々及催促候得共同人儀は、私親類之者故、強而催促茂不致候儀ヲ附込、兎角等閑滞方不仕、且立替金茂、去ル亥年御當地にて売物代二立替遣シ候処、是迄返却不致候二付、無是悲今般奉出訴候、何卒以御慈悲前書滞金錢共早々二濟方仕候様、被仰付被下置度、偏二奉願上候以上
文化十四丑年十月

水野石見守知行所

訴訟人 組頭 喜兵衛

村上鍋之助様 御役人中様

水野石見守知行所
 上総国市原郡八幡村
 一 喜兵衛 喜兵衛
 右 喜兵衛 喜兵衛
 向 喜兵衛 喜兵衛
 一 喜兵衛 喜兵衛
 一 喜兵衛 喜兵衛
 一 喜兵衛 喜兵衛

水野石見守知行所
 上総国市原郡八幡村
 一 喜兵衛 喜兵衛
 右 喜兵衛 喜兵衛
 向 喜兵衛 喜兵衛
 一 喜兵衛 喜兵衛
 一 喜兵衛 喜兵衛
 一 喜兵衛 喜兵衛

売掛并立替金の返済を訴える

その二

差上申済口証文之事

上総国市原郡八幡村名主庄五郎母辺ん代兼同村組頭
 喜兵衛より右庄五郎江相掛不法売掛ケ立替金滞出入
 十月中當御屋敷様江奉出訴候処、相手庄五郎被召出
 御糾之上、掛合被仰付候二付、扱人立入掛合之上、
 熟談内済仕候趣意左ニ奉申上候

一 右出入扱人立入、双方・と承知候処、先年喜兵衛親喜平次残石二字若宮堤外五ヶ所にて、田畑屋敷地共反別五反五畝権六分同人姉辺ん扶持方として先庄五郎方江持参、同人妻と成、存生中、寛政十年年當庄五郎妹ふ由喜兵衛妻二娶、依而は重縁二付、一同対談之上、喜平次方より持参し田畑屋敷共喜兵衛江相返候答にて、翌未年婚姻結、先庄五郎無・相果其後二・當庄五郎儀右地所不相返、徳米も不相送度々掛合にても取放不申候二付、及出訴候処、今般掛合之上、右地所は不殘帰村之上、喜兵衛方江差戻、且別訴状売掛滞高金拾兩銭百貳拾九貫百四拾貳文之儀は、喜兵衛方より庄五郎方江之貸用、尤此内庄五郎より喜兵衛方江貸金有之二付、此度扱人立入双方取調勘定いたし候処

喜兵衛方より金拾兩貳朱余出金可致勘定二相見候二

付、別紙差入田畑未年より子年取作徳米之儀は、扱人貰受且辺ん儀庄五郎氣隨之取斗之様、喜兵衛江頼一札相渡、出訴為致候得共女之儀殊々老衰および種々逆ひ候儀は、畢竟両家共相統相成候様致度、人事にて全庄五郎氣隨之意違無之段、相分り、向後兄弟相互ニ睦敷仕至極納得之上、熟談内済仕、偏御威光ニ難有仕合奉存候、然上は、右一件二付、重而御願筋手随無御座、依之連印済口証文差上候処如件

文化十四丑年十二月十九日

水野石見守知行所
 上総国市原郡八幡村
 訴訟人 組頭 喜兵衛
 御知行所 同国同郡同村
 相手 名主 庄五郎

村上鍋之助様御役人中様

前書之通、円熟相整済口証文差上候二付、御年貢小作米証文金売掛其外諸勘定向ホ逸々取調差引いたし、今般喜兵衛方より庄五郎方江別紙証文差入候外二は、勘定向双方にて一切取引無御座、為念以奥書為取替・以上

丑十二月

右 喜兵衛 (印)

取扱人 源右衛門 (印)
 " 権八 (印)
 " 山下兵部 (印)
 " 平野屋 源八
 代 長右衛門 (印)
 庄五郎殿

水野石見守知行所
 上総国市原郡八幡村
 一 喜兵衛 喜兵衛
 右 喜兵衛 喜兵衛
 向 喜兵衛 喜兵衛
 一 喜兵衛 喜兵衛
 一 喜兵衛 喜兵衛
 一 喜兵衛 喜兵衛

Handwritten text in vertical columns, likely a document or letter. The text is dense and written in a cursive style.

Handwritten text in vertical columns, continuing the document or letter. The text is dense and written in a cursive style.

Handwritten text in vertical columns, likely a document or letter. The text is dense and written in a cursive style.

Handwritten text in vertical columns, likely a document or letter. The text is dense and written in a cursive style.

文化十四丑年 願人 喜兵衛 願書写

売掛并立替金の返済を訴える
その二

文書：30-78-32
写真：058086
~8

乍恐以書付御訴訟奉申上候

當御知行所

上総国市原郡八幡村
名主 庄五郎母辺ん

煩二付同人甥

水野石見守様知行所

同国同郡同村

訴訟人 組頭 喜兵衛

不法出入

當御知行所

同国同郡同村

相手 右 庄五郎

右訴訟人喜兵衛奉申上候辺ん儀 私親喜平次姉にて
當五拾八ヶ年前宝曆十辰年相手庄五郎親庄五郎方江
婚姻いたし同人妻と罷成 其刻辺ん義親喜平次越右
所持致居候、當御知行所前之地所字若宮堤外五ヶ所
にて田畑屋敷地共含反別五反五畝拾六歩扶持方とし
て庄五郎方江持參致、旧来相統罷在、殊二先庄五郎
存生中、寛政十午年同人娘冬義、私妻二娶可申、依
而は重縁と成、辺ん持參致候前書五反歩余之地所、
(以下略)

Handwritten text in vertical columns, likely a document or letter. The text is dense and written in a cursive style.

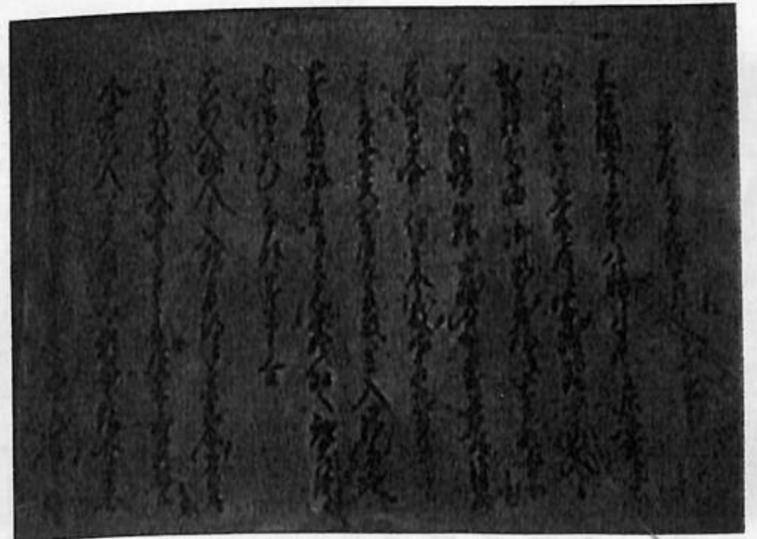
頼母子掛金に関わる出入り
その一

文書：19-41-7
写真：047021

差上申濟口証文之事

上総国市原郡八幡村名主庄五郎より同村医師養庵江相掛り理不尽出入之旨、出訴仕度當御屋敷様江奉願上候処、岩本内膳正様江御掛合二相成養庵・罷成懸合被仰付、今般御相給惣代・名主平右衛門出府仕取扱二立入御日延奉願上、双方江意見差加へ、熟談内濟市趣意左二奉申上候

一 右出入扱金入双方得旨・・・養庵方頼母子会主二名主庄五郎儀頼母子満会集金貳拾貳兩貳分式朱余之所、當日入用之方(以下なし)



頼母子掛金に関わる出入り
その二

文書：19-60
写真：047066
~8

金老両二五兩都合六兩養庵方江相渡候儀を養庵方にては右金之内五兩は、礼と相心得、違之儀は扱人貫請、右金は頼母子當日入用と相極殘金拾六兩貳分式朱銀五匁は庄五郎方江請取置候処、養庵儀心得違にて當月十日夜同人儀世話人名主徳右衛門外式人同道にて庄五郎宅江罷越、彼是口論の上、庄五郎江手疵為負候段、全心得違二付、別紙一札差入、且庄五郎手疵請・用いたし右・礼之儀は其場合・立会候もの共取斗候・且双方勘定(以下なし)

一 帰村之上、立会・勘定いたし遣取皆済可・・・其外憤り之儀・扱金受聊無申方至極得心之上、熟談内濟二偏御威光と雖有仕合奉得共、然ル上は右一件二付重而御・・・無御座候、依之為後・濟口証文差上申所如件

文化九年七月

訴訟人 當御知行所

上総国市原郡八幡村
名主 庄五郎(印)
差添人 組頭 清次郎(印)
相手 岩本内膳正知行所

同国同郡同村

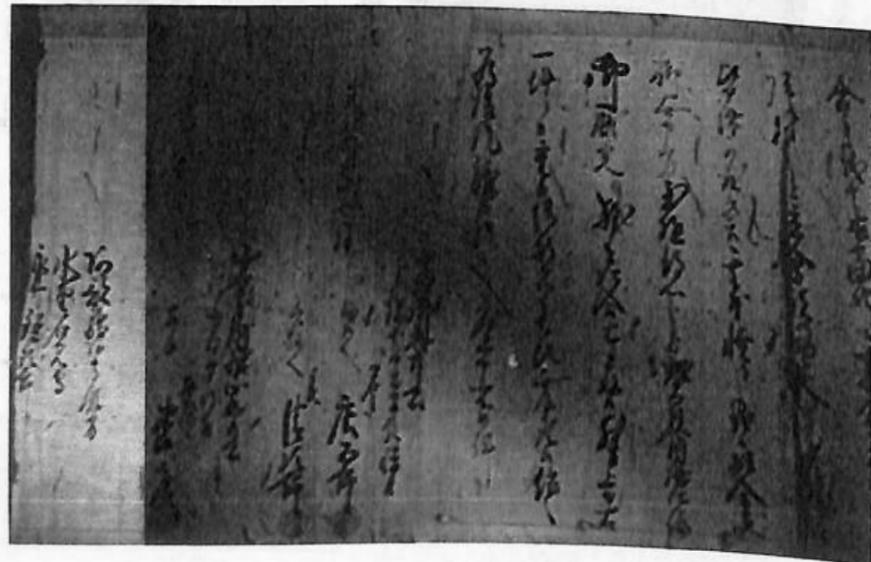
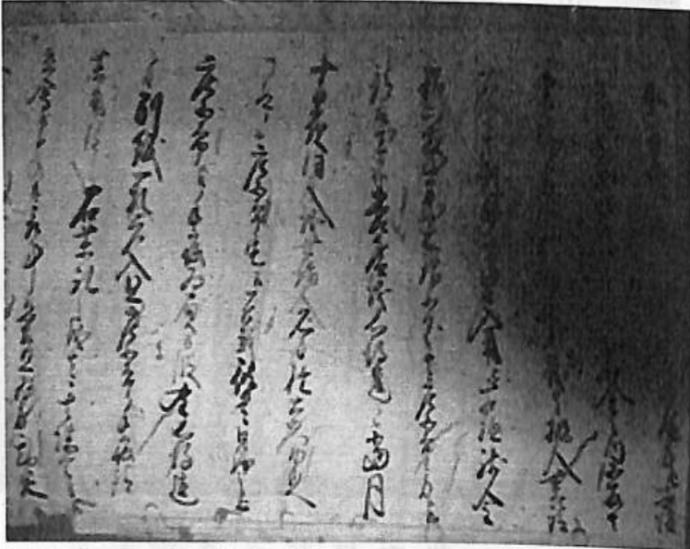
医師 養庵(印)

差添人 組頭 又吉(印)

阿部銀次守領方

水野石見守

永井銚次郎



頼母子掛金に関わる出入り
その三

文書：19-62
写真：047069

一札之事

我亦会主先月二十三日頼母子集金貴殿方江請取置候内、借用仕度當月十日夜名主権左衛門外式人連余り品々至案いたし其上貴殿江疵付候二付、御出訴可被成間、其御地頭所江奉願上候処、今般御相給惣代・平右衛門殿御取扱二立入同人を以、情之相詫候処、御承知被下忝仕合奉得候、尤貴殿御立腹二付、村役人より養庵儀遠慮為致、且頼母子集金貳拾貳兩貳分式朱銀五匁之内、金老両二三兩貳兩都合金六兩八頼母子當日入用ニ養庵方江請取置候儀は、相違無之同人義、貴殿方借用も有之、勘定合之儀は、帰村之上、方立会諸勘定いたし遣取(以下なし)



頼母子掛金に関わる出入り
その五

文書：19-70
写真：047082

皆済可致候依之託一札如件
文化九申年七月

當人 八幡村 医師 養庵 (印)
組頭 又吉 (印)
扱人 六給惣代
名主 平右衛門 (印)
同村 名主 庄五郎殿



頼母子掛金に関わる出入り
その四

文書：19-69
写真：047079
~81

為取替申一札之事

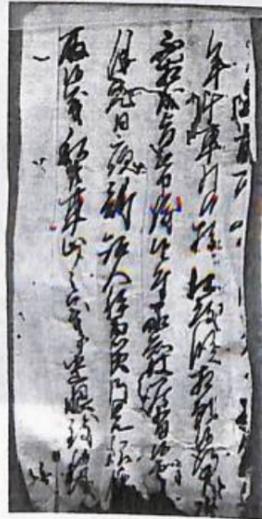
一 貴殿方、年来懇意取請候二付頼母子・
之遣取勘定之儀、有之候所、双方勘定間違之義有之、
各々御地頭所迄及出訴之所、當村六給御役人為惣代
名主平右衛門殿取扱二被在上り右勘定間違之儀、帰
村之上、相納可申候段申立候二付、双方熟談仕、帰
村之上取納仕候・是迄之諸勘定向一式明白二相分之
所、相違無御座候、然上は、後日如件様之書附出候
共取用申間敷候、為後証為取替一札・如件
文化九年申八月 日

養庵 (印)
扱人 平右衛門 (印)
庄五郎殿

訴訟人 伊惣次

文書：19-79
写真：048013

年斗車引候様二仕度段、相願候得共・不相成旨被申
渡候二付、承知仕居有候処、月・日夜、訴訟人伊惣
次・様・取候義、私共車・メ之義ヲ遣恨致候儀



評定所の呼出状

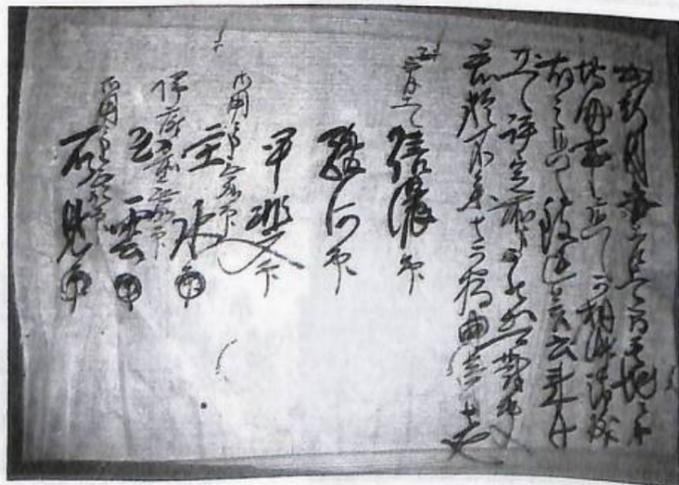
文書：22-103-1
写真：053039
~61

出訴・差上候間、其地にて・事二候わば可相済
滞儀有之候わば致返答書来月二十一日評定所江罷出
可対聞、若・不参は可為曲事・也

子六月十一日
信濃 (印)
駿河 (印)
甲斐 (印)



御用方之加印 主水 (印)
歸府前無加印 出雲 (印)
御用方之加印 石見 (印)



不法申立への掛合を相談

文書：24-67-1
写真：055067

態々以使一輪呈上仕候秋是末過辺候得共
御・館皆々様益活機嫌繁趣御仕・南山陳は許元・家
一同無・儀罷在候間、乍恐御休意與可被成候
・又、過日近・人・不法申立候由、御・
奉推・追々家事不取締にて、日種々甚・之様子
二御座候、左候其子供・任不便被存、案心不仕右二
付御出府被成、何・掛合仕法附仕度候間、速御出
府相願候、先日之御様子承り候得共御見限り御・村
可有之、乍併御同様肉縁



村役人を貸金出入で訴える

(萬藏の件 その一)

文書：22-94-3
写真：053012

乍恐以書付御訴訟奉申上候

堀江町三丁目 元七地借

勝蔵野節住・二付

病臥人 萬藏煩二付

訴訟人 百姓 甚兵衛

貸金諸出入

村上三十郎知行所

上総国市原郡八幡村

年寄 嘉平次

相手 名主 由次郎

組頭 利七郎・
藤七郎

百姓代 吉三郎

百姓代 吉三郎



(萬藏の件 その二)

文久二戌年証文

文書：22-108
写真：053058

同国夷隅郡上布施村

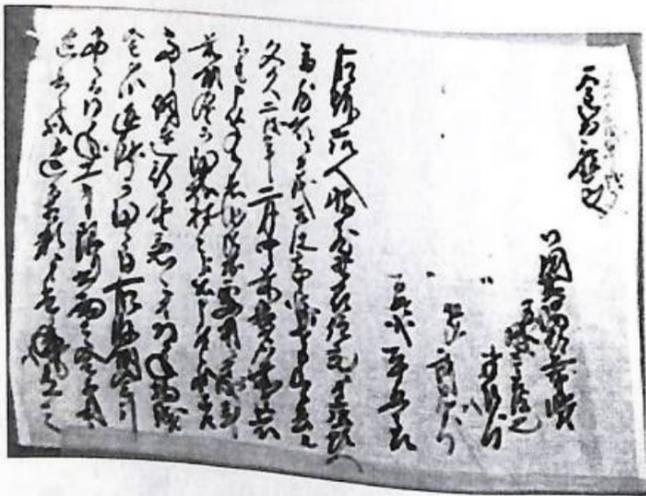
名主 周太郎

後見 半左衛門

組頭 所左衛門

百姓代 平五郎

右訴訟人：住宅二付、庄頭へ萬藏煩二・代召仕：
奉申上候、去ル文久二戌年二月中前書名前之者にて
も申聞候者地頭所要用二付、戌年前納分可致様、村々
江被申付候処、差當り調達行届急々二付、同年物成
金ヲ以返済可致候間、右收納金引当にて同年十一月
限り書面之金子用違負候様、達而相頼み候共、相違
も有之



出府諸訴用扣帳 (元治二己丑年)

文書：22-4
写真：051050



無戸籍を届け、戸籍作成を申請する

文書：20-16
写真：050063

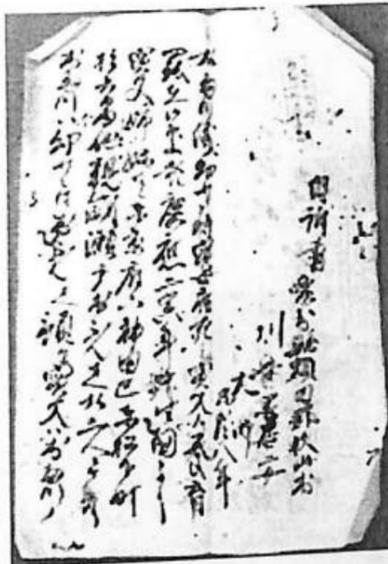
自訴書

愛知県額田郡秋山村

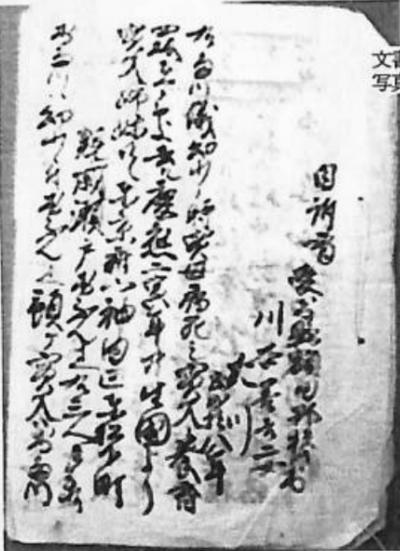
川本善吉二女

た津 當式拾八年

右多津儀幼少ノ時、実母病死し、実父ノ養育罷在候
と頃、去ル慶應二寅年中生国より実父姉妹なく、東
京府下神田区東松下町拾六番地親戚瀬戸おふん方へ
右三人ニテ参り、お多川ハ幼少ニ付おふん方へ預け
実父ハお多川ノ...



文書：30-80-1
写真：059049



自訴状(原稿)

千葉県平民

上総国市原郡八幡村

山中四郎吉

何年何ヶ月

妻 多つ

文久元年何月生

右四郎吉・テ奉自訴候、私儀明治二十一
年何月何日某ノ媒酌ヲ以テ前書タツナル者ト結婚致
し候、然ルニ妻タツハ東京府下神田区東松下町拾六
番地瀬戸婦ん方附籍ノ趣ニ付、同人方へ送籍可致具
旨及掛合候処、豈函ラン、タツ儀ハ瀬戸婦ん方附籍
ノ者ニ無之、元愛知県下額田郡秋山村川本善吉二女

右 山中四郎吉印

タツ 印

文書：30-84-b
写真：059058

公証消失のため、残債ないことの
確認を求める

文書：30-84-a
写真：059056
~57

前書之通明治八年七月四日下総国千葉郡北生実村大
堀又七方ヨリ借用シ同九年四月二十八日元利返金仕
當時旧公証為消失願可仕候、テ其手続ヲ為サズ、依
然本日迄存シ有之候儀ハ甚夕恐入候得共、何卒特別
以仁恤ヲ、右公証御取消被下度此妻奉願候也

明治貳拾貳年三月十五日

下総国千葉郡北生実村
金子借用人・・・印
誤テ

千葉治安裁判所御中

第貳百三拾三号 明治八年七月十四日

戸長三枚八十郎取扱

一 下総国千葉郡濱野村之内第貳百番字高繩

古新田老反式七老步 但地価方年拾貳円三銭

一 第貳百二十八番

古新畑拾七步 但 年百六十銭

一 第貳百二十九番写口所

新畑田成六七二十五步但 年貳拾四四銭

一 第貳百十番販治作

下田成九步 但 年拾五銭

一 第貳百一番写口所

下田老畝式十九步 但 九十八銭
第五百十式番字同所 但 九十六銭
下田老畝式十八步

一 第四百四十式番字同所

下田式七十六步 地換金百二十六銭

一 第五百九十八番

下田三七七步 同 百六十一銭

合反別

此書入借用金八拾四也

但明治八年七月四日ヨリ九年四月五日迄
書入老ヶ月金貳拾四二付二十五銭利足

金子借主 鹿野三左衛門
北生実村 村田村
大堀又七



裁判所 催告状

期日呼出状及答弁書催告状

原告 中村善左衛門
被告 宮吉長五郎外四十四人

大正十一年十二月十八日

千葉地方裁判所
被告 寺島久次郎殿

文書：3-73-1
写真：4875

